

---

加東市男女共同参画市民アンケート  
調査結果報告書

---

令和5年2月  
兵庫県 加東市

# 目次

I	調査の概要	1
1.	調査の目的	1
2.	調査の方法	1
3.	回収状況	1
4.	調査結果の見方	1
II	調査結果の概要	2
1	男女共同参画の現状	2
2	家庭生活における男女共同参画	2
3	子育てにおける男女共同参画	2
4	労働における男女平等の推進	2
5	仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の推進	3
6	地域生活における男女共同参画	3
7	男女共同参画社会づくりのための行政の役割	4
III	調査結果の詳細	5
1.	回答者について	5
2.	男女平等、役割分担について	10
3.	働き方・女性の活躍について	57
4.	セクシュアル・ハラスメントについて	82
5.	LGBTQ について	86
6.	男女共同参画社会の実現について	88
IV	自由意見（抜粋）	101
1.	男女の地位等について	101
2.	社会環境等の改善について	103
3.	DV、セクシュアル・ハラスメント、差別、偏見について	105
4.	教育、意識について	105
5.	市への要望	107
6.	その他	108

# I 調査の概要

## 1. 調査の目的

令和元年度から令和5年度を計画期間とする「第3次加東市男女共同プラン」の改定にあたり、市民の男女共同参画に関する意識や意向、ニーズを把握し、「第4次加東市男女共同参画プラン」の基礎資料とするため、アンケートを実施しました。

## 2. 調査の方法

- (1) 調査地域：加東市全域
- (2) 調査対象者：令和4年9月16日現在18歳以上の市民
- (3) 発送数：4,000人
- (4) 調査方法：郵送による配付、郵送による回収またはインターネット回答
- (5) 調査期間：令和4年10月3日～令和4年11月4日

## 3. 回収状況

- (1) 回収数：1,436件（内、インターネット回答数168件）
- (2) 有効回収率：35.9%

## 4. 調査結果の見方

- (1) 回答は、各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（%）で示している。小数点以下第2位を四捨五入しているため、比率の合計が100.0%にならない場合がある。
- (2) 複数回答を求めた質問では、回答比率の合計が100.0%を超える。
- (3) 回答があっても、小数点以下第2位を四捨五入して0.1%に満たない場合は、図表には「0.0」と表記している。
- (4) 図表において、回答選択肢を簡略化して表記している場合がある。

## II 調査結果の概要

### 1 男女共同参画の現状

各分野別に男女の平等感をみると、「地域活動で（リーダー的立場の比率、役割分担など）」、「職場で（採用、業務内容、昇進、昇給、職場環境など）」、「政治（政策決定）の場で」、「社会通念・慣習・しきたりなどで」、「日本の社会全体で」の分野で男性が優遇されていると思う人が過半数となっており、特に「日本の社会全体で」は80.8%と高くなっています。男女が平等になっていると思う人が最も多くなっているのは「学校教育の場で（進学、専攻など）」で、47.9%となっています。

### 2 家庭生活における男女共同参画

「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきだ」という考え方について、全体の20.6%の人が『そう思う』（「そう思う」と「どちらかというと思う」の合計）と回答しており、性別にみると、男性の方が女性に比べて6.3ポイント高くなっています。また、平成29年度調査と比較すると6.0ポイント低くなっており、男女共同参画意識が浸透しつつあることがうかがえます。

一方、家庭での役割については、「家計の管理」、「食事の支度、片付けなどの家事」、「掃除や洗濯などの家事」、「子どもの世話・しつけ」は、『女性』（「主に女性」と「どちらかといえば女性」の和）が担っていると回答した割合が過半数と家庭の仕事の多くを女性が担っており、男性の意識と行動に差があることがわかります。

### 3 子育てにおける男女共同参画

子どもの育て方について、『賛成』（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の和）と回答した割合は、「女の子も男の子も、男女の区別なく経済的に自立できるような教育が必要である」、「男女の区別なく炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせる」とともに95%を超える高い割合となりました。「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てる」については『賛成』の割合が54.3%となっており、性別にみると、女性の『賛成』の割合（46.4%）は、男性（65.4%）を大きく下回っています。また、平成29年度調査と『賛成』の割合を比較しても、14.7ポイント低くなっており、改善傾向にありますが、固定的な性別役割分担意識につながる恐れのある考え方でもあるため、継続して周知、啓発に取り組む必要があります。

### 4 労働における男女平等の推進

回答者の職業をみると、「正社員・正規雇用」の割合が男性では45.5%、女性では21.3%と、常勤で働いている女性は男性と比べて少なくなっています。一方、「パート・アルバイト」の場合は、女性が25.5%、男性が6.0%と、非正規雇用となっている女性が男性と比べて多くなっています。

「職場」における男女平等感は、「男性優遇」が69.1%となっており、平成29年度調査から概ね横ばいに推移しています。

現在、勤めている職場が女性にとって『働きやすい』（「働きやすい」と「どちらかといえば働きやすい」の和）の割合は70.9%となっており、性別でも、女性の『働きやすい』の割合（80.5%）は、男性（60.6%）を大きく上回っています。

女性が働きにくいと思うことについて、性別にみると、女性は「仕事と家庭が両立できる制度が十分整っていない」が最も高く 48.4%、次いで、「仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の雰囲気でない」(37.4%)、「賃金に男女格差がある」(22.3%)と続いています。また、女性が働きやすい環境をつくるために必要なことについて、性別にみると、女性の「男女ともに労働時間を短くしたり、休暇をとりやすくしたりする」が37.7%と3番目に高くなっており、企業に対して女性が働きやすい環境を作るためにも何が必要となるのか、周知を強化することが必要です。

セクシュアル・ハラスメントについて、「自分が直接被害にあったことがある」と回答した割合は9.7%となっており、性別にみると、女性の割合(14.4%)は、男性(3.6%)を大きく上回っています。また、平成29年度調査から、「自分が直接被害にあったことがある」の割合は4.3ポイント、「自分に経験はないが、身近で被害にあった事例を知っている」は4.8ポイント高くなっており、セクシュアル・ハラスメントのない職場環境づくりを進めるため、より一層の広報、啓発活動を行う必要があります。

## 5 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の推進

「ワーク・ライフ・バランス」という言葉について、「聞いたことがある」、「内容も知っていた」と回答した人は58.7%となっており、特に29歳以下、30歳～39歳といった年齢階層でその割合は高くなっています。

生活の中での優先度についてみると、希望では「仕事」と「家庭生活」と「プライベートな時間」のいずれも優先する、「家庭生活」と「プライベートな時間」を優先が、現実の優先度では、「仕事」と「家庭生活」を優先、「家庭生活」を優先の割合が高くなっています。

また、希望の生活別に現状の生活をみると、希望と現実の生活が一致しているのは「仕事」を優先では、90.9%、「家庭生活」を優先では60.5%、「仕事」と「家庭生活」を優先では55.7%となっており、半数以上が希望と現実の生活が一致しています。一方、「プライベートな時間」を優先、「仕事」と「プライベートな時間」を優先、「家庭生活」と「プライベートな時間」を優先、「仕事」と「家庭生活」と「プライベートな時間」のいずれも優先するでは希望と現実の生活が一致している人は半数を下回っており、「仕事」を優先、「仕事」と「家庭生活」を優先と回答した割合が比較的に高くなっており、仕事に優先したい生活を妨げられていることが考えられます。

男性の育児休業や介護休業等の利用促進をすすめるために必要なこととして、「休業しても収入が確保される」が最も高くなっていますが、取得対象の多くを占める男性の30代、40代に着目すると、「休業する人の仕事の代わりをしてくれる人を配置する」の割合がその他の年齢階層に比べて高くなっており、取得対象者のニーズを企業に周知する必要があります。

## 6 地域生活における男女共同参画

区長（自治会長）やPTA会長などの地域の役職に女性が推薦されても断る理由について、「家事・育児や介護に支障がでる」と回答した割合が最も高く46.5%となっており、次いで、「責任が重い」(46.2%)、「女性が役職につくことを快く思わない風習、社会通念がある」(31.1%)と続いています。性別にみると、男性は「責任が重い」の割合(43.0%)が最も高くなっている一方、女性は「家事・育児や介護に支障がでる」の割合(49.6%)が最も高くなっており、男女間の認識にズレが生じている事がわかるとともに、家庭生活での男女共同参画がすすんでいない状況が、女性の地域生活への進出を阻害していることもわかります。

また、地域に残っている言動や習慣について、「区長(自治会長)には男性を選ぶことが当然」(57.2%)、「会合でのお茶出しや準備・片付けなどは、女性が担当することが多い」(44.6%)といった回答がありました。

男女共同参画の視点から必要な防災・災害復興対策について、「避難所の設備(男女別のトイレ、更衣室、洗濯物干場など)」の割合が最も高く65.7%となっており、次いで、「避難所運営の責任者に男女がともに配置され、避難所運営や被災者対策に男女両方の視点が入ること」(60.8%)、「女性用品など性別に応じて必要な物資に対する備えやニーズの把握、支給する際の配慮」(59.8%)と続いています。女性の29歳以下、30歳~39歳では「女性用品など性別に応じて必要な物資に対する備えやニーズの把握、支給する際の配慮」の割合が突出して高くなっています。

## 7 男女共同参画社会づくりのための行政の役割

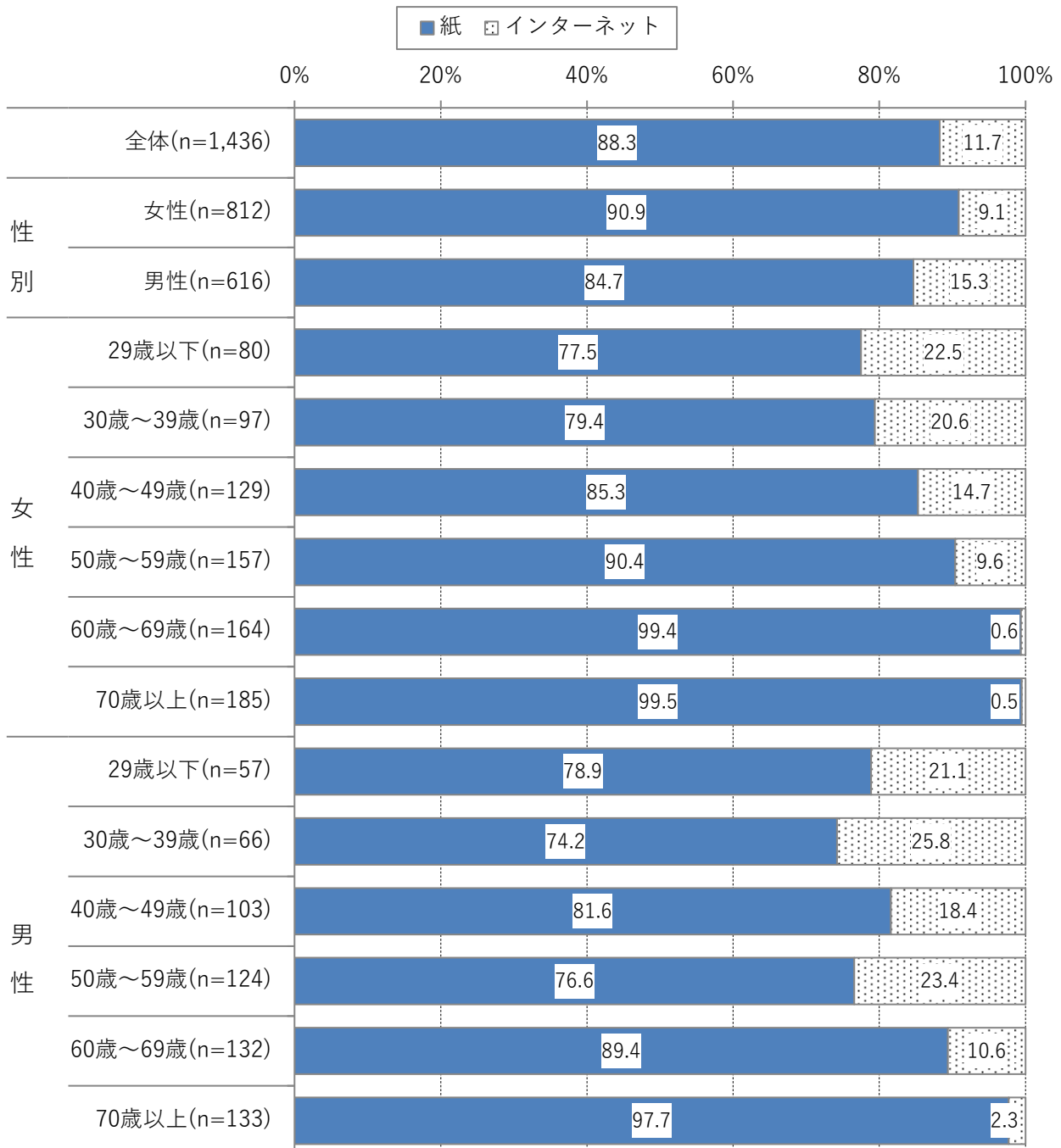
男女共同参画社会を実現するためには、今後、加東市で特に力を入れるべき取組について、「安心して働くための保育・介護のサービスや施設を充実させる」と回答した割合が最も高く47.1%となっています。次いで、「男女の役割に関する偏見や社会慣習、しきたりを改めるための啓発を行う」(41.5%)、「保育園、認定こども園、学校における人権や男女共同参画等の教育を充実させる」(24.6%)と続いています。

平成29年度調査と比較すると、「安心して働くための保育・介護のサービスや施設を充実させる」は5.2ポイント低くなっている一方、「男女の役割に関する偏見や社会慣習、しきたりを改めるための啓発を行う」は6.7ポイント、「児童虐待やセクシュアル・ハラスメントなどに関する女性の相談窓口の周知を図る」は8.2ポイント高くなっており、市民のニーズに即した取組を推進する必要があります。

### Ⅲ 調査結果の詳細

## 1. 回答者について

#### 回答媒体

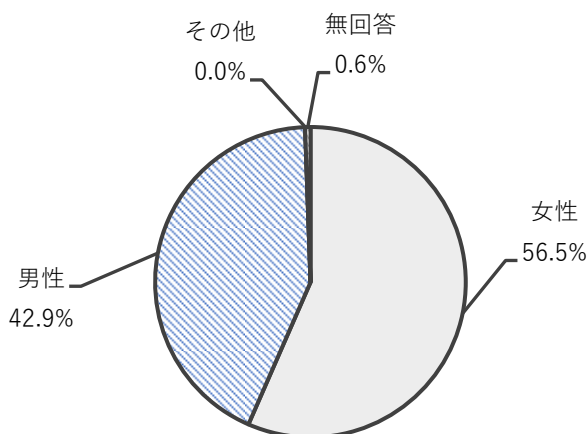


- 回答媒体について、「紙」で回答した人の割合は 88.3%となっています。一方、「インターネット」で回答した人の割合は 11.7%となっています。
- 性別にみると、インターネットで回答した人の割合は男性の方が 6.2 ポイント高くなっています。
- 年齢階層別にみると、多くの年齢階層で大きな差はみられませんが、50歳～59歳のインターネットで回答した人の割合は男性の方が 13.8 ポイント高くなっています。

---

## 1 性別

---



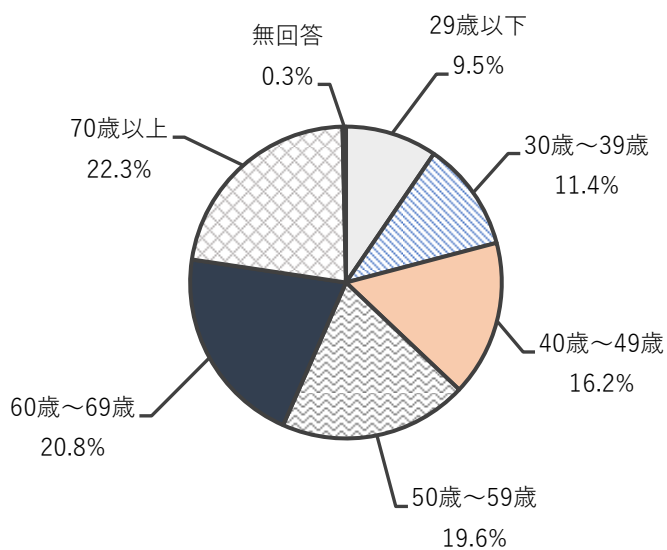
(n=1,436)

- 性別について、「女性」と回答した割合は 56.5%となっています。一方、「男性」と回答した割合は 42.9%となっています。

---

## 2 令和4年4月1日現在のあなたの年齢

---

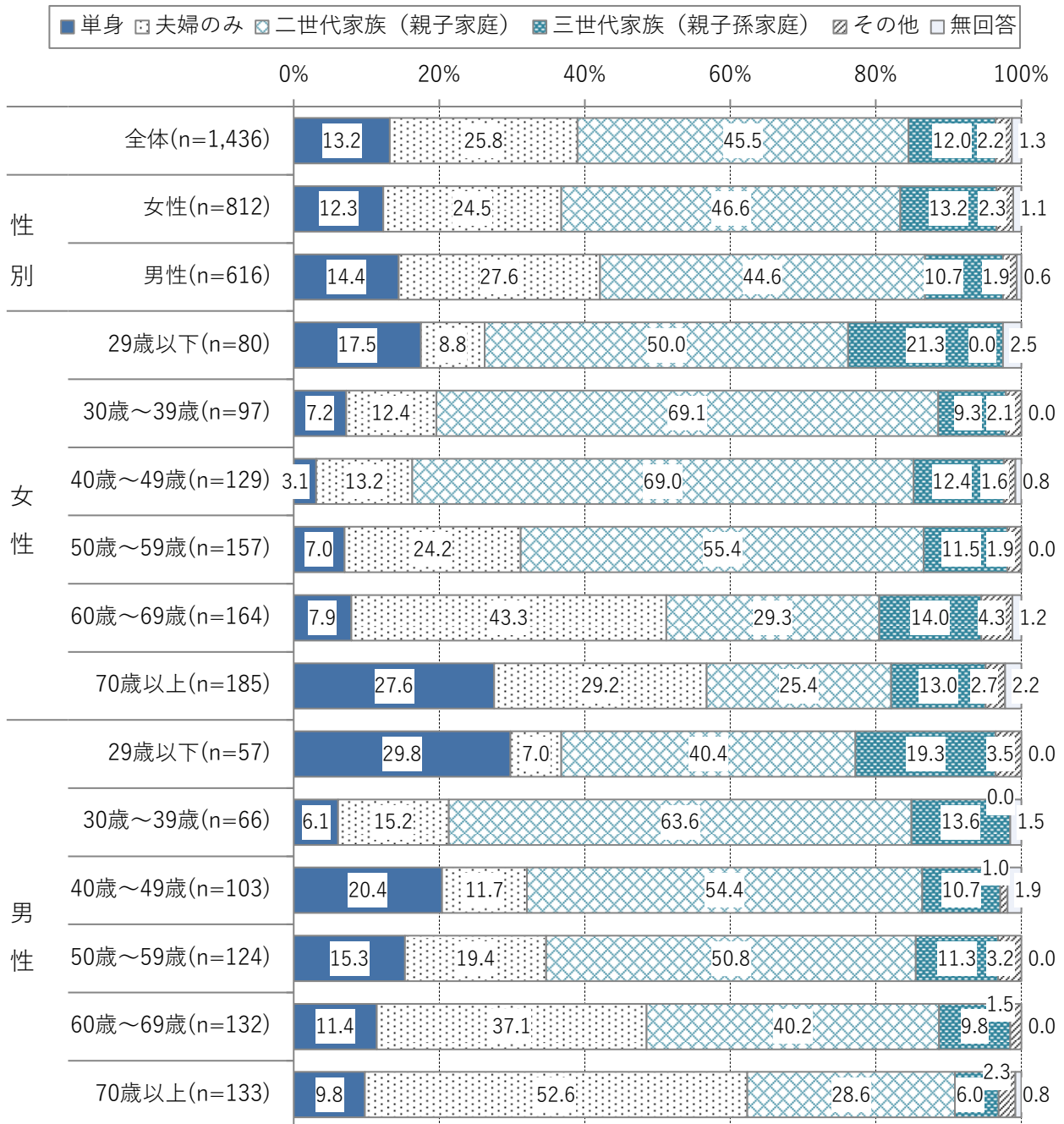


(n=1,436)

- 年齢について、「70歳以上」と回答した割合が最も高く 22.3%となっています。次いで、「60歳~69歳」(20.8%)、「50歳~59歳」(19.6%)と続いています。

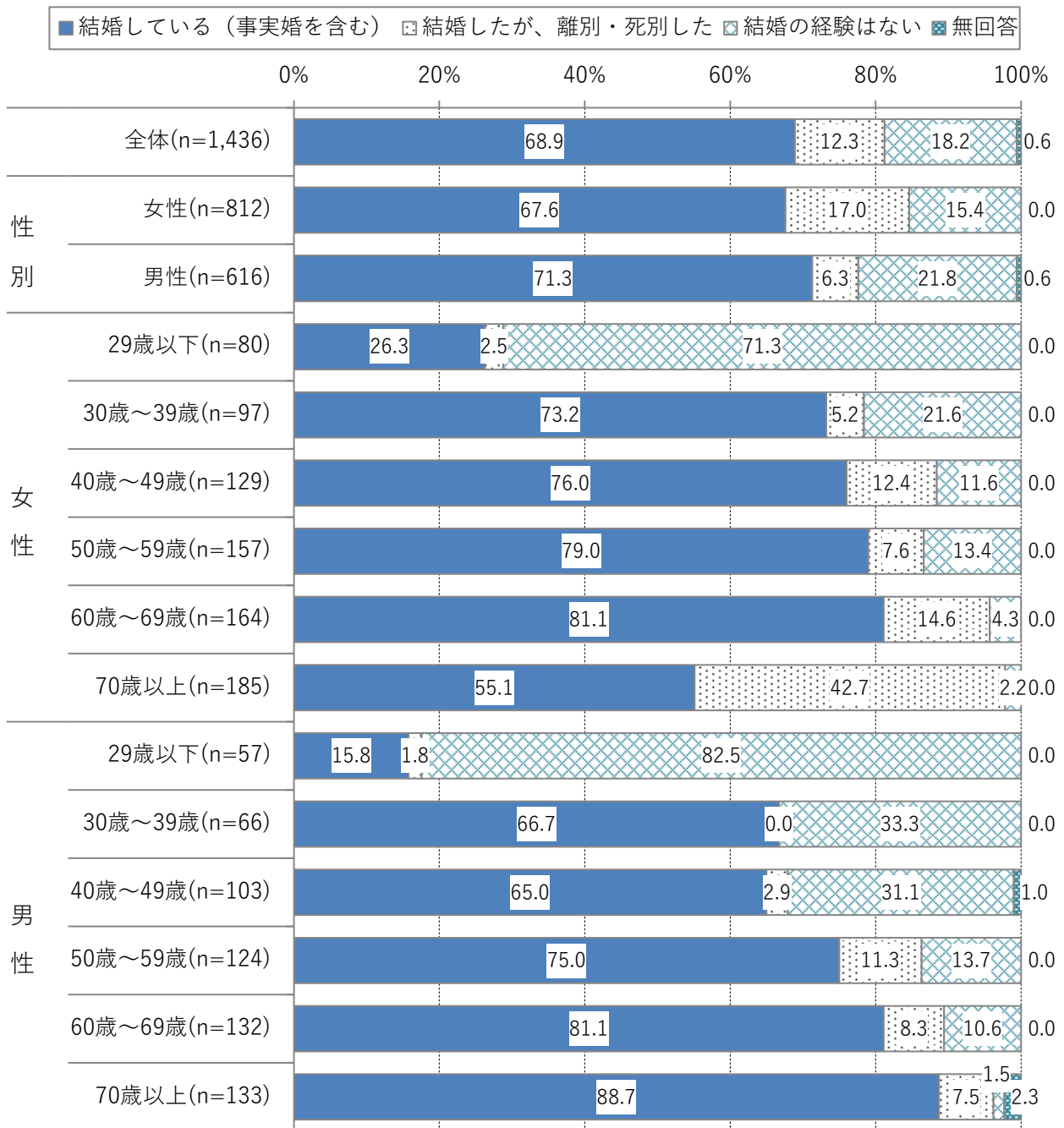


### 3 あなたの家族構成



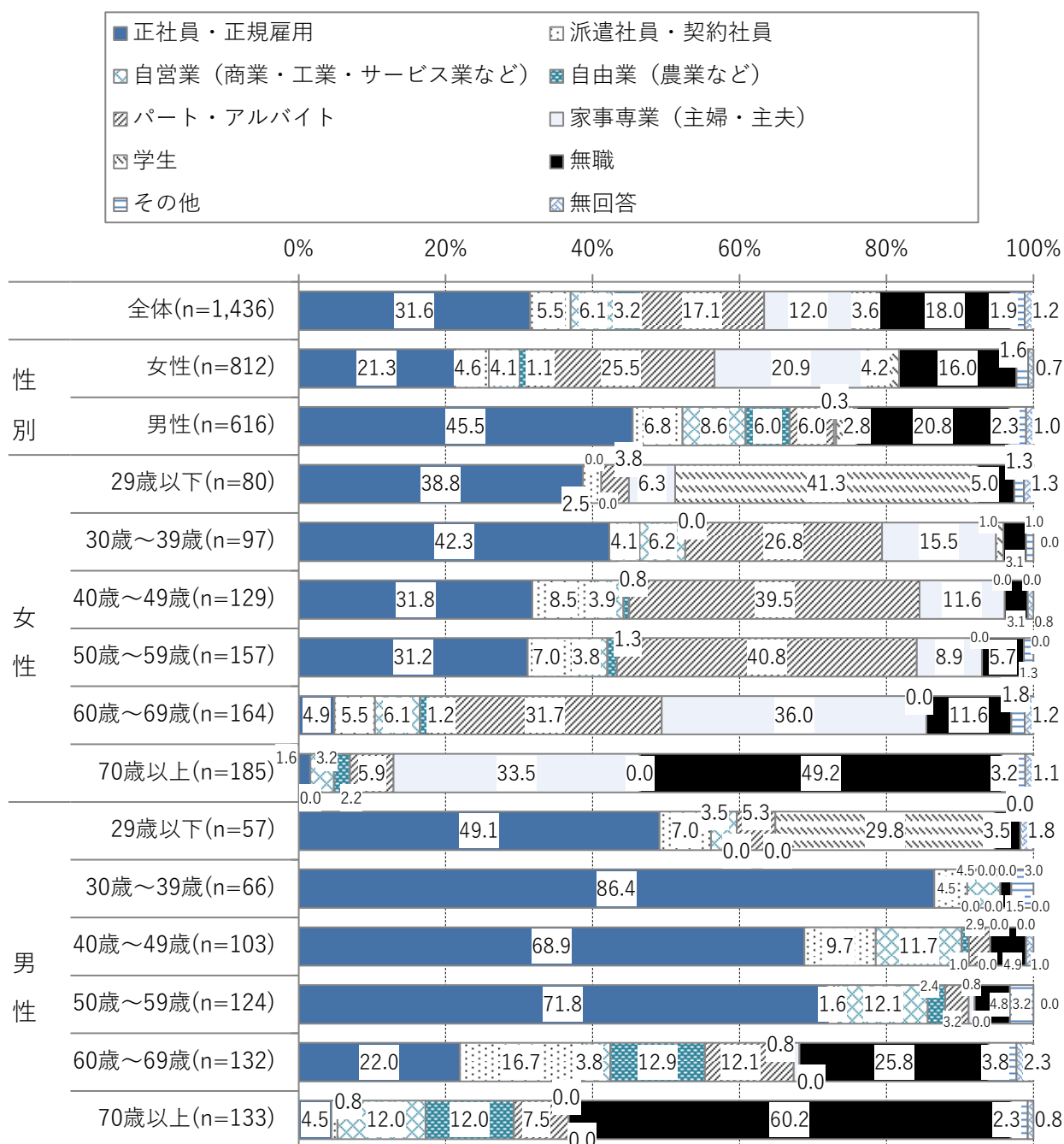
- 家族構成について、「二世世代家族（親子家庭）」と回答した割合が最も高く 45.5%となっています。次いで、「夫婦のみ」（25.8%）、「単身」（13.2%）と続いています。
- 年齢階層別にみると、女性の70歳以上の「単身」の割合が男性の70歳以上に比べて17.8ポイント高くなっています。

#### 4 あなたは結婚されていますか



- 婚姻状況について、「結婚している（事実婚を含む）」と回答した割合が最も高く 68.9%となっています。次いで、「結婚の経験はない」（18.2%）、「結婚したが、離別・死別した」（12.3%）と続いています。
- 性別にみると、女性の「結婚したが、離別・死別した」の割合が男性に比べて 10.7 ポイント高くなっています。
- 年齢階層別にみると、「結婚したが、離別・死別した」の割合は、40歳～49歳では 9.5 ポイント、60歳～69歳では 6.3 ポイント、70歳以上では 35.2 ポイント女性の方が高くなっています。

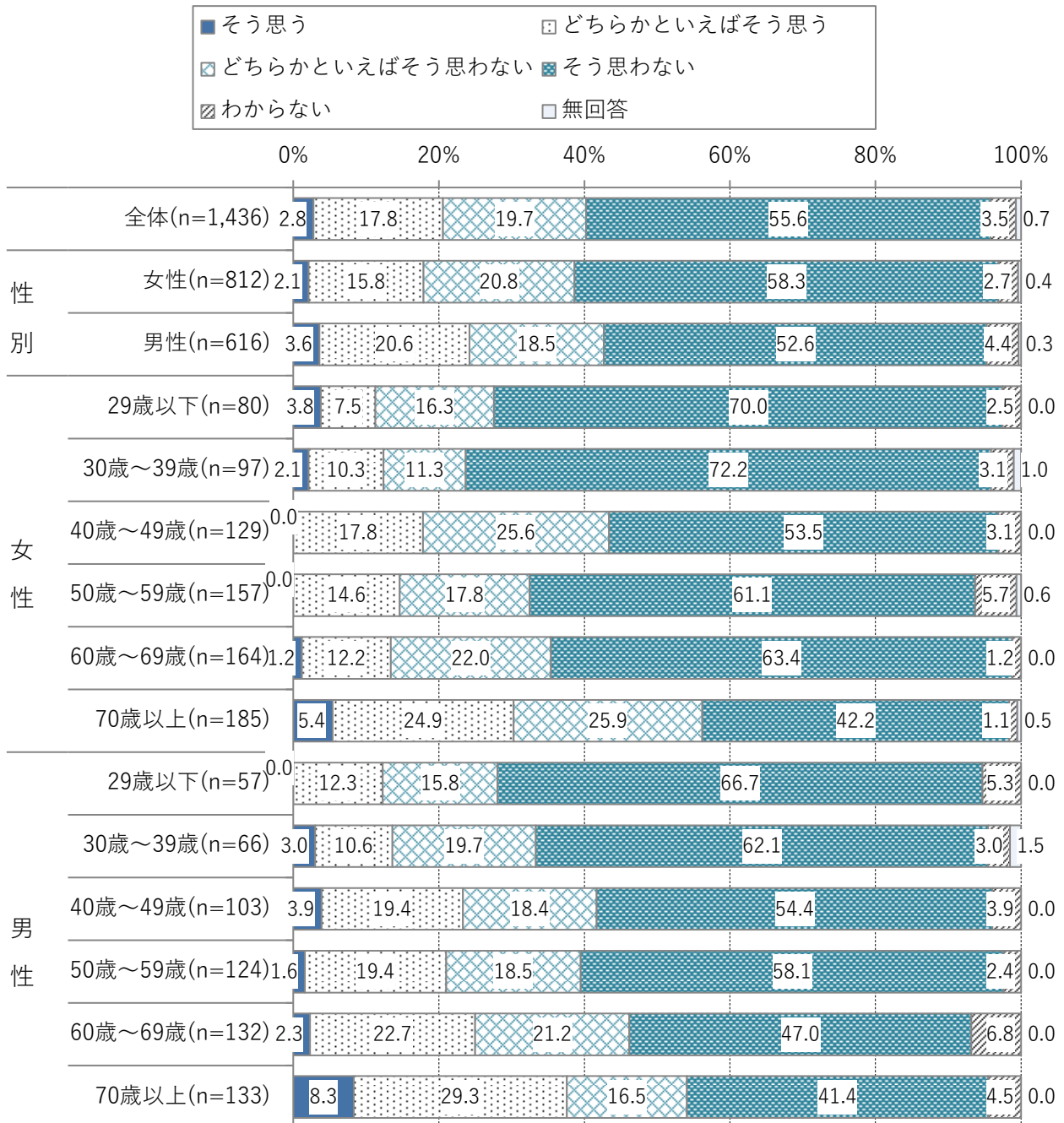
5 あなたの就業形態は次のどれに該当しますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。



- 就業形態について、「正社員・正規雇用」と回答した割合が最も高く 31.6%となっています。次いで、「無職」(18.0%)、「パート・アルバイト」(17.1%)と続いています。
- 性別にみると、女性の「正社員・正規雇用」の割合が男性に比べて 24.2 ポイント低くなっている一方、「パート・アルバイト」の割合は女性の方が 19.5 ポイント高くなっています。
- 年齢階層別にみると、女性の「正社員・正規雇用」の割合は、29歳以下及び30歳~39歳では約4割となっているものの40歳~49歳では31.8%に低下しています。

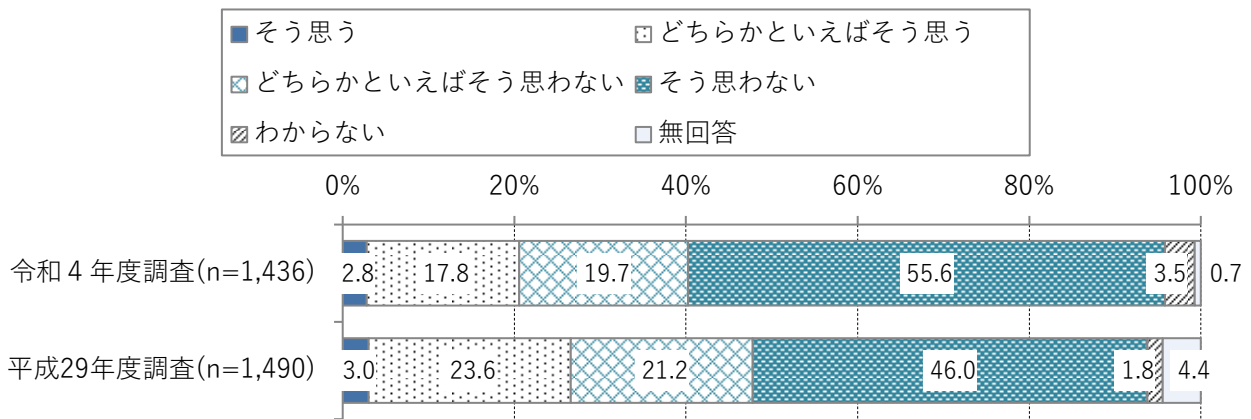
## 2. 男女平等、役割分担について

問1 あなたは、「男は外で働き、女は家庭を守るべき」という考え方について、どのように思いますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。



- 「男は外で働き、女は家庭を守るべき」という考え方について、「そう思わない」と回答した割合が最も高く 55.6% となっています。次いで、「どちらかといえばそう思わない」(19.7%)、「どちらかといえばそう思う」(17.8%) と続いています。
- 性別にみると、男性の『思う』(「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の和)の割合は、女性に比べて 6.3 ポイント高くなっています。
- 年齢階層別にみると、29歳以下及び30歳～39歳の『思う』の割合は、男女間に大きな差は見られないものの40歳～49歳より上の年齢階層では5ポイント以上男性の方が高くなっています。

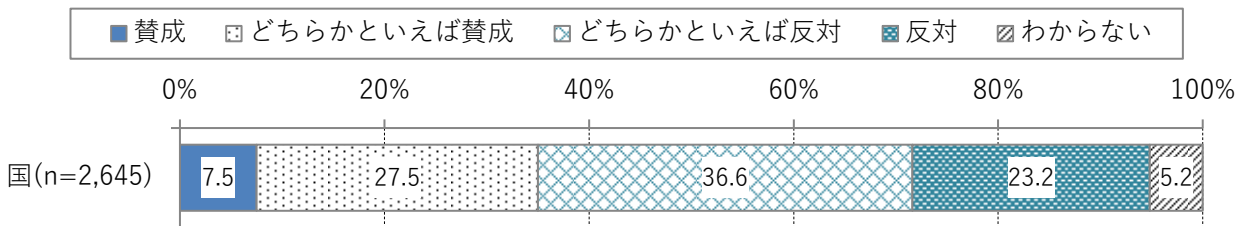
《経年比較》



- 平成 29 年度調査と比較すると、『思う』の割合が 6.0 ポイント低くなっています。

《国の調査結果》

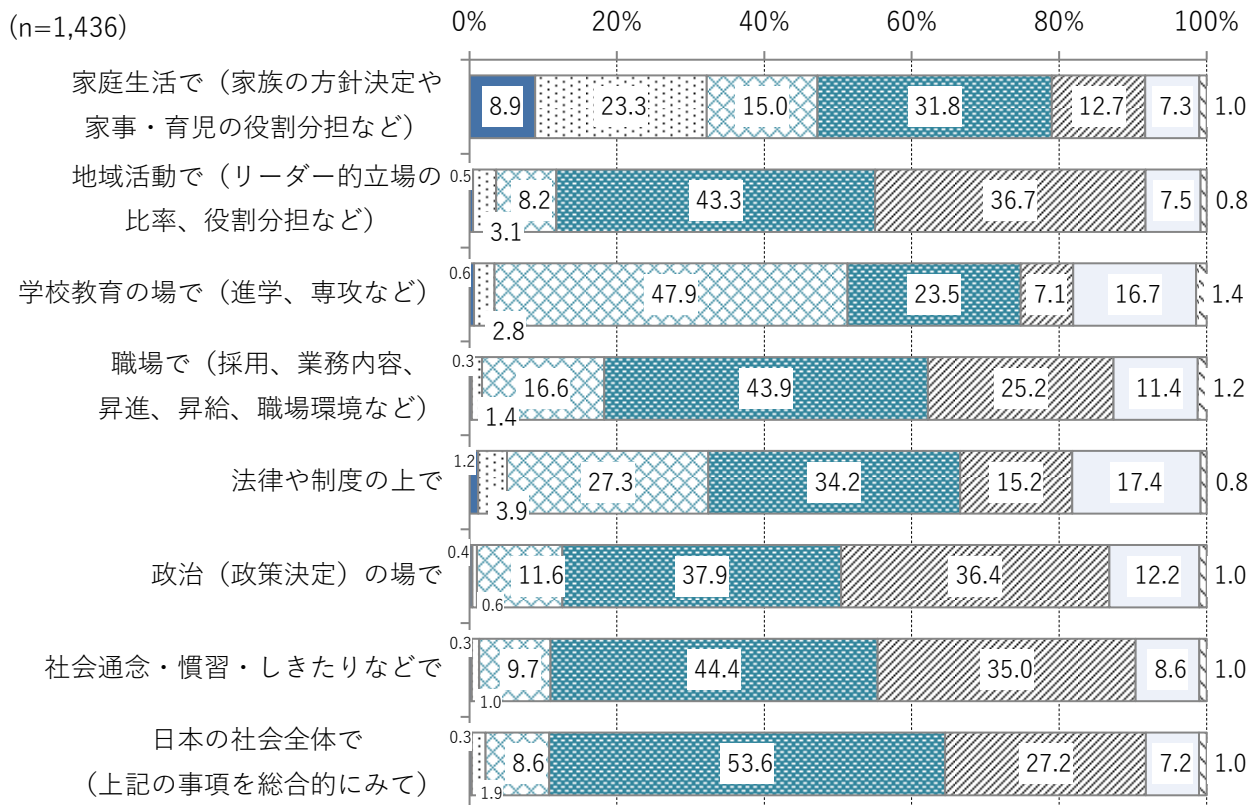
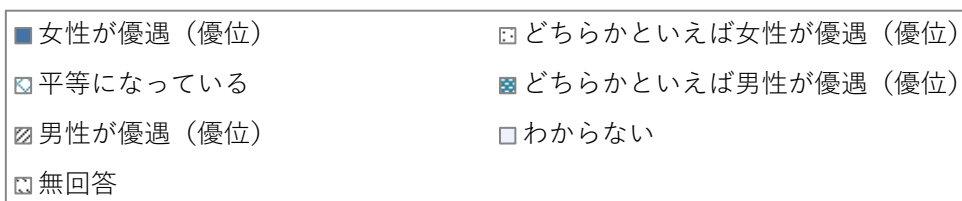
問 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方について、あなたはどうお考えですか。



出典：男女共同参画社会に関する世論調査（令和元年9月）

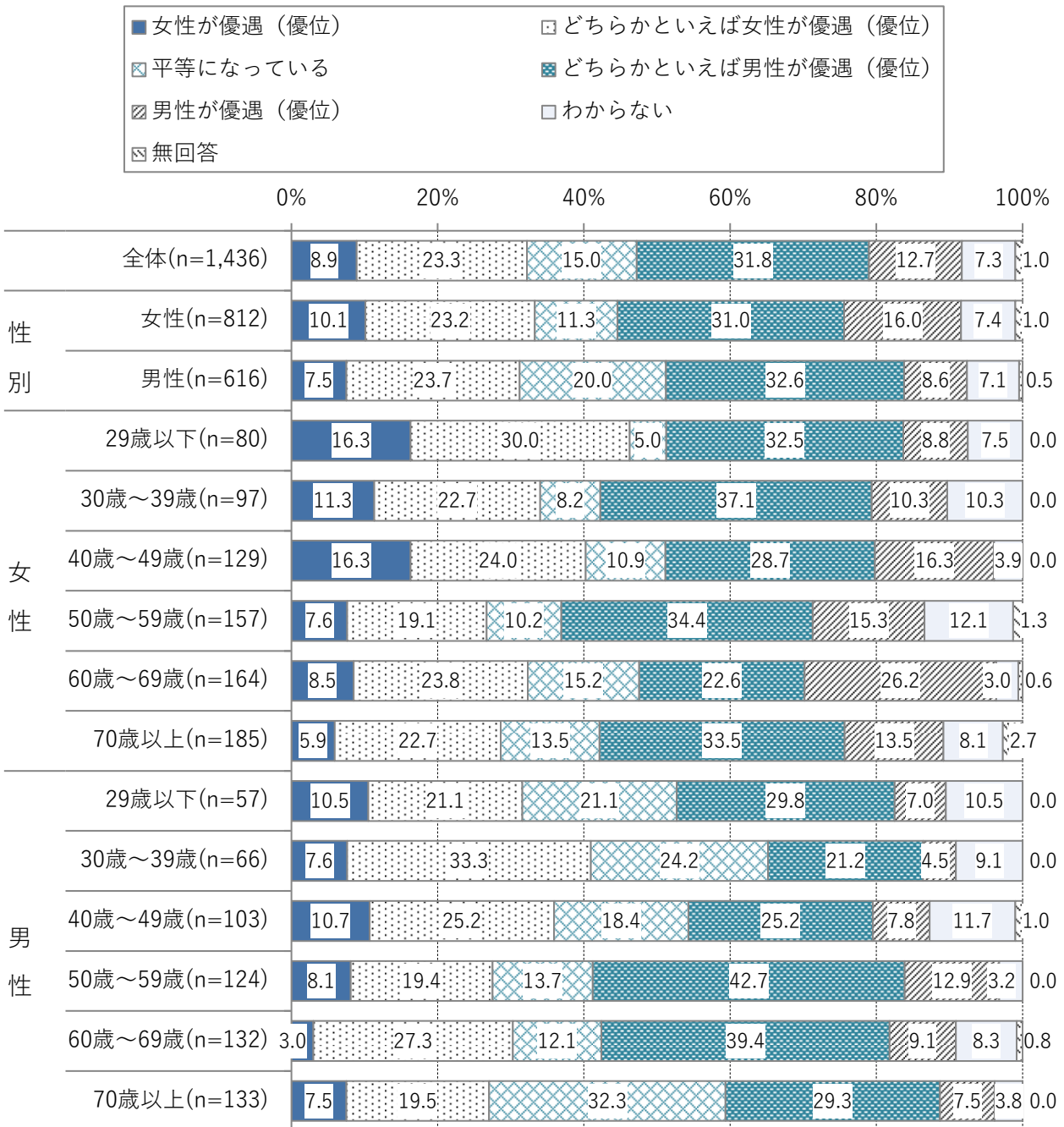
- 国の設問と回答項目が異なるため単純に比較はできないものの、国の『賛成』（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の和）と本市の『思う』を比較すると、本市の方が 14.4 ポイント低くなっています。

問2 あなたは、現在の日本社会でみた場合、男女の地位は平等になっていると感じますか。次の項目それぞれについて、1つずつ選んで番号に○をつけてください。



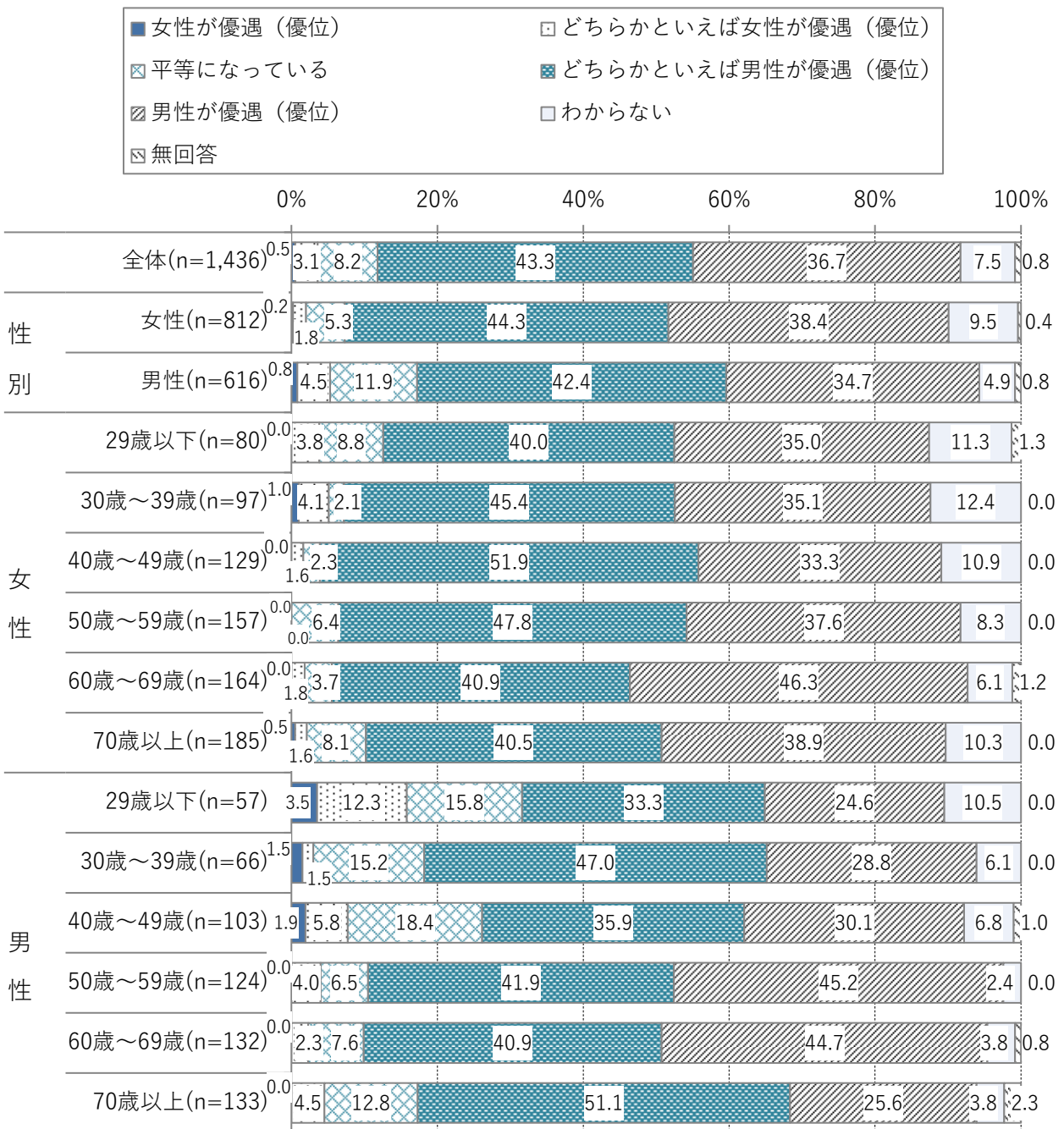
- 各分野の男女の平等感について、平等の割合は「学校教育の場で（進学、専攻など）」が最も高く47.9%となっています。次いで、「法律や制度の上で」（27.3%）、「職場で（採用、業務内容、昇進、昇給、職場環境など）」（16.6%）と続いています。

【家庭生活で（家族の方針決定や家事・育児の役割分担など）】



- 家庭生活の、『女性優遇』（「女性が優遇（優位）」と「どちらかといえば女性が優遇（優位）」の和）と『男性優遇』（「どちらかといえば男性が優遇（優位）」と「男性が優遇（優位）」の和）を比較すると『男性優遇』の方が12.3%高くなっています。
- 性別にみると、女性の『男性優遇』の割合が男性に比べて5.8ポイント高くなっています。
- 年齢階層別にみると、60歳～69歳を除くすべての年齢階層で「平等になっている」の割合は女性に比べて男性が高くなっており、特に70歳以上ではその差が18.8ポイント高くなっています。

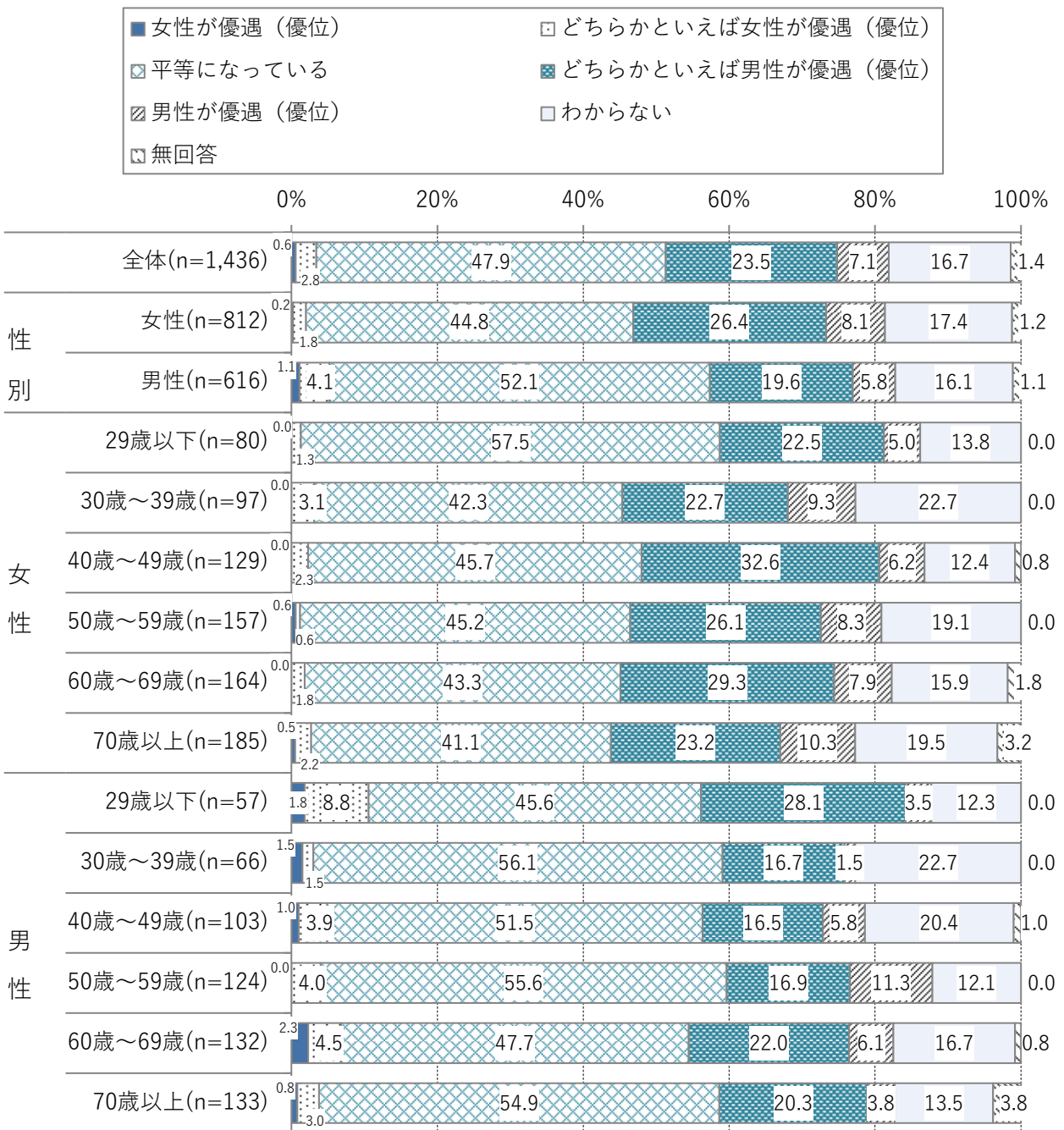
【地域活動で（リーダー的立場の比率、役割分担など）】



- 地域活動の、『女性優遇』と『男性優遇』を比較すると『男性優遇』の方が 76.4%高くなっています。
- 性別にみると、女性の『男性優遇』の割合が男性に比べて 5.6 ポイント高くなっています。
- 年齢階層別にみると、すべての年齢階層で男性の「平等になっている」の割合が女性に比べて高くなっています。

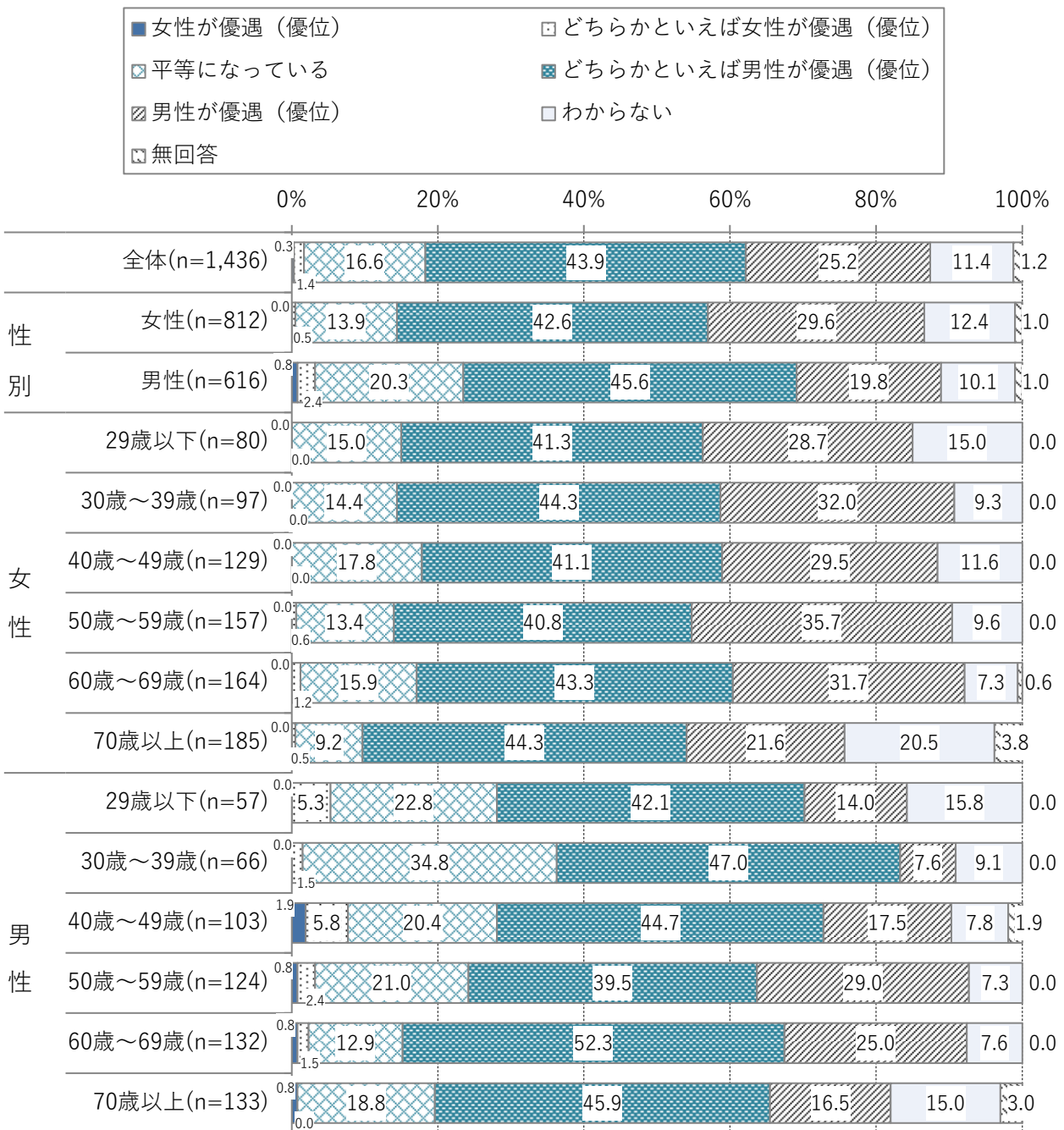


【学校教育の場で（進学、専攻など）】



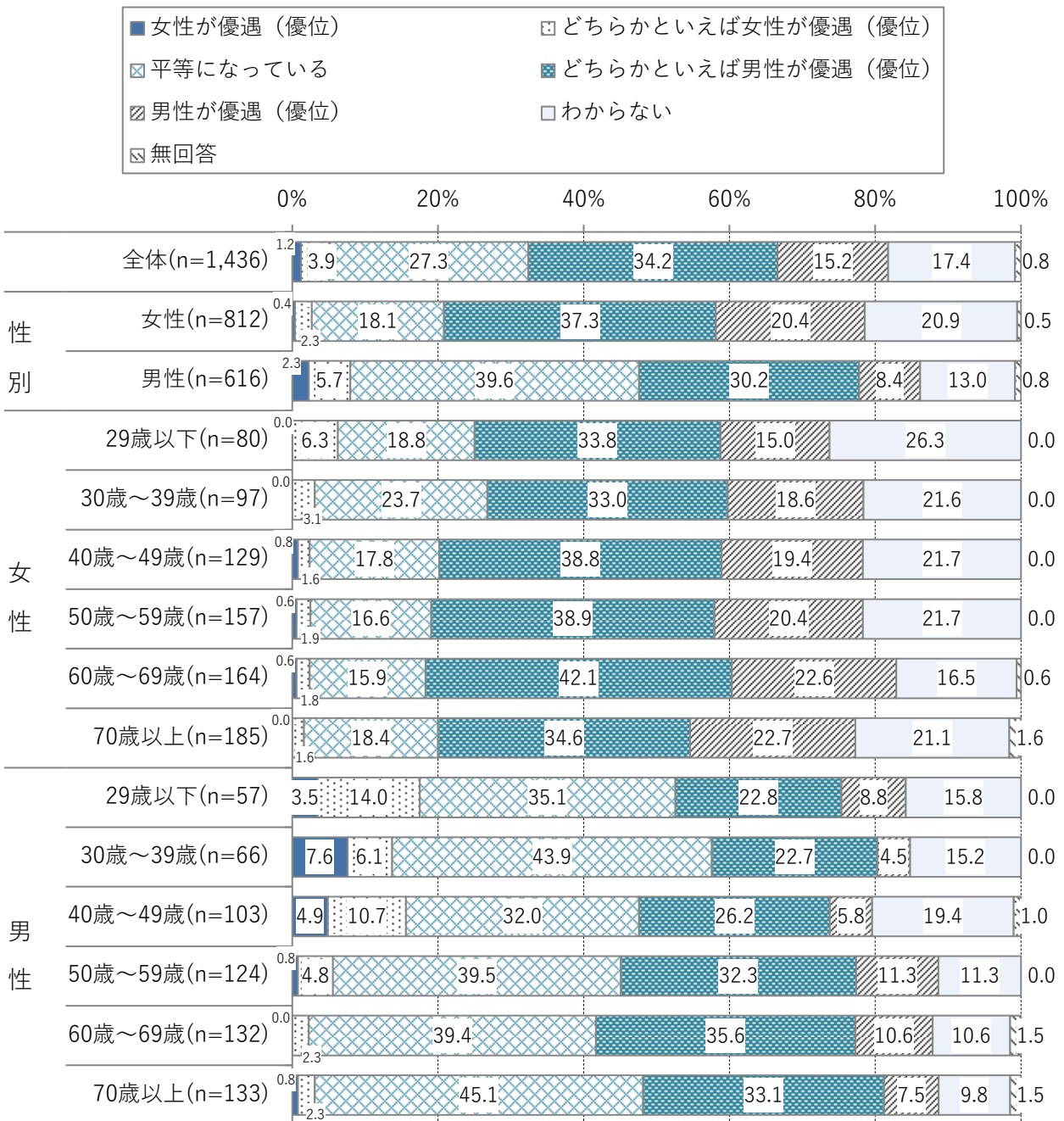
- 学校教育の場の、『女性優遇』と『男性優遇』を比較すると『男性優遇』の方が27.2%高くなっています。
- 性別にみると、女性の『男性優遇』の割合が男性に比べて9.1ポイント高くなっています。
- 年齢階層別にみると、30歳～39歳より上の年齢階層では女性の方が『男性優遇』の割合が高くなっていますが、29歳以下では男性の方が『男性優遇』の割合が高くなっています。

【職場で（採用、業務内容、昇進、昇給、職場環境など）】



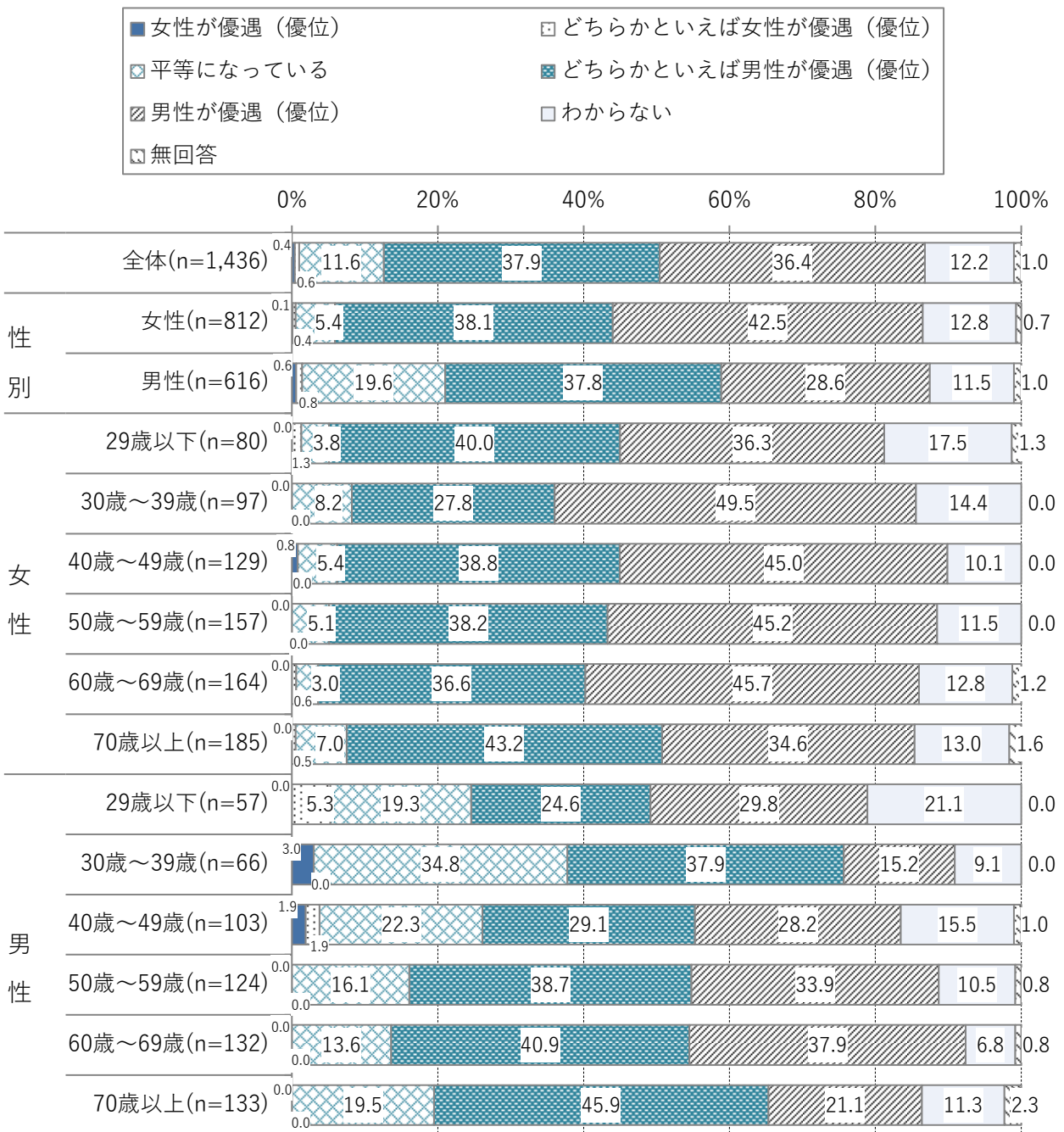
- 職場の、『女性優遇』と『男性優遇』を比較すると『男性優遇』の方が67.4%高くなっています。
- 性別にみると、女性の『男性優遇』の割合が男性に比べて6.8ポイント高くなっています。
- 年齢階層別にみると、60歳～69歳をのぞくすべての年齢階層で「平等になっている」の割合は男性の方が高くなっており、特に30歳～39歳でその差は20.4ポイントと大きくなっています。

【法律や制度の上で】



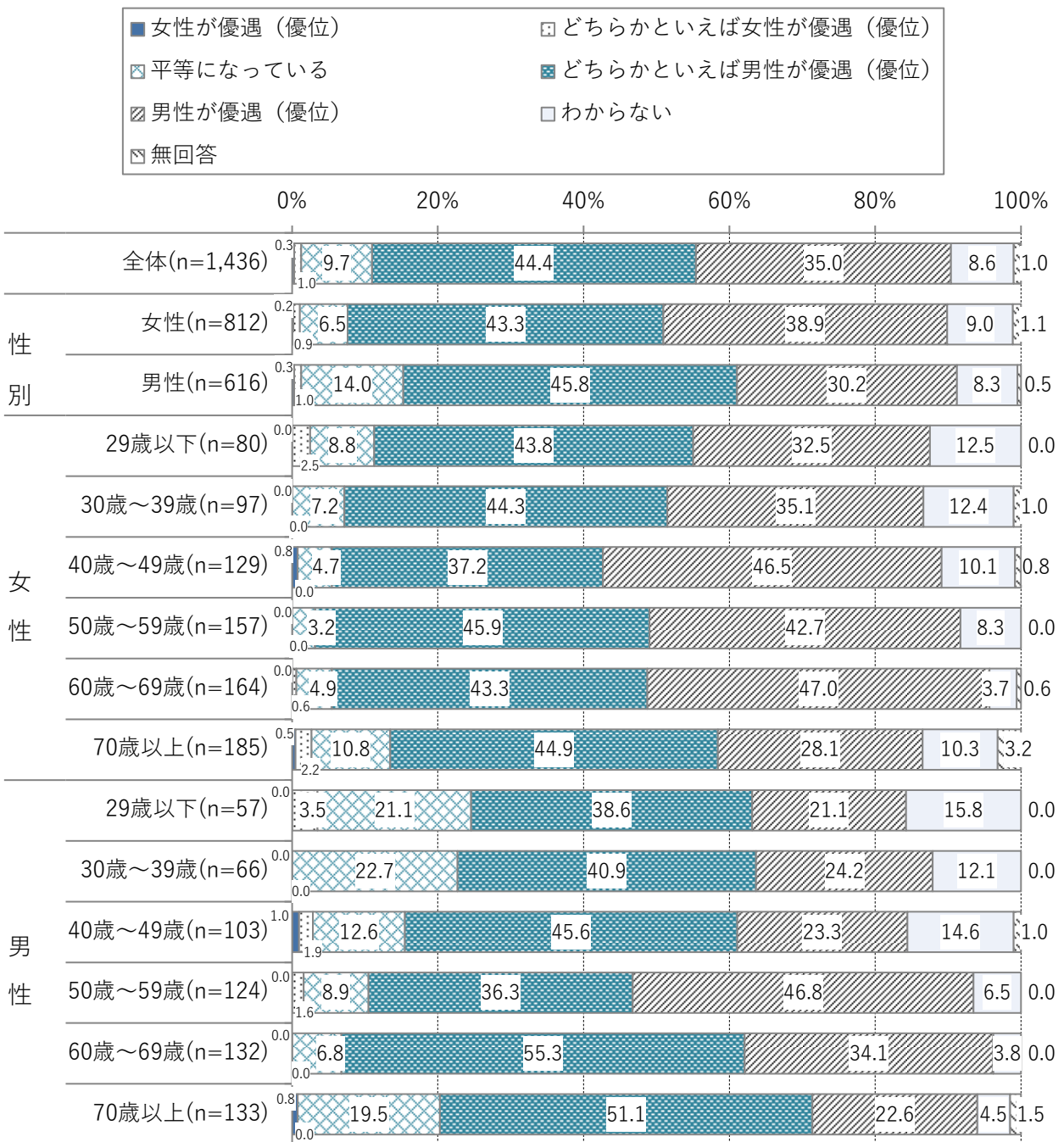
- 法律や制度の上の、『女性優遇』と『男性優遇』を比較すると『男性優遇』の方が44.3%高くなっています。
- 性別にみると、女性の『男性優遇』の割合が男性に比べて19.1ポイント高くなっています。
- 年齢階層別にみると、40歳～49歳より下の年齢階層の『女性優遇』の割合は、男性の方がいずれも10ポイント以上高くなっています。

【政治（政策決定）の場で】



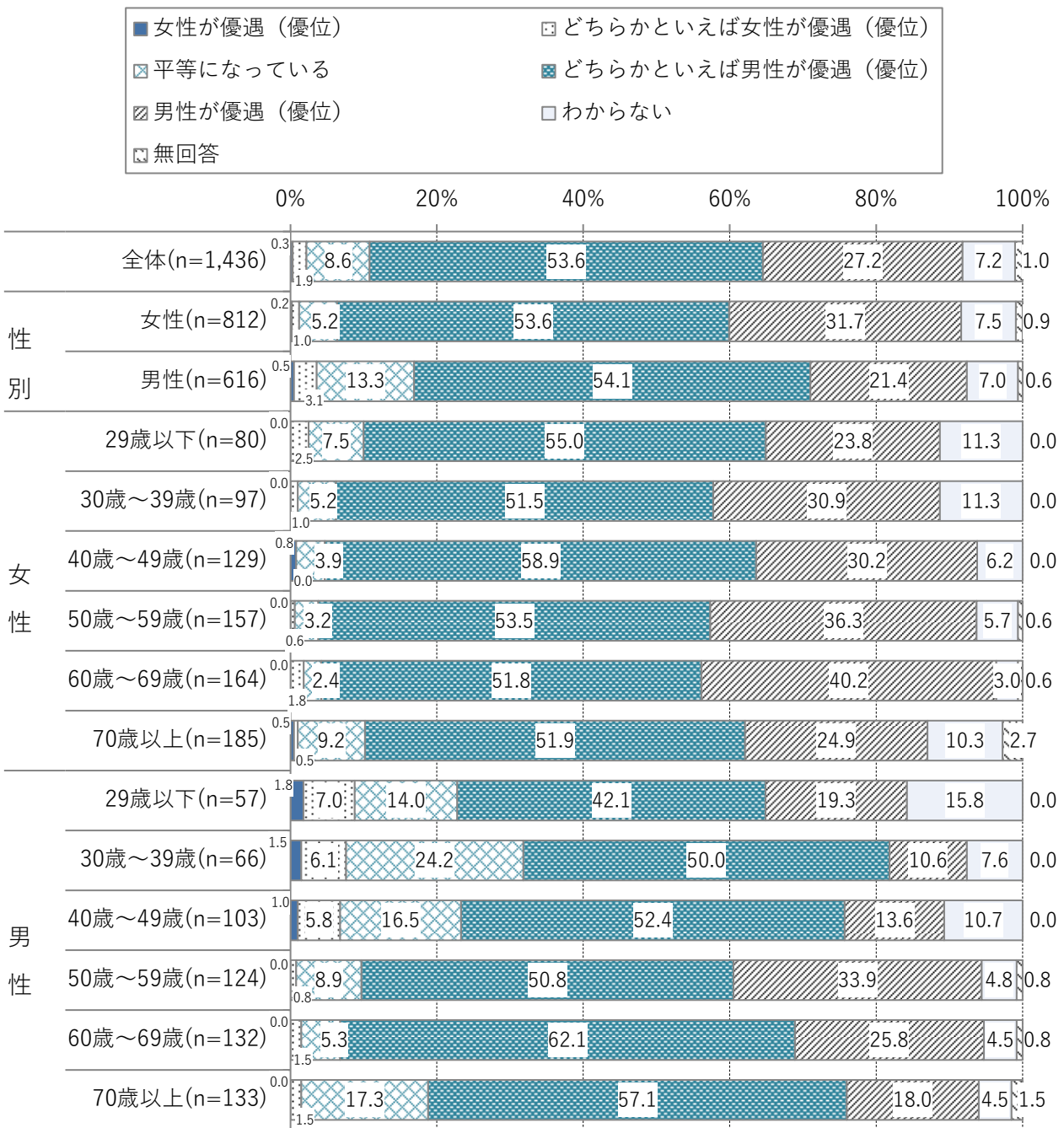
- 政治の場の、『女性優遇』と『男性優遇』を比較すると『男性優遇』の方が 73.3%高くなっています。
- 性別にみると、女性の『男性優遇』の割合が男性に比べて 14.2 ポイント高くなっています。
- 年齢階層別にみると、すべての年齢階層で男性の方が「平等になっている」の割合が高くなっており、特に 30 歳～39 歳でその差は 26.6 ポイントと大きくなっています。

【社会通念・慣習・しきたりなどで】



- 社会通念・慣習・しきたりなどの、『女性優遇』と『男性優遇』を比較すると『男性優遇』の方が78.1%高くなっています。
- 性別にみると、女性の『男性優遇』の割合が男性に比べて6.2ポイント高くなっています。
- 年齢階層別にみると、すべての年齢階層で男性の方が「平等になっている」の割合が高くなっており、その差は29歳以下で12.3ポイント、30歳~39歳で15.5ポイントとその他の年齢階層に比べて大きくなっています。

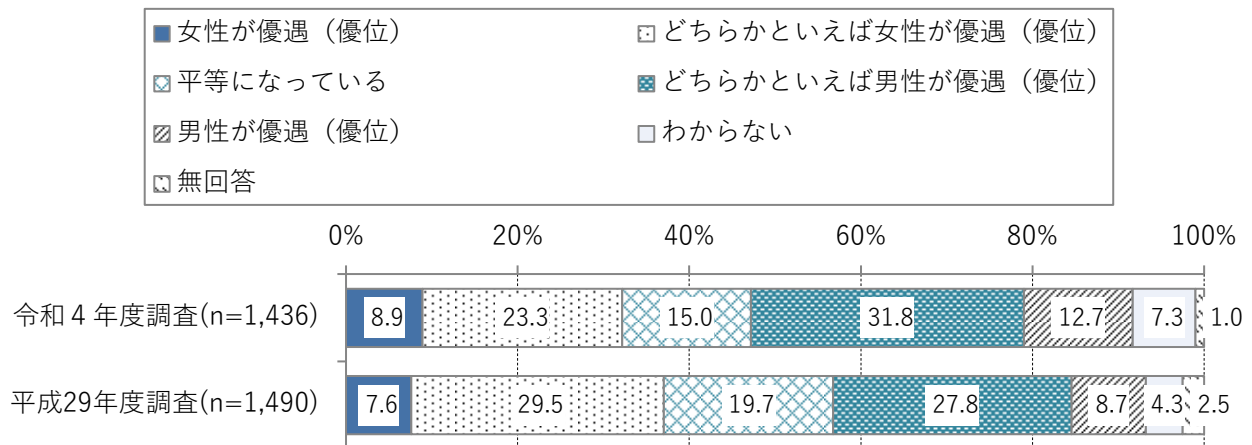
【日本の社会全体で】



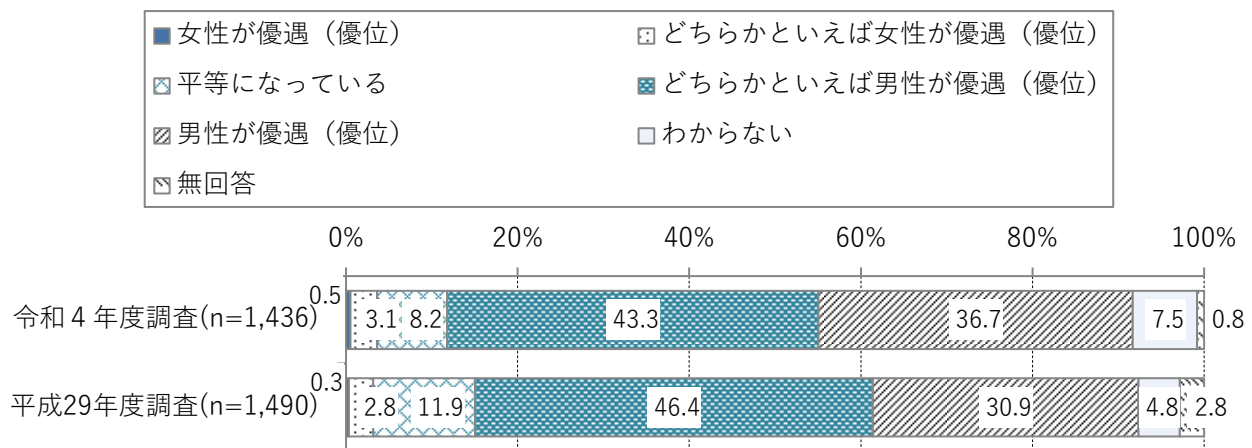
- 日本の社会全体の、『女性優遇』と『男性優遇』を比較すると『男性優遇』の方が78.6%高くなっています。
- 性別にみると、女性の『男性優遇』の割合が男性に比べて9.8ポイント高くなっています。
- 年齢階層別にみると、すべての年齢階層で男性の方が「平等になっている」の割合が高くなっており、特に30歳~39歳でその差は19.0ポイントと大きくなっています。

《経年比較》

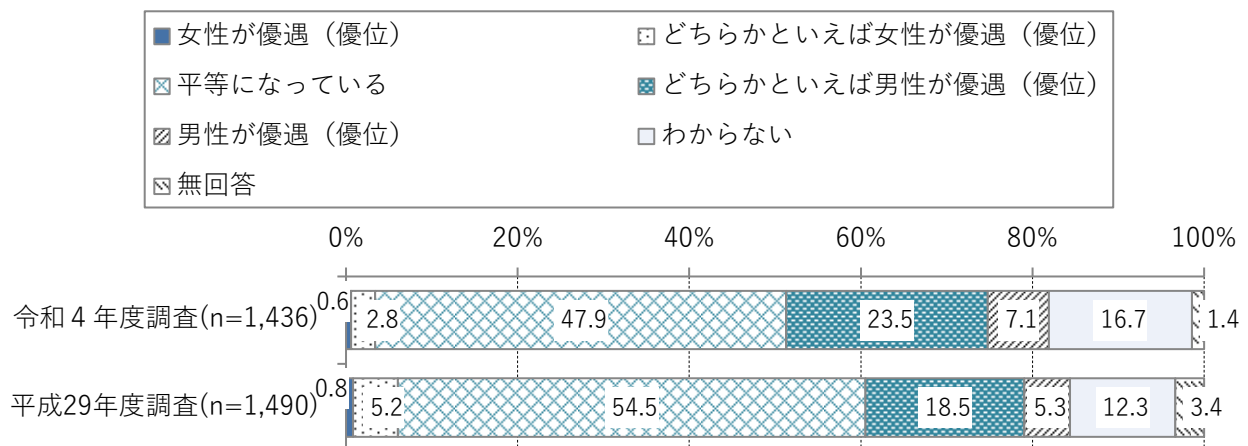
【家庭生活中で（家族の方針決定や家事・育児の役割分担など）】



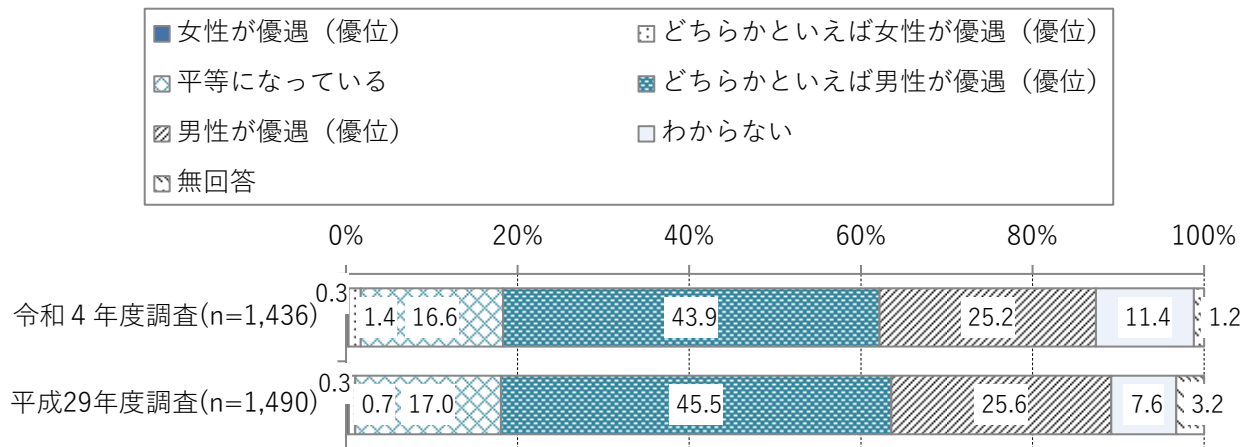
【地域活動で（リーダー的立場の比率、役割分担など）】



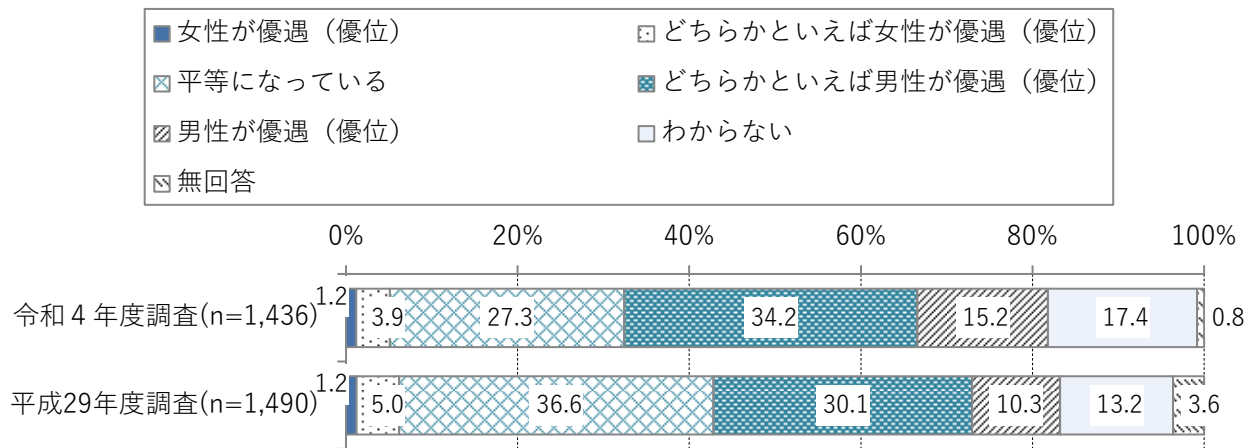
【学校教育の場で（進学、専攻など）】



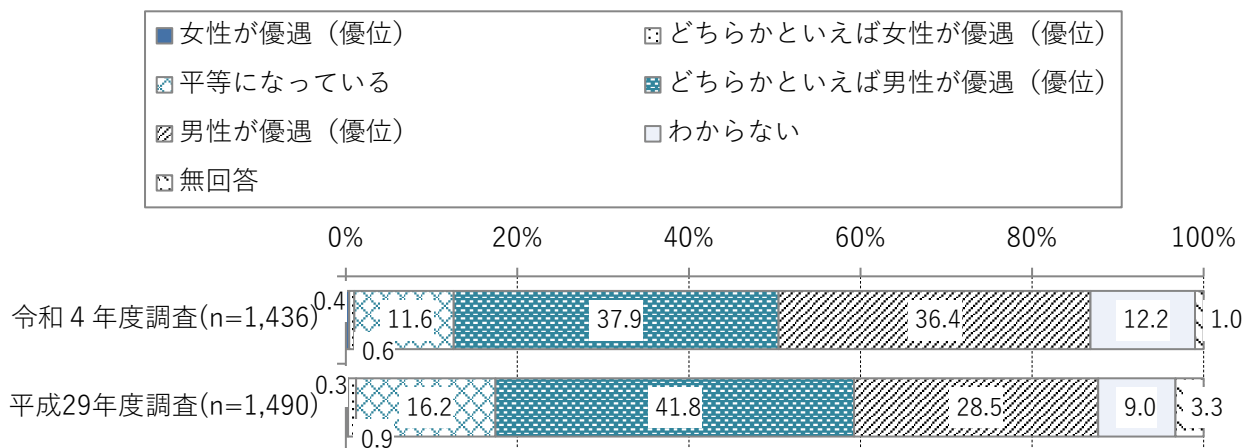
【職場で（採用、業務内容、昇進、昇給、職場環境など）】



【法律や制度の上で】

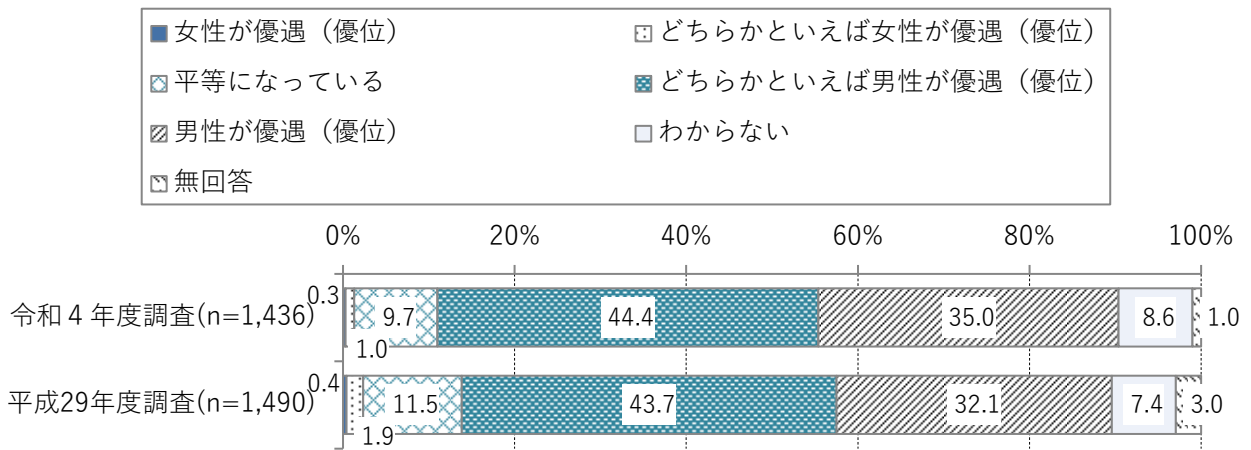


【政治（政策決定）の場で】

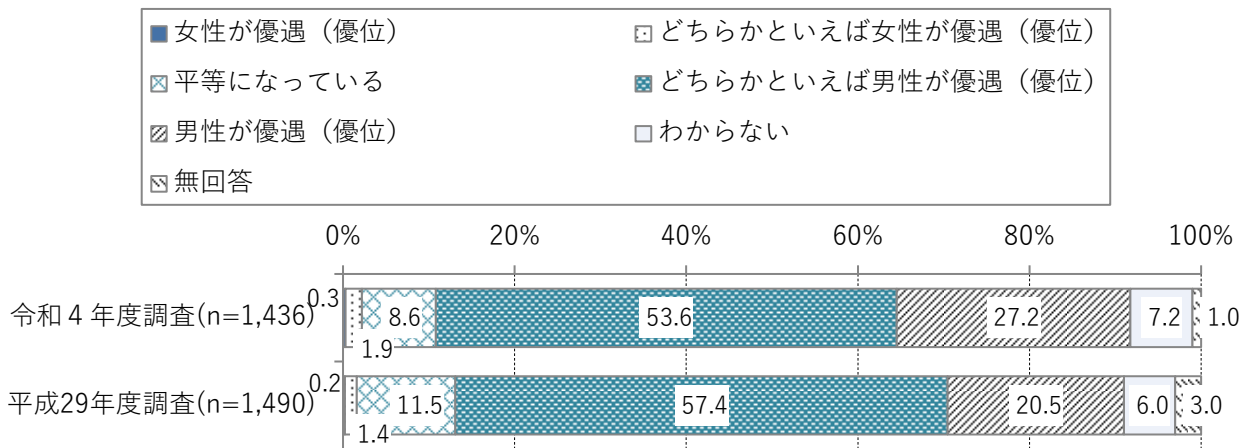




【社会通念・慣習・しきたりなどで】



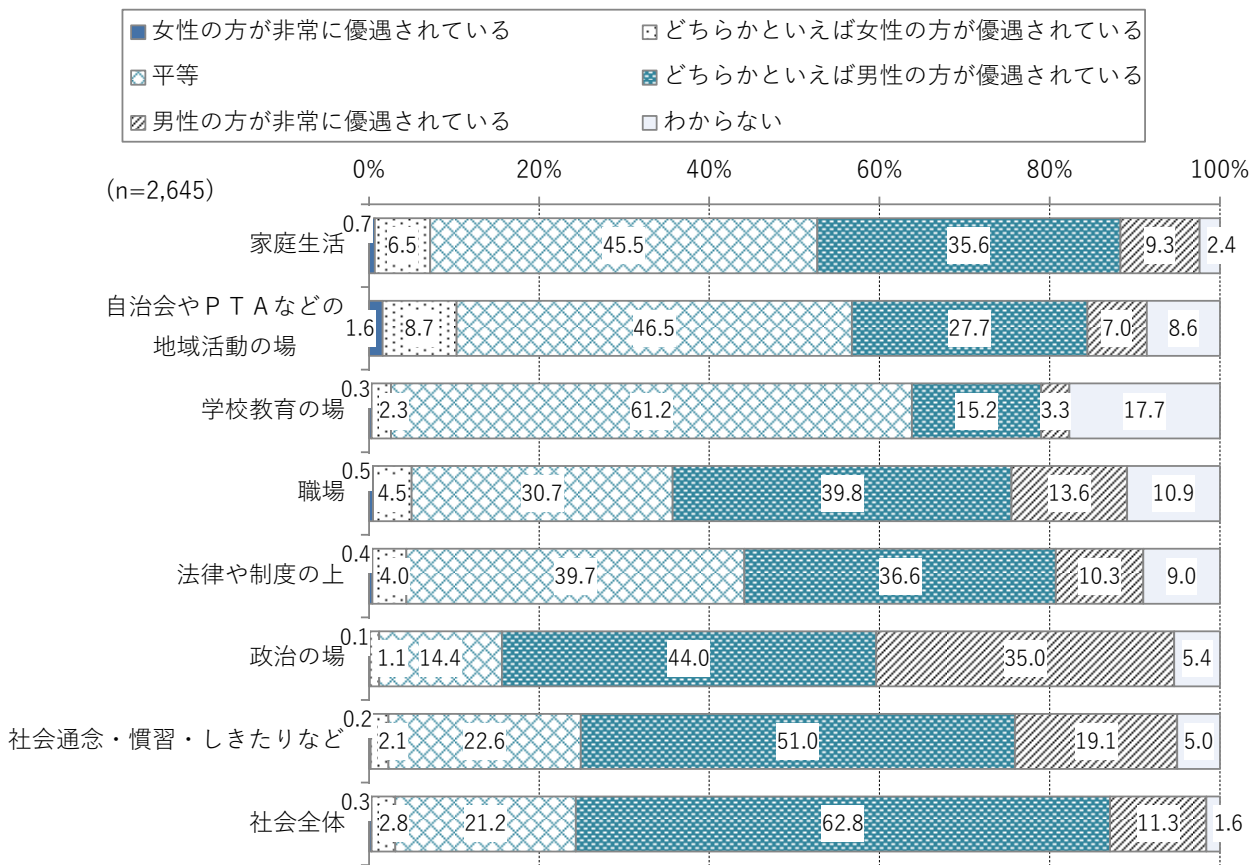
【日本の社会全体で (上記の事項を総合的にみて)】



- 平成29年度調査と比較すると、すべての分野で『男性優遇』の割合が高くなっています。

《国の調査結果》

問 あなたは、今からあげるような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。

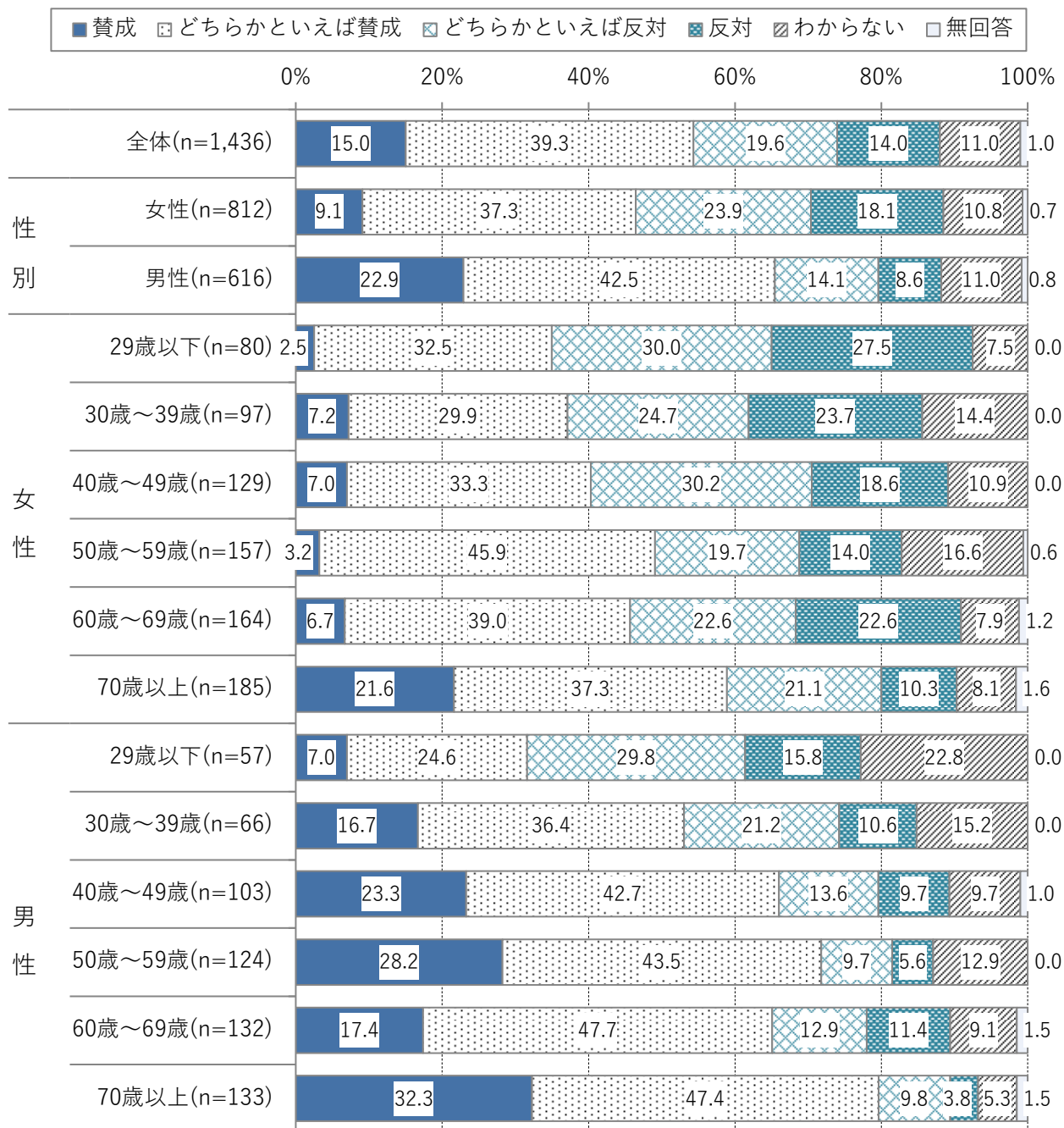


出典：男女共同参画社会に関する世論調査（令和元年9月）

- 国の設問と回答項目が異なるため単純に比較はできないものの、各分野の国の「平等」と本市の「平等になっている」を比較すると、家庭生活では30.5ポイント、自治会やPTAなどの地域活動の場では38.3ポイント、学校教育の場では13.3ポイント、職場では14.1ポイント、法律や制度の上では12.4ポイント、政治の場では2.8ポイント、社会通念・慣習・しきたりなどでは12.9ポイント、社会全体では12.6ポイント、本市より国の方が上回っています。

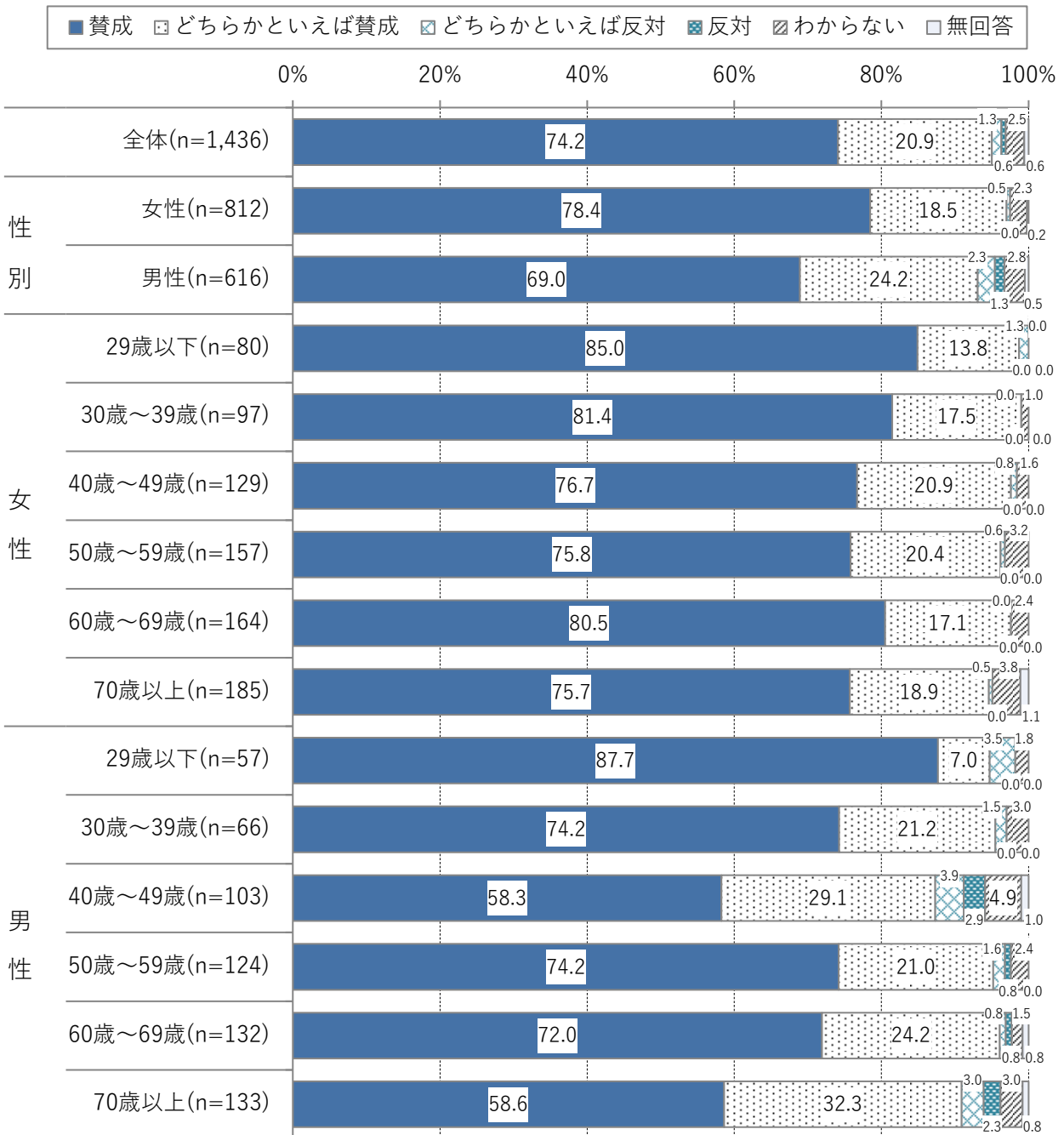
問3 子どもの育て方について、どのように思いますか。次のそれぞれについて、1つずつ選んで番号に○をつけてください。現在お子さんのいらっしゃる方も「いる」と仮定しての考え方を教えてください。

【女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てる】



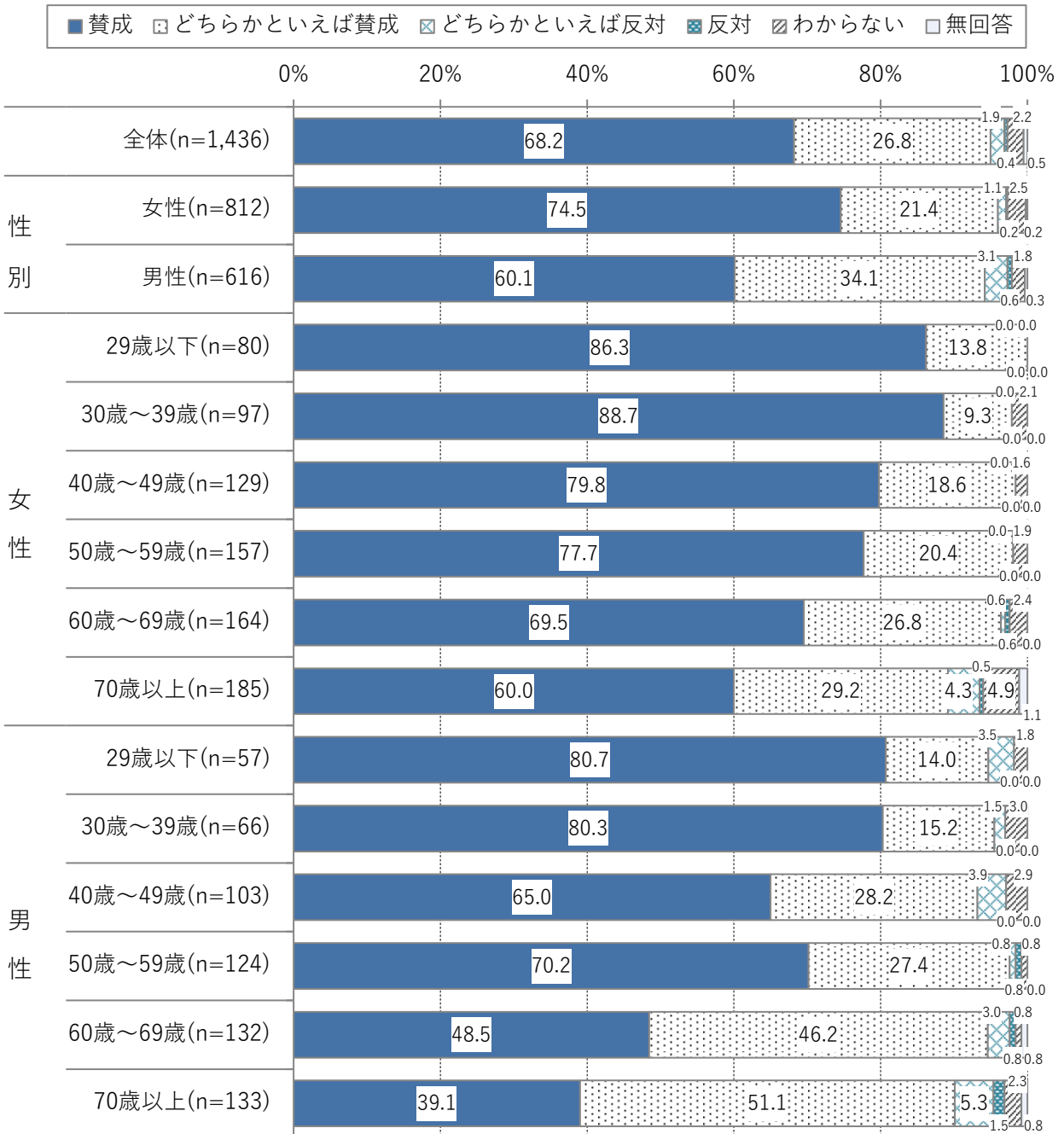
- 女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てるという考え方について、『賛成』（「賛成」と「どちらかといえば賛成」の和）と『反対』（「どちらかといえば反対」と「反対」の和）を比較すると『賛成』の方が20.7%高くなっています。
- 性別にみると、男性の『賛成』の割合が女性に比べて19.0ポイント高くなっています。
- 年齢階層別にみると、男女ともに年齢階層が上がるにつれて、『賛成』の割合が概ね高くなっています。

【女の子も男の子も、男女の区別なく経済的に自立できるような教育が必要である】



- 女の子も男の子も、男女の区別なく経済的に自立できるような教育が必要であるという考え方について、『賛成』と『反対』を比較すると『賛成』の方が93.2%高くなっています。
- 性別にみると、女性の『賛成』の割合が男性に比べて3.7ポイント高くなっています。
- 年齢階層別にみると、男性の40～49歳の『賛成』の割合が、女性の40～49歳に比べて10.2ポイント低くなっています。

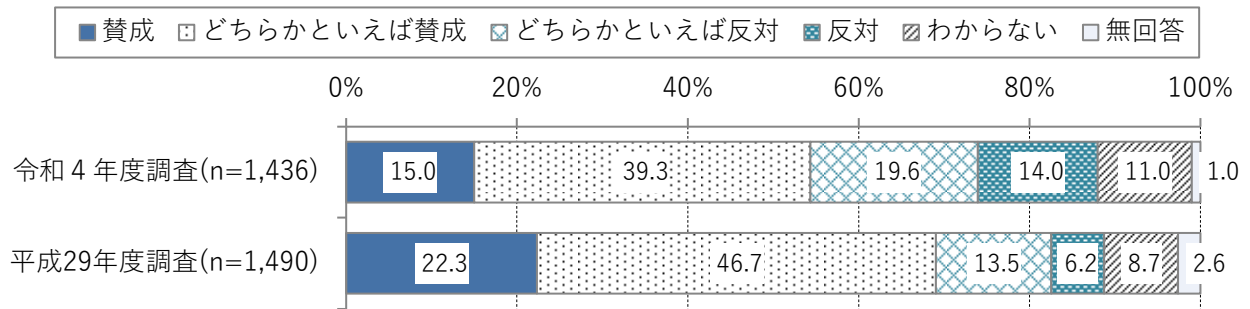
【男女の区別なく炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせる】



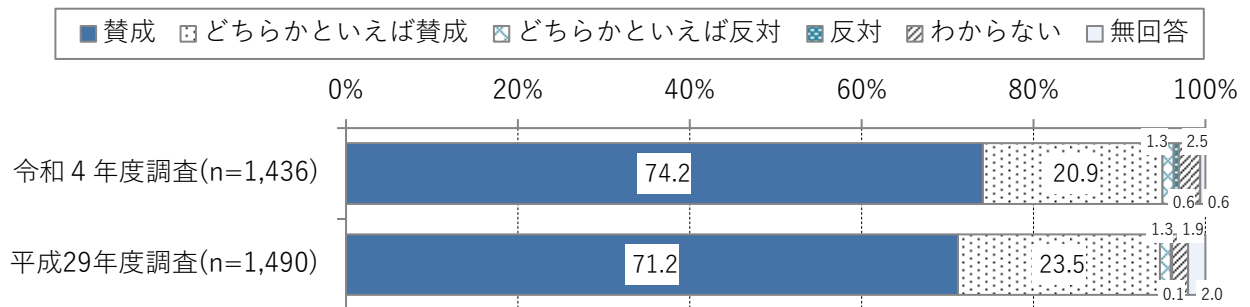
- 男女の区別なく炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせるという考え方について、『賛成』と『反対』を比較すると『賛成』の方が92.7%高くなっています。
- 性別にみると、女性の『賛成』の割合が男性に比べて1.7ポイント高くなっています。
- 年齢階層別にみると、男性の40～49歳の『賛成』の割合が、女性の40～49歳に比べて5.2ポイント低くなっています。

《経年比較》

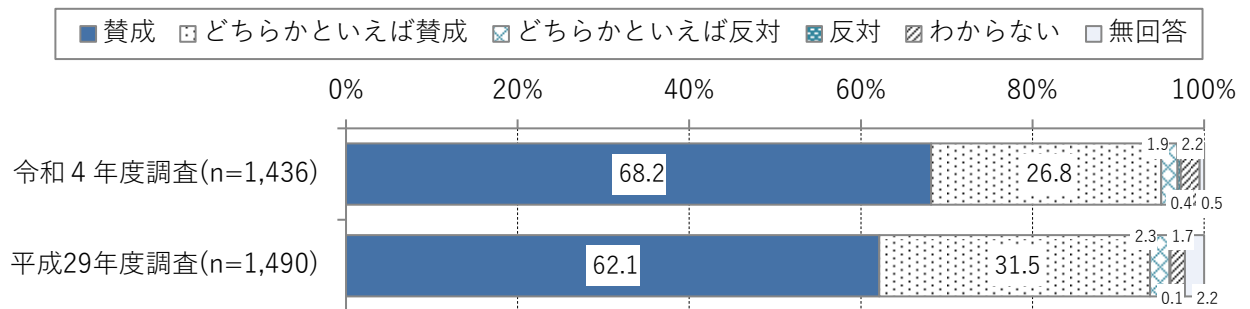
【女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てる】



【女の子も男の子も、男女の区別なく経済的に自立できるような教育が必要である】



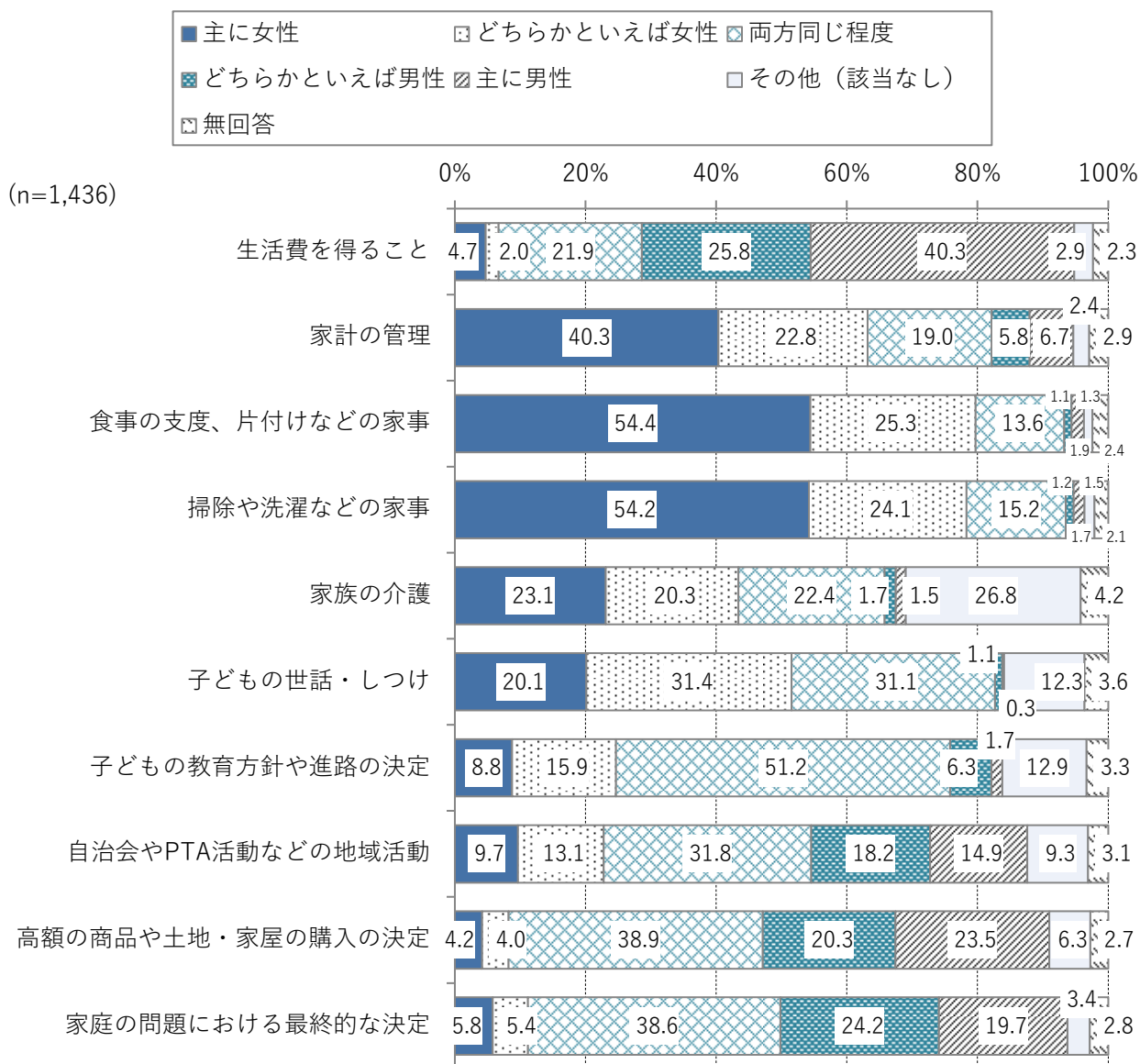
【男女の区別なく炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせる】



- 平成29年度調査と比較すると、「女の子も男の子も、男女の区別なく経済的に自立できるような教育が必要である」、「男女の区別なく炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせる」に大きな差は見られませんが、「女の子は女の子らしく、男の子は男の子らしく育てる」の『賛成』の割合は14.7ポイント低くなっています。

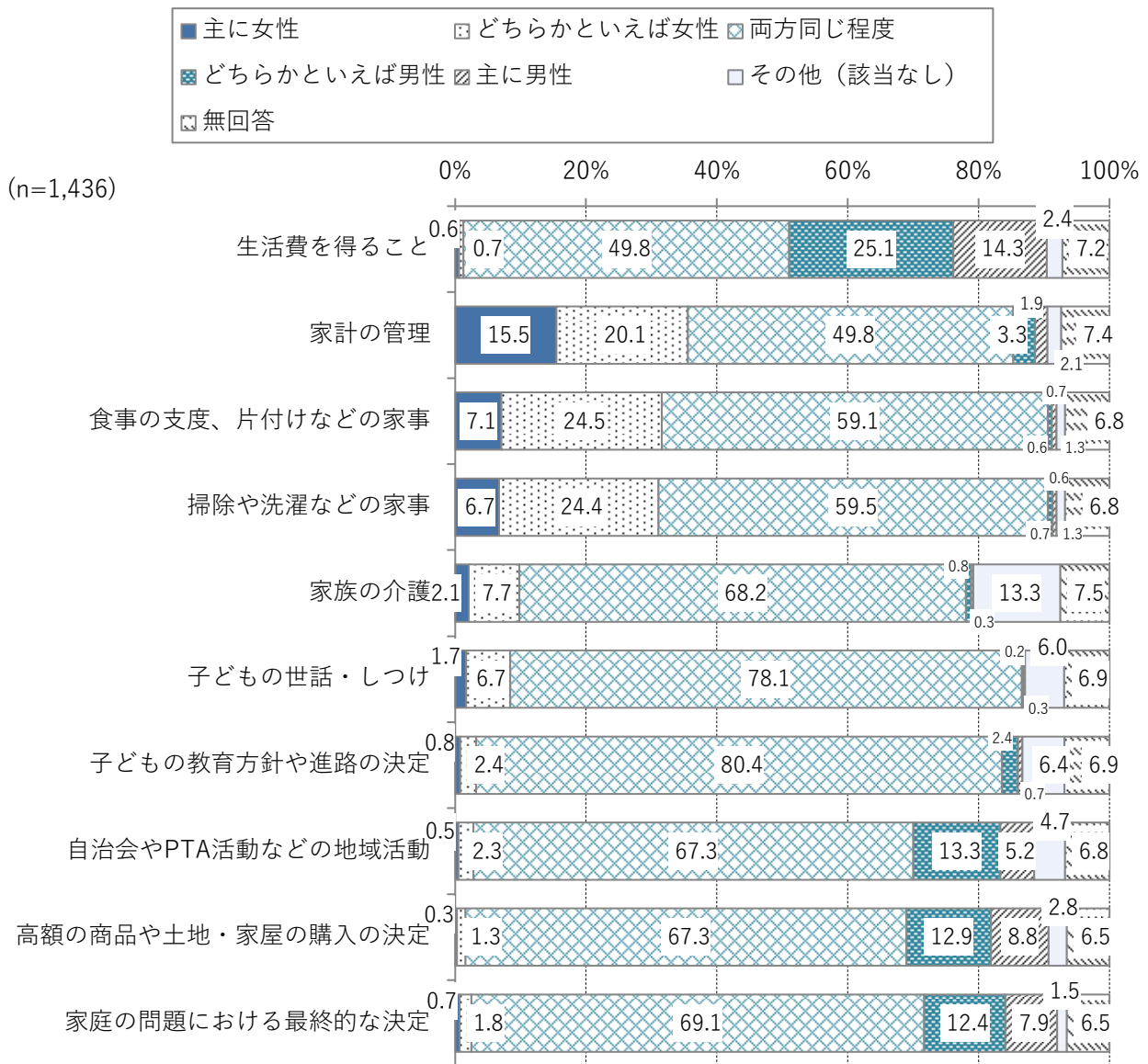
問4 あなたのご家庭では、次にあげるようなことをどなたがされていますか。また、希望はどのようなものですか。現状と希望のそれぞれについて、1つずつ選んで番号に○をつけてください。希望については、配偶者（パートナー）のいらっしゃる方も「いる」と仮定しての考え方を教えてください。また、主にお子さん（中学生以下）がお手伝いされている場合は、「その他（該当なし）6」に○をつけてください。

《現状》



- 家庭での現状の役割について、『女性』（「主に女性」と「どちらかといえば女性」の和）の割合は「食事の支度、片付けなどの家事」が最も高く 79.7%となっています。次いで、「掃除や洗濯などの家事」（78.3%）、「家計の管理」（63.1%）と続いています。
- また、『男性』（「主に男性」と「どちらかといえば男性」の和）の割合は「生活費を得ること」が最も高く 66.1%となっています。次いで、「家庭の問題における最終的な決定」（43.9%）、「高額の商品や土地・家屋の購入の決定」（43.8%）と続いています。

《希望》

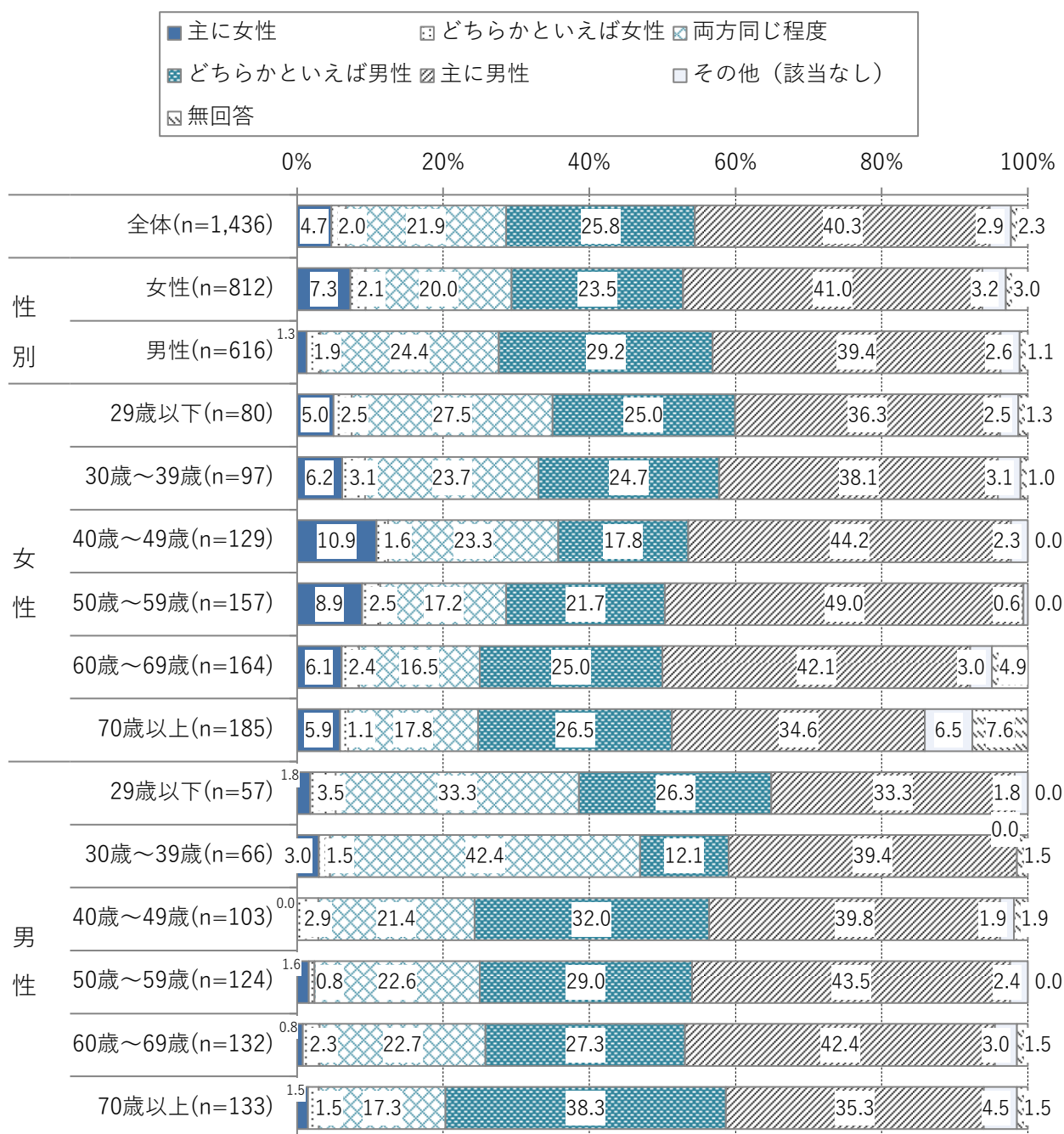


- 家庭での希望の役割について、『女性』（「主に女性」と「どちらかといえば女性」の和）の割合は「家計の管理」が最も高く 35.6%となっています。次いで、「食事の支度、片付けなどの家事」（31.6%）、「掃除や洗濯などの家事」（31.1%）と続いています。
- また、『男性』（「主に男性」と「どちらかといえば男性」の和）の割合は「生活費を得ること」が最も高く 39.4%となっています。次いで、「高額の商品や土地・家屋の購入の決定」（21.7%）、「家庭の問題における最終的な決定」（20.3%）と続いています。



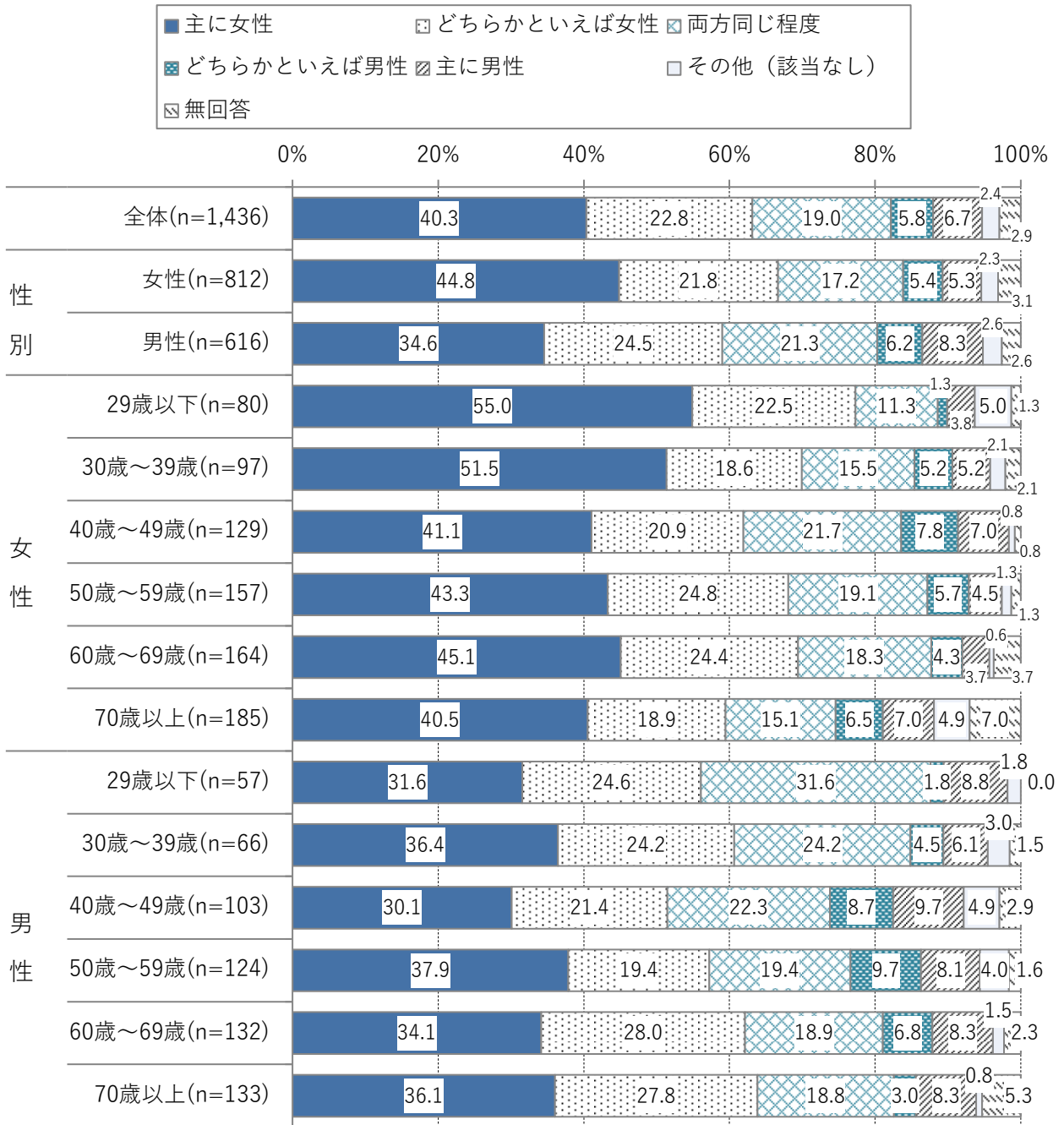
《現状（家庭での役割別）》

【生活費を得ること】



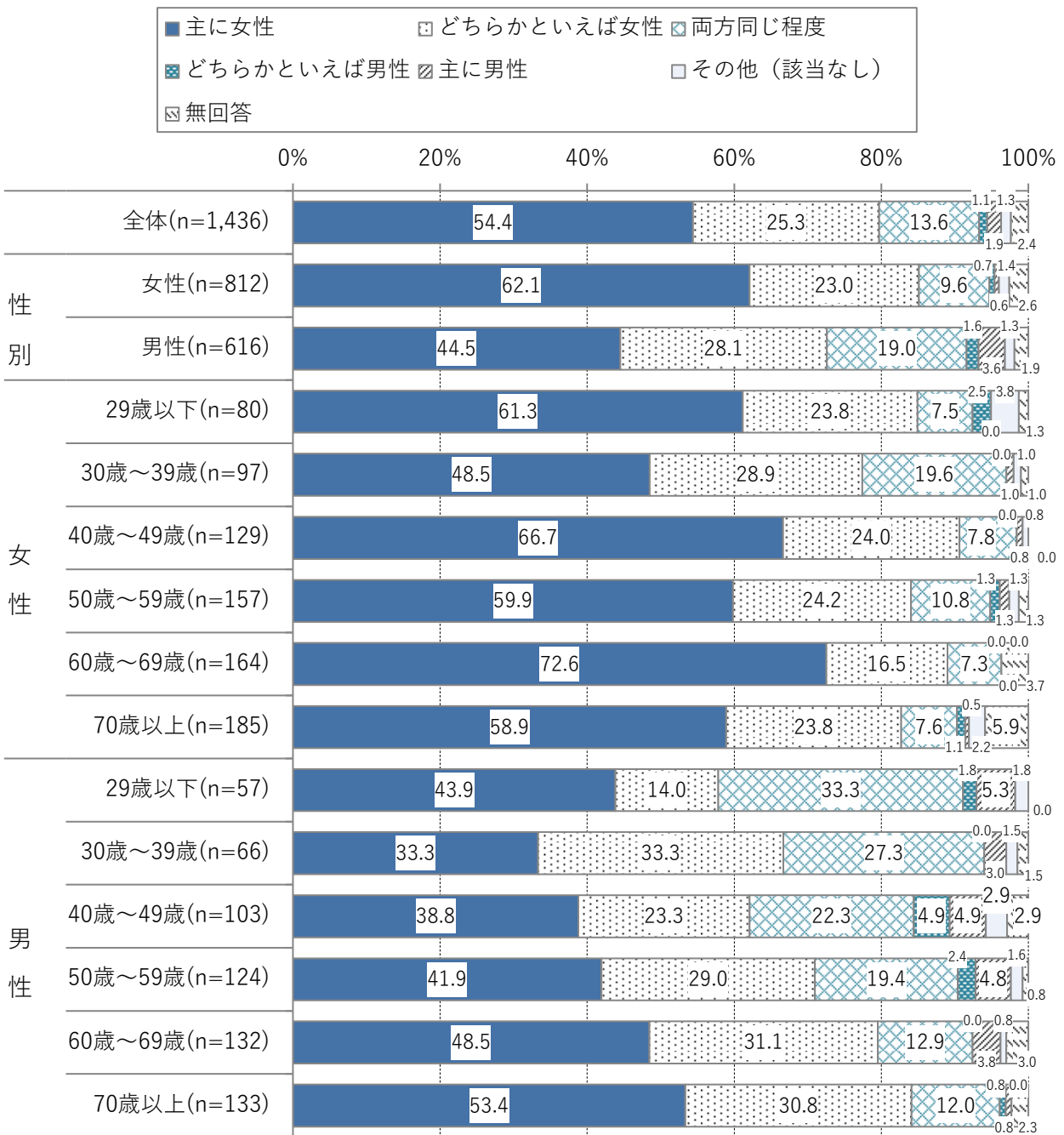
- 生活費を得ることの現状を、『女性』（「主に女性」と「どちらかといえば女性」の和）と『男性』（「どちらかといえば男性」と「主に男性」の和）とで比較すると『男性』の方が59.4%高くなっています。
- 性別にみると、女性の『男性』の割合は男性に比べて4.1ポイント低くなっています。
- 年齢階層別にみると、女性の70歳以上の『男性』の割合が男性の70歳以上に比べて12.5ポイント低くなっている一方、30歳～39歳では女性の方が11.3ポイント高くなっています。

【家計の管理】



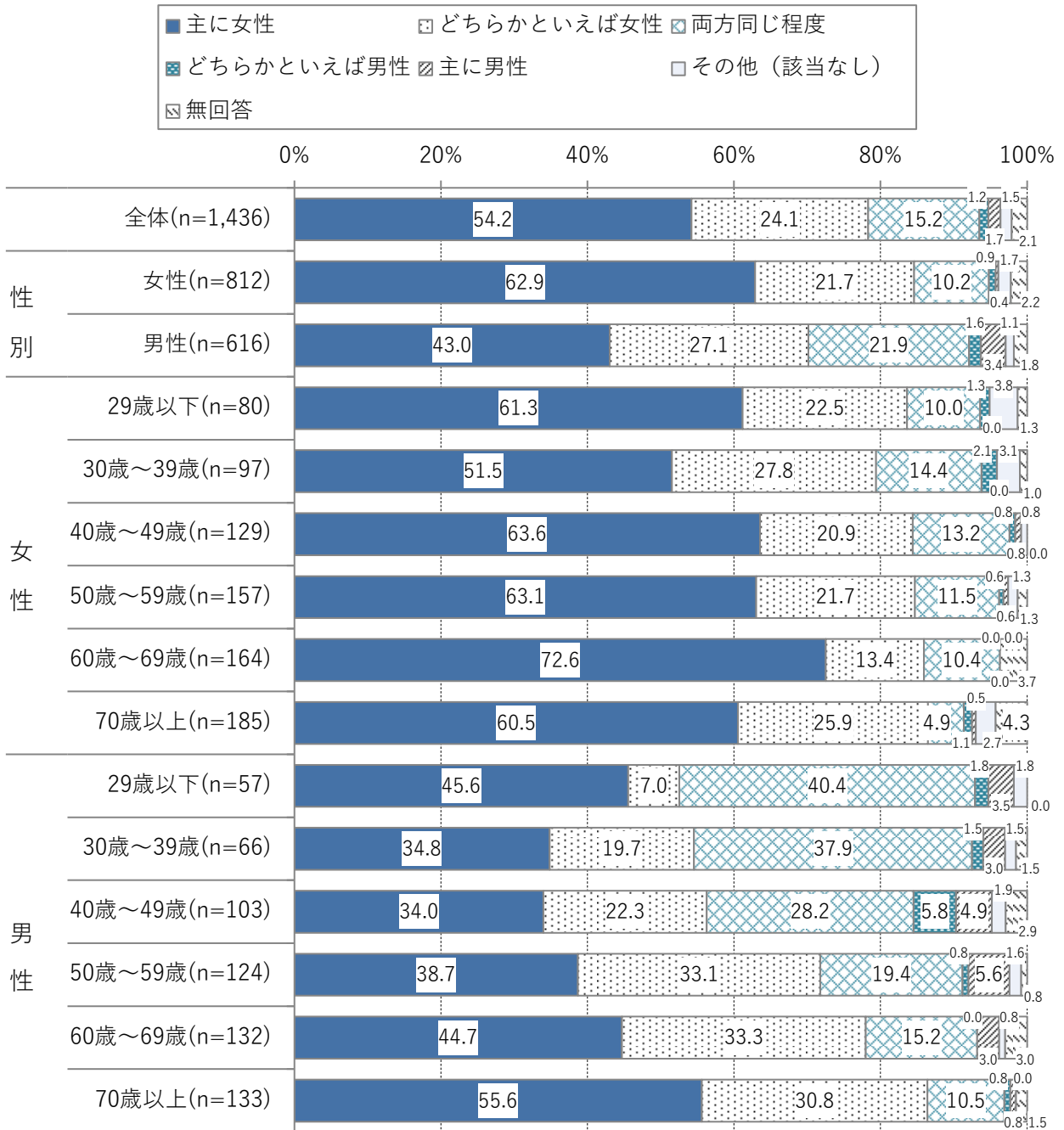
- 家計の管理の現状を、『女性』と『男性』とで比較すると『女性』の方が50.6%高くなっています。
- 性別にみると、女性の『女性』の割合は男性に比べて7.5ポイント高くなっています。
- 年齢階層別にみると、70歳以上を除くすべての年齢階層で『女性』の割合は女性の方が高くなっており、特に29歳以下では21.3ポイントとその差が大きくなっています。

【食事の支度、片付けなどの家事】



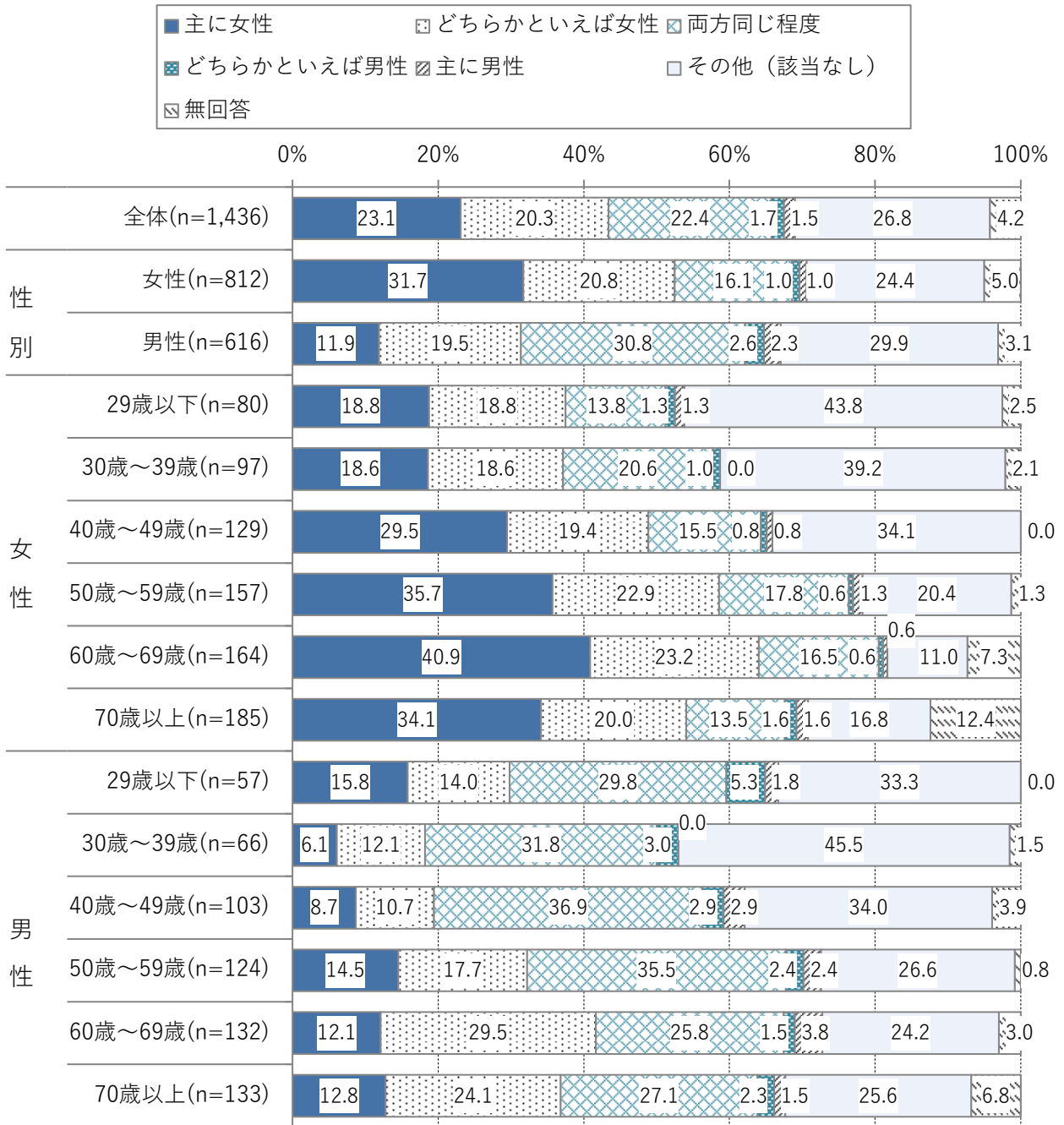
- 食事の支度、片付けなどの家事の現状を、『女性』と『男性』とで比較すると『女性』の方が76.7%高くなっています。
- 性別にみると、女性の『女性』の割合は男性に比べて12.5ポイント高くなっています。
- 年齢階層別にみると、70歳以上を除くすべての年齢階層で『女性』の割合は女性の方が高くなっており、特にその差が29歳以下では27.2ポイント、40歳～49歳では28.6ポイントと大きくなっています。

【掃除や洗濯などの家事】



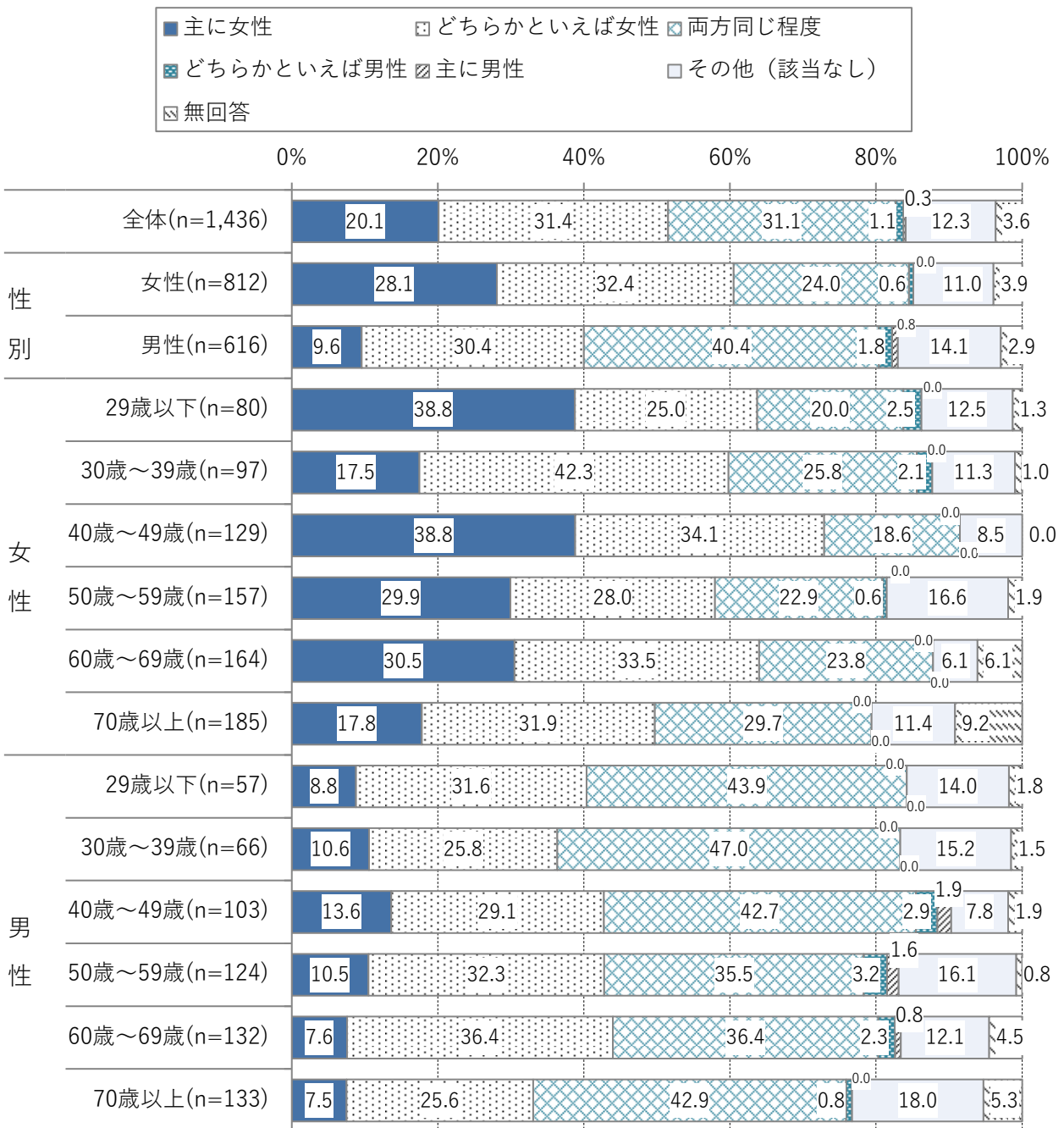
- 掃除や洗濯などの家事の現状を、『女性』と『男性』とで比較すると『女性』の方が75.4%高くなっています。
- 性別にみると、女性の『女性』の割合は男性に比べて14.5ポイント高くなっています。
- 年齢階層別にみると、70歳以上を除くすべての年齢階層で『女性』の割合は女性の方が高くなっており、特にその差が40歳～49歳より下の年齢階層で大きくなっています。

【家族の介護】



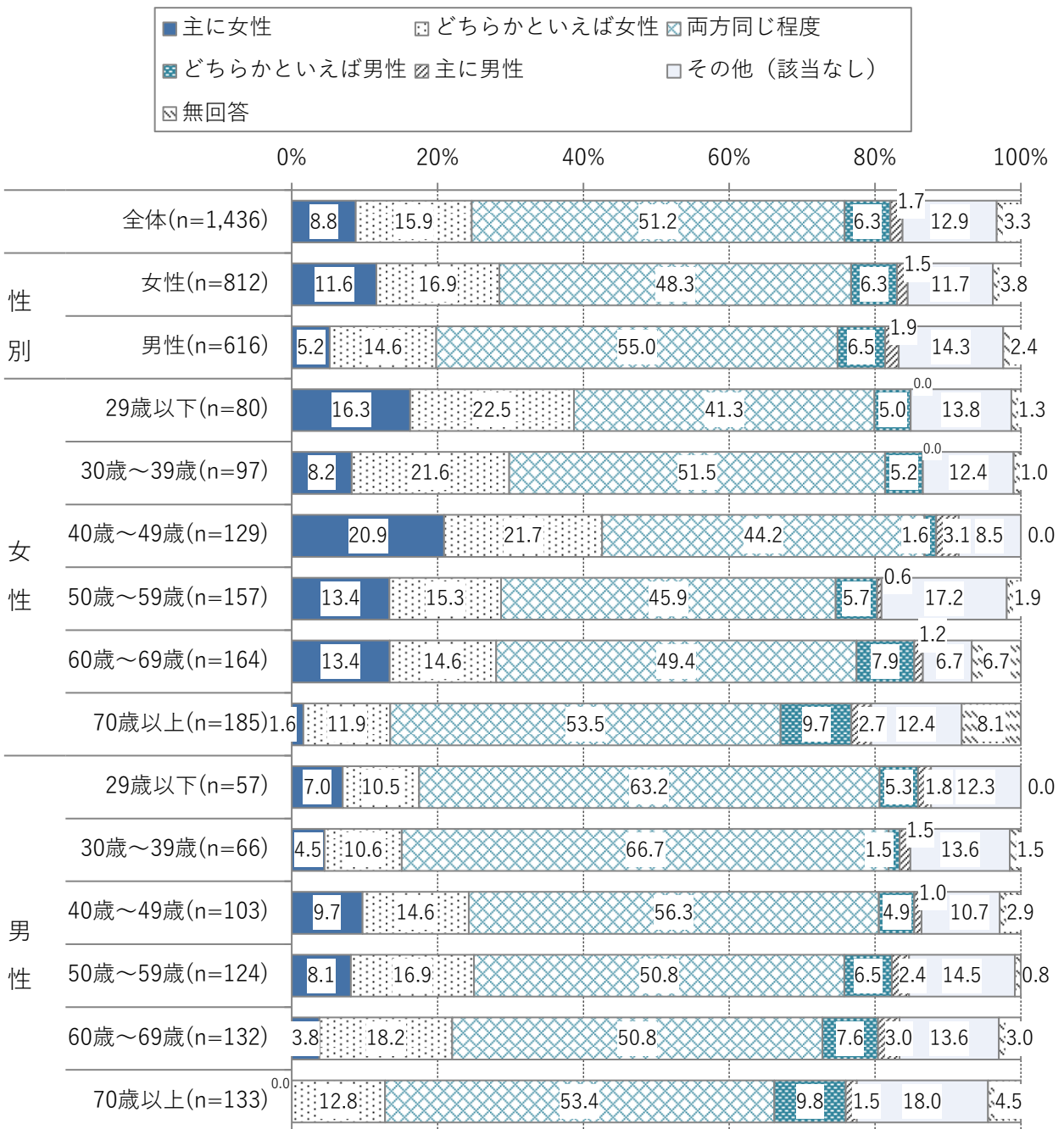
- 家族の介護の現状を、『女性』と『男性』とで比較すると『女性』の方が40.2%高くなっています。
- 性別にみると、女性の『女性』の割合は男性に比べて21.1ポイント高くなっています。
- 年齢階層別にみると、すべての年齢階層で『女性』の割合は女性の方が高くなっており、特にその差が40歳～49歳から60歳～69歳の年齢階層で大きくなっています。

【子どもの世話・しつけ】



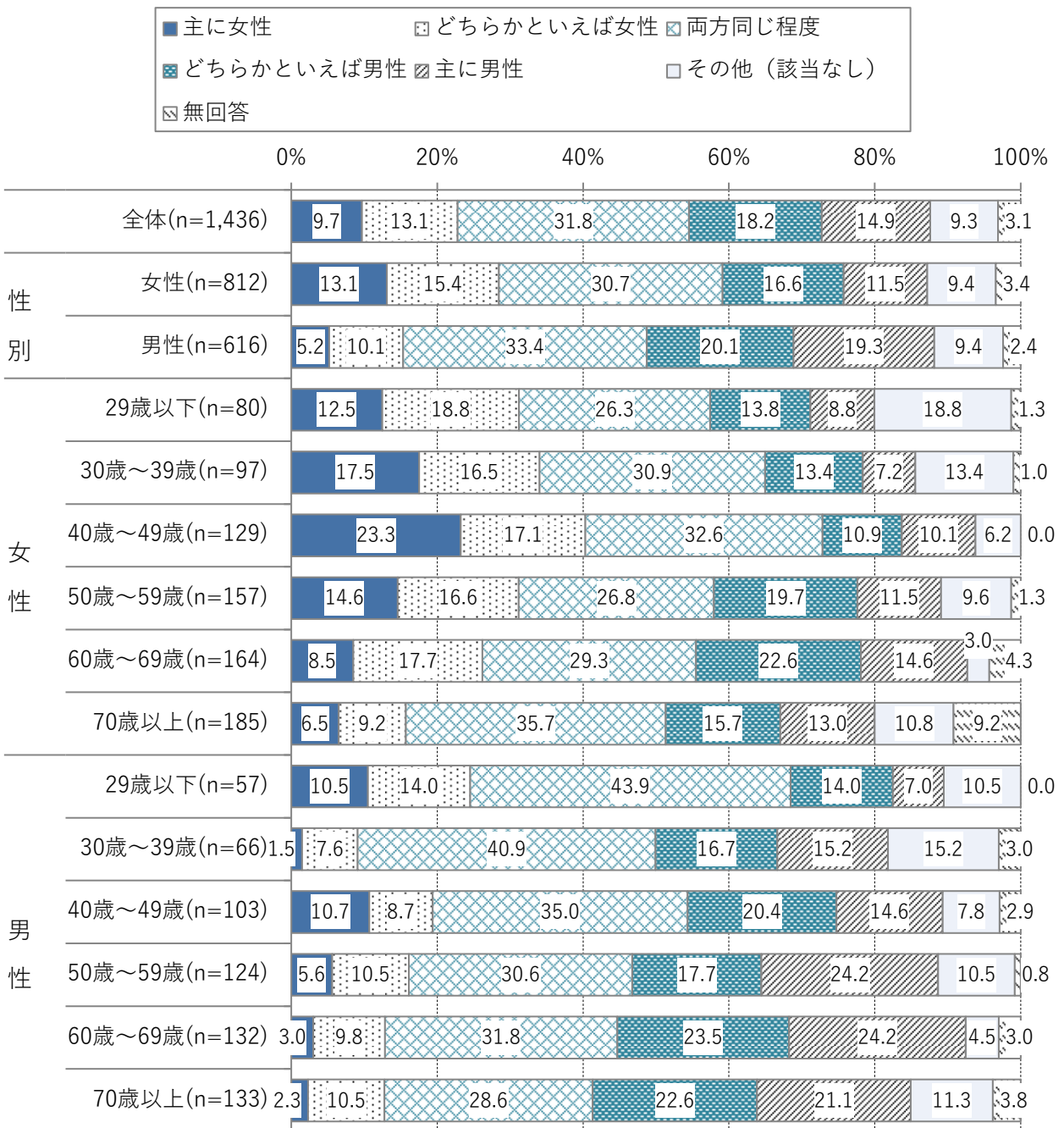
- 子どもの世話・しつけの現状を、『女性』と『男性』とで比較すると『女性』の方が50.1%高くなっています。
- 性別にみると、女性の『女性』の割合は男性に比べて20.5ポイント高くなっています。
- 年齢階層別にみると、すべての年齢階層で『女性』の割合は女性の方が高くなっており、特に40歳~49歳ではその差が30.2ポイントと大きくなっています。

【子どもの教育方針や進路の決定】



- 子どもの教育方針や進路の決定の現状を、『女性』と『男性』とで比較すると『男性』の方が16.7%高くなっています。
- 性別にみると、女性の『女性』の割合は男性に比べて8.7ポイント高くなっています。
- 年齢階層別にみると、すべての年齢階層で『女性』の割合は女性の方が高くなっており、特に29歳以下では21.3ポイントとその差が大きくなっています。

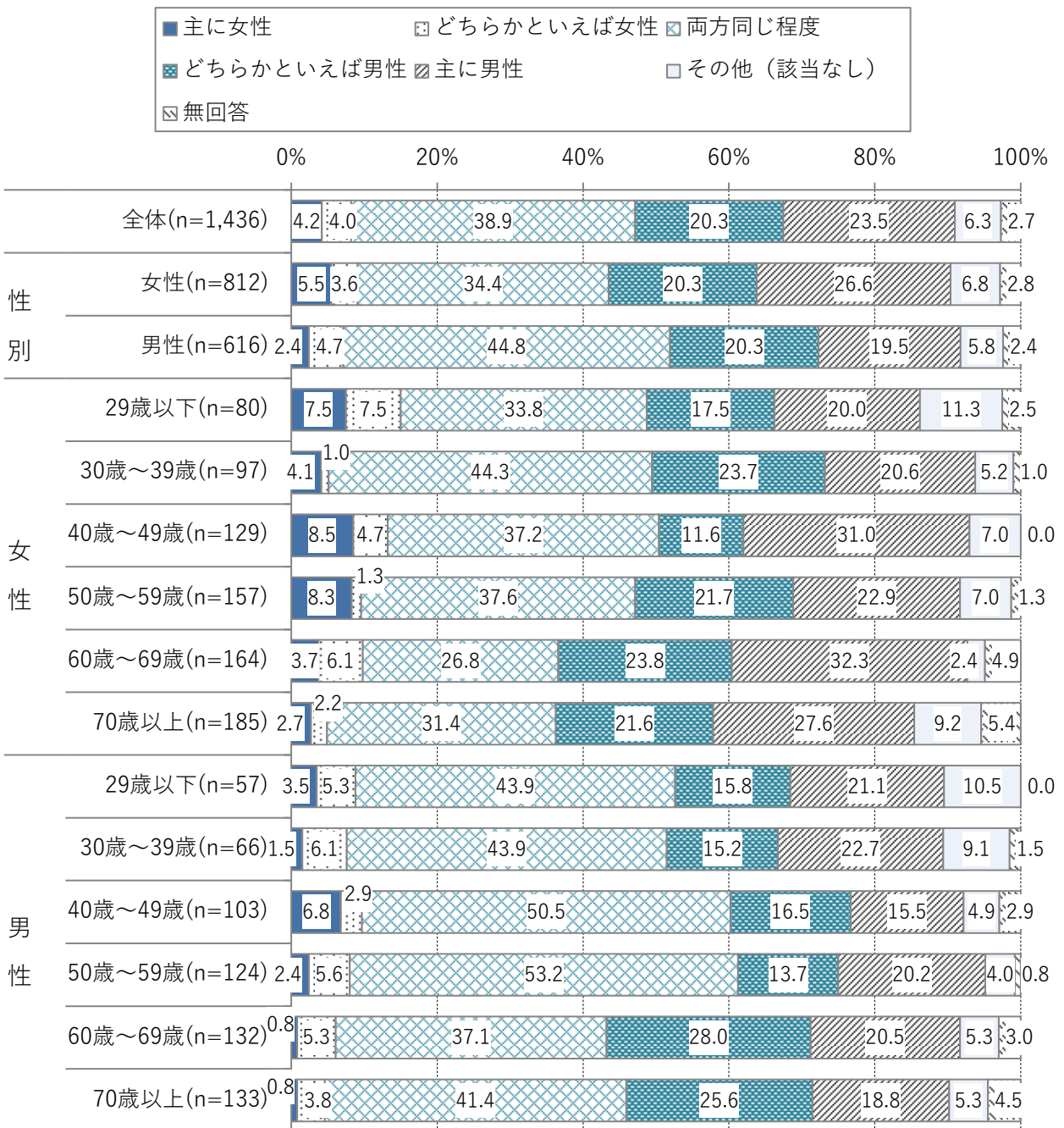
【自治会やPTA 活動などの地域活動】



- 自治会やPTA 活動などの地域活動の現状を、『女性』と『男性』とで比較すると『男性』の方が10.3%高くなっています。
- 性別にみると、女性の『男性』の割合は男性に比べて11.3ポイント低くなっています。
- 年齢階層別にみると、すべての年齢階層で『女性』の割合は女性の方が高くなっており、特にその差が30歳~39歳では24.9ポイント、40歳~49歳では21.0ポイントと大きくなっています。

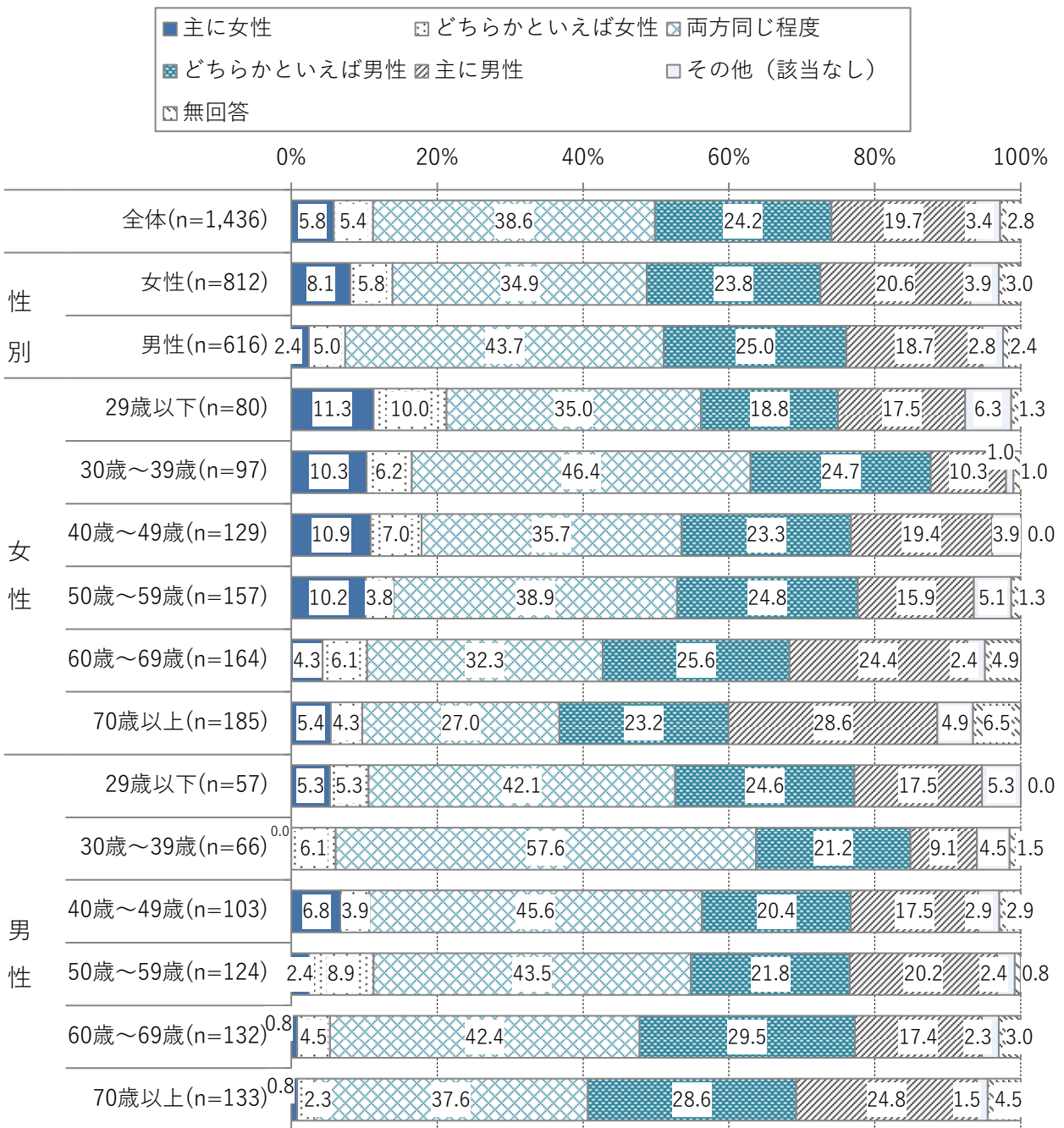


【高額の商品や土地・家屋の購入の決定】



- 高額の商品や土地・家屋の購入の決定の現状を、『女性』と『男性』とで比較すると『男性』の方が35.6%高くなっています。
- 性別にみると、女性の『男性』の割合は男性に比べて7.1ポイント高くなっています。
- 年齢階層別にみると、すべての年齢階層で『男性』の割合は女性の方が高くなっており、特にその差が40歳~49歳では10.6ポイント、50歳~59歳では10.7ポイントと大きくなっています。

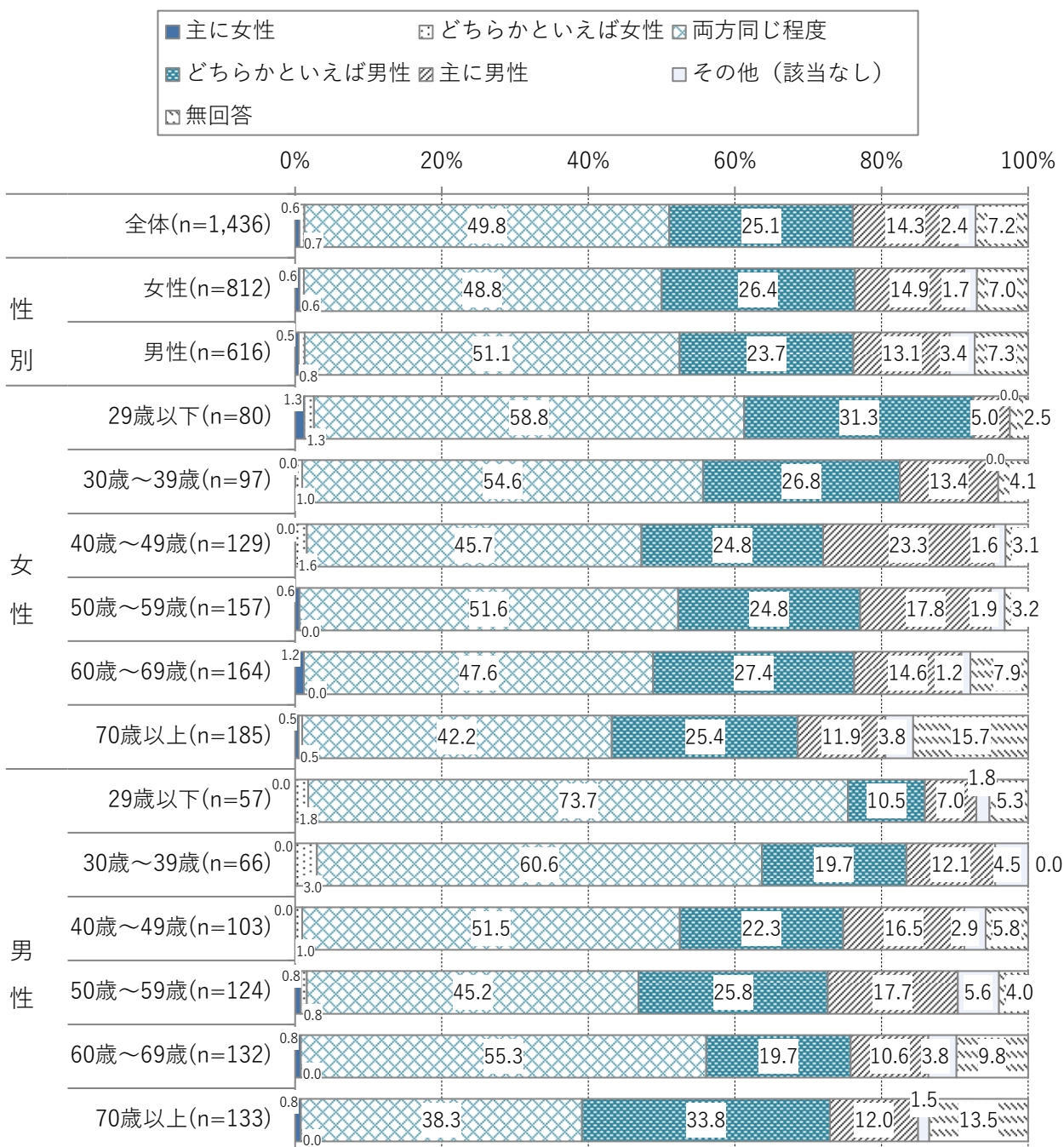
【家庭の問題における最終的な決定】



- 家庭の問題における最終的な決定の現状を、『女性』と『男性』とで比較すると『男性』の方が32.7%高くなっています。
- 性別にみると、女性の『女性』の割合は男性に比べて6.5ポイント高くなっています。
- 年齢階層別にみると、すべての年齢階層で『女性』の割合は女性の方が高くなっており、特にその差が29歳以下では10.7ポイント、30歳~39歳では10.4ポイントと大きくなっています。

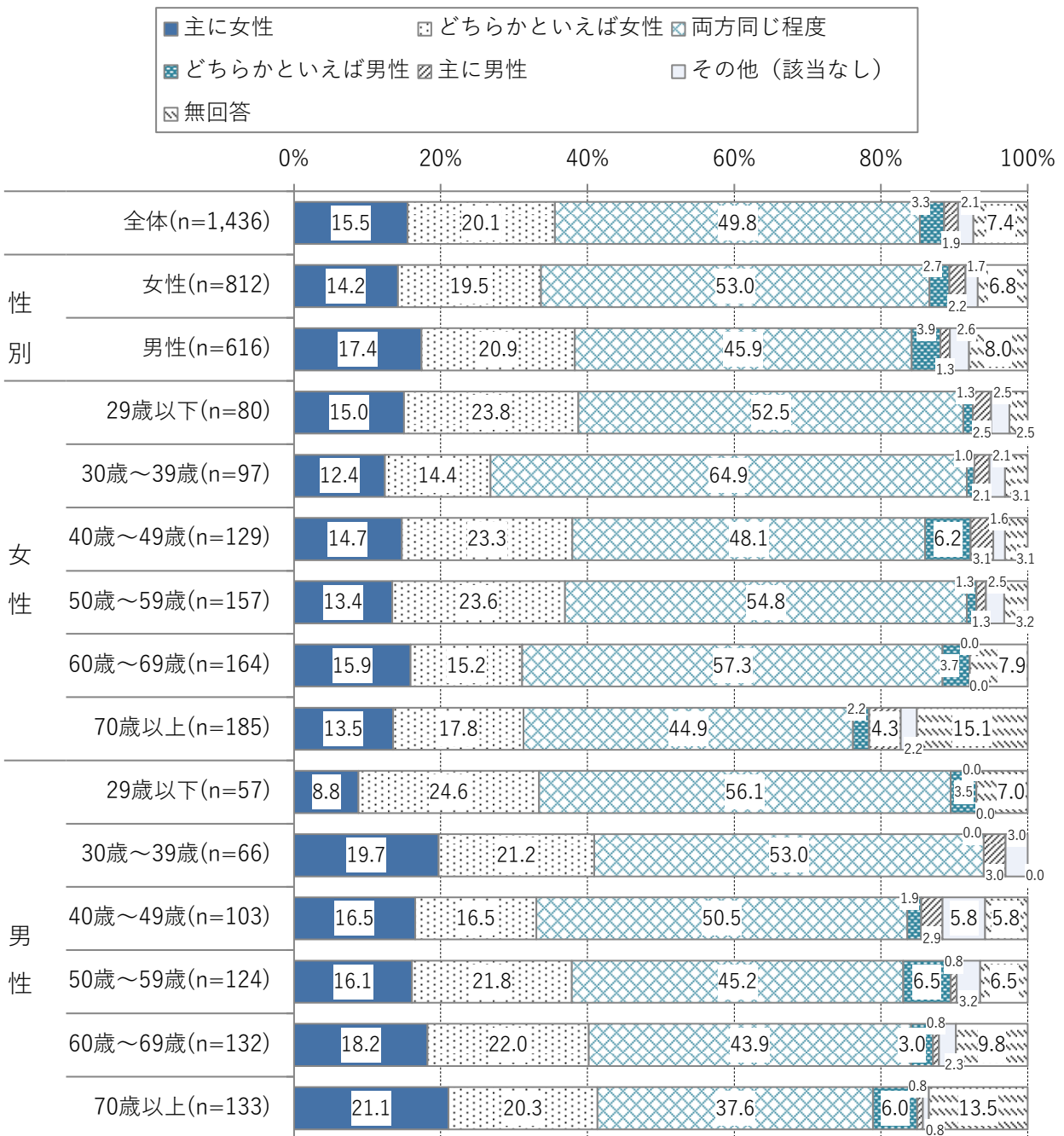
《希望（家庭での役割別）》

【生活費を得ること】



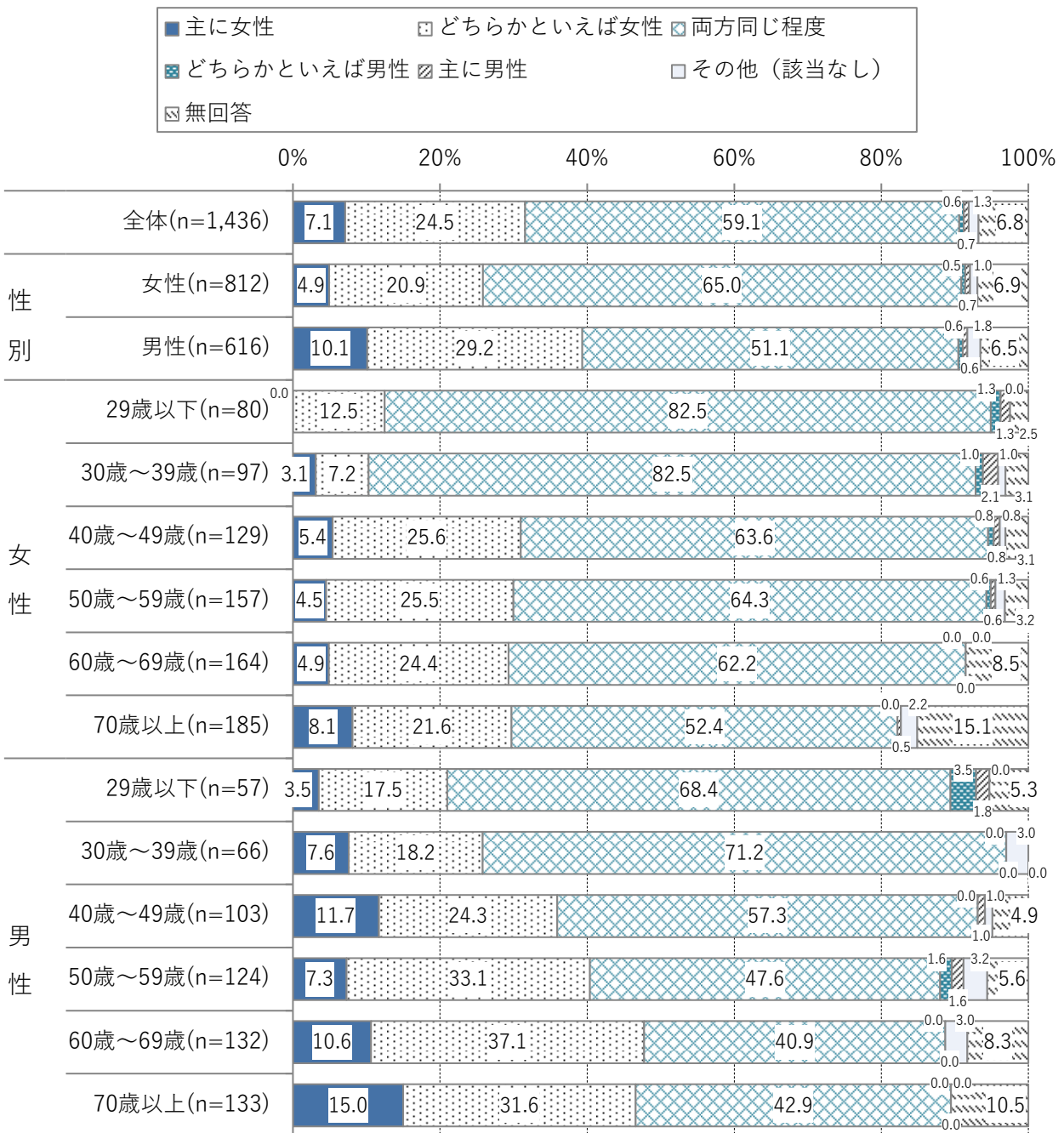
- 生活費を得ることの希望について、「両方同じ程度」の割合は49.8%となっています。
- 性別にみると、女性の「両方同じ程度」の割合は男性に比べて2.3ポイント低くなっています。
- 年齢階層別にみると、女性の29歳以下の「両方同じ程度」の割合は男性の同年齢階層に比べて14.9ポイント低くなっています。

【家計の管理】



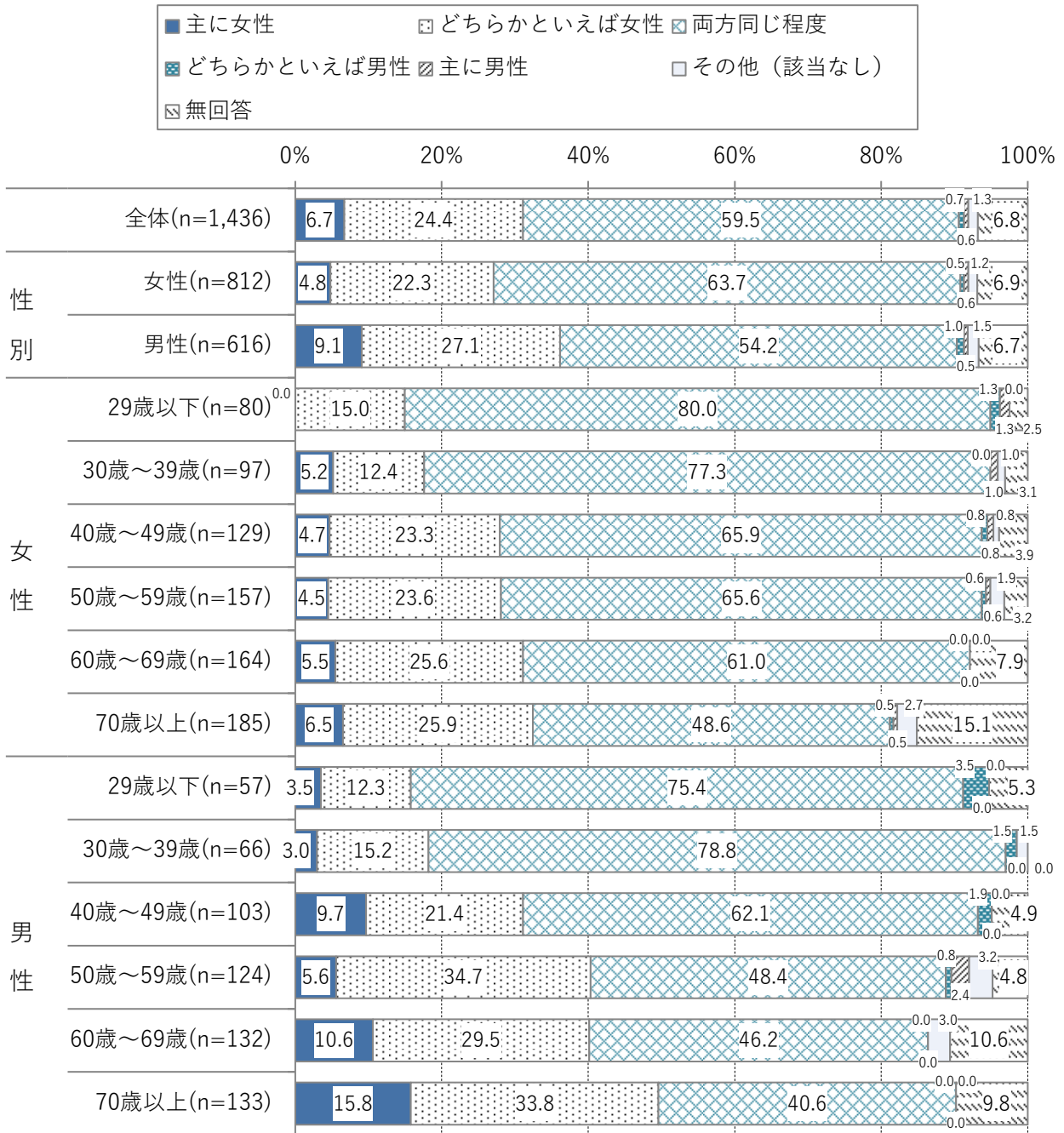
- 家計の管理の希望について、「両方同じ程度」の割合は49.8%となっています。
- 性別にみると、女性の「両方同じ程度」の割合は男性に比べて7.1ポイント高くなっています。
- 年齢階層別にみると、女性の30歳～39歳、60歳～69歳の「両方同じ程度」の割合は男性の同年齢階層に比べて10ポイント以上高くなっています。

【食事の支度、片付けなどの家事】



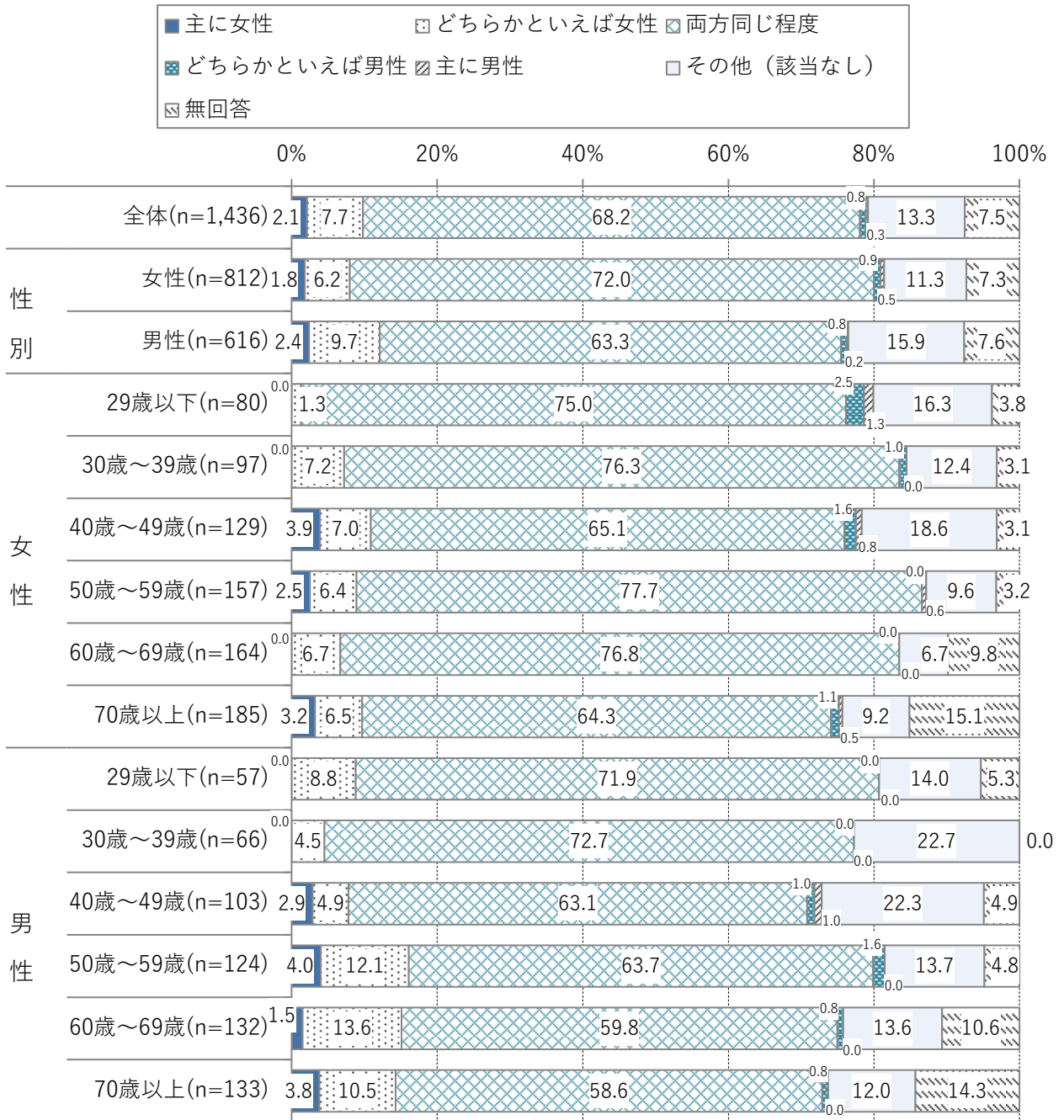
- 食事の支度、片付けなどの家事の希望について、「両方同じ程度」の割合は59.1%となっています。
- 性別にみると、女性の「両方同じ程度」の割合は男性に比べて13.9ポイント高くなっています。
- 年齢階層別にみると、すべての年齢階層で「両方同じ程度」の割合は女性の方が高くなっており、特に60歳～69歳ではその差が21.3ポイントと大きくなっています。

【掃除や洗濯などの家事】



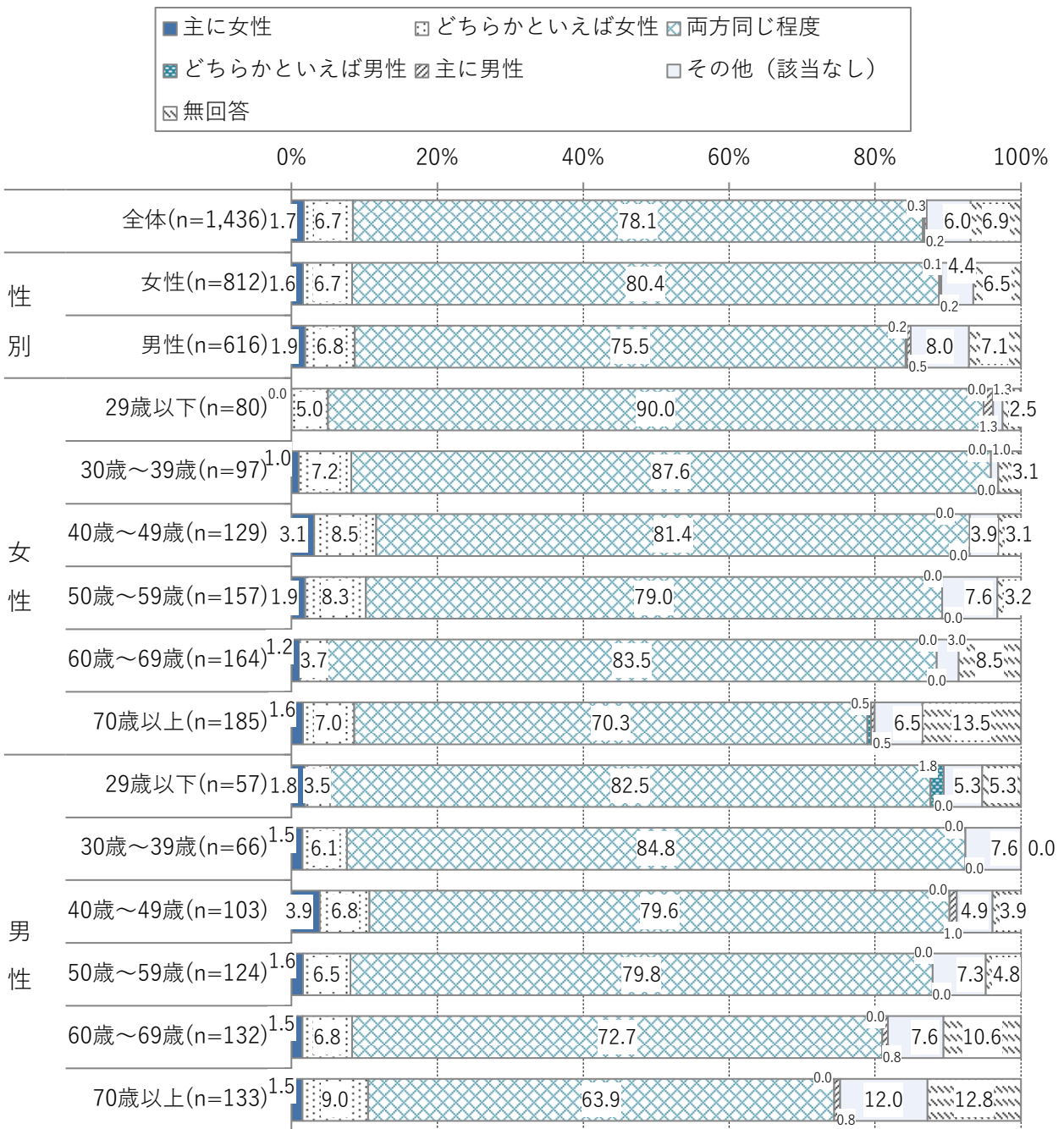
- 掃除や洗濯などの家事の希望について、「両方同じ程度」の割合は 59.5% となっています。
- 性別にみると、女性の「両方同じ程度」の割合は男性に比べて 9.5 ポイント高くなっています。
- 年齢階層別にみると、30 歳～39 歳を除くすべての年齢階層で「両方同じ程度」の割合は女性の方が高くなっており、特にその差が 50 歳～59 歳では 17.2 ポイント、60 歳～69 歳では 14.8 ポイントと大きくなっています。

【家族の介護】



- 家族の介護の希望について、「両方同じ程度」の割合は68.2%となっています。
- 性別にみると、女性の「両方同じ程度」の割合は男性に比べて8.7ポイント高くなっています。
- 年齢階層別にみると、すべての年齢階層で「両方同じ程度」の割合は女性の方が高くなっており、特にその差が50歳～59歳では14.0ポイント、60歳～69歳では17.0ポイントと大きくなっています。

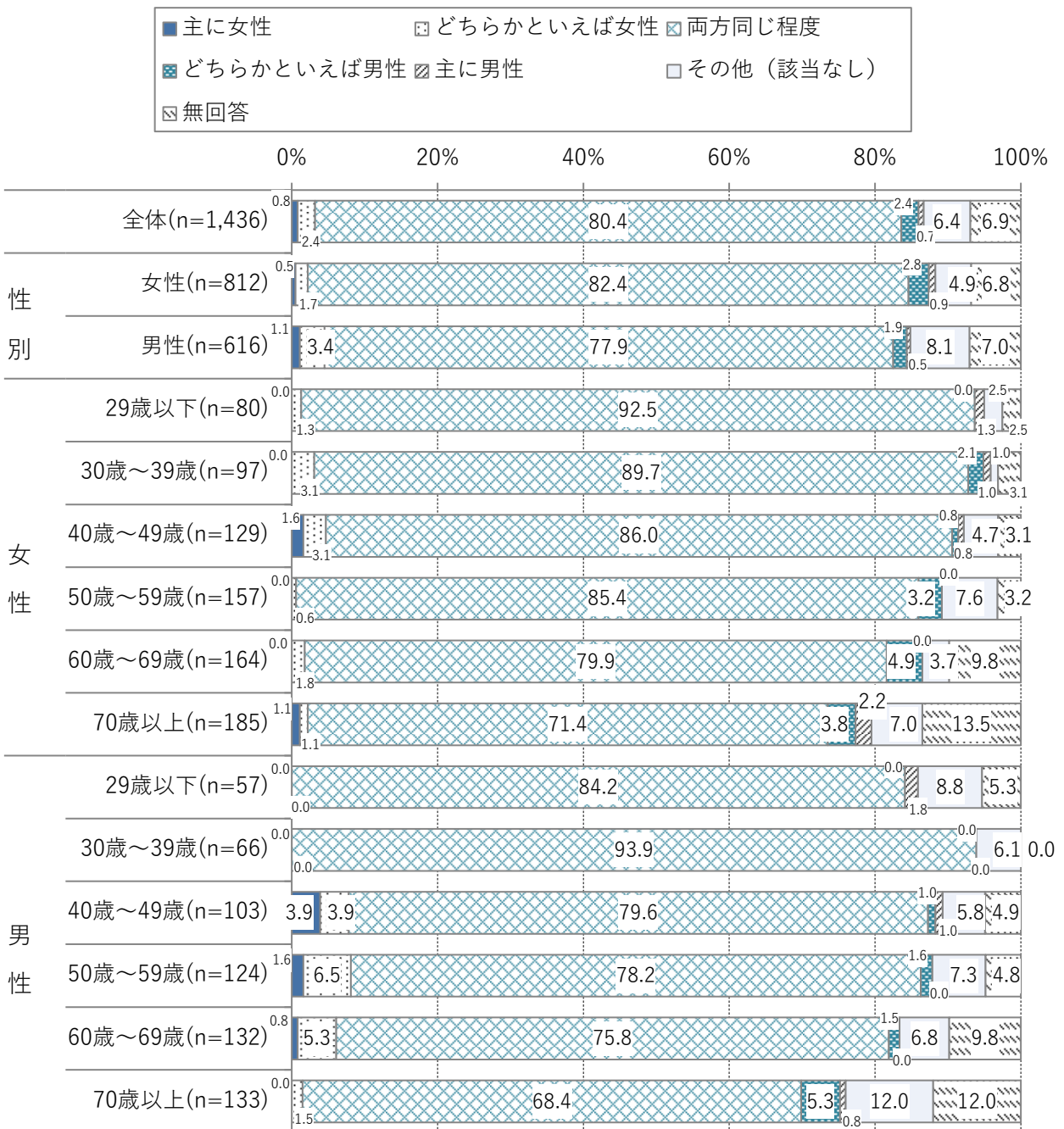
【子どもの世話・しつけ】



- 子どもの世話・しつけの希望について、「両方同じ程度」の割合は78.1%となっています。
- 性別にみると、女性の「両方同じ程度」の割合は男性に比べて4.9ポイント高くなっています。
- 年齢階層別にみると、50歳~59歳を除くすべての年齢階層で「両方同じ程度」の割合は女性の方が高くなっており、特に60歳~69歳ではその差が10.8ポイントと大きくなっています。

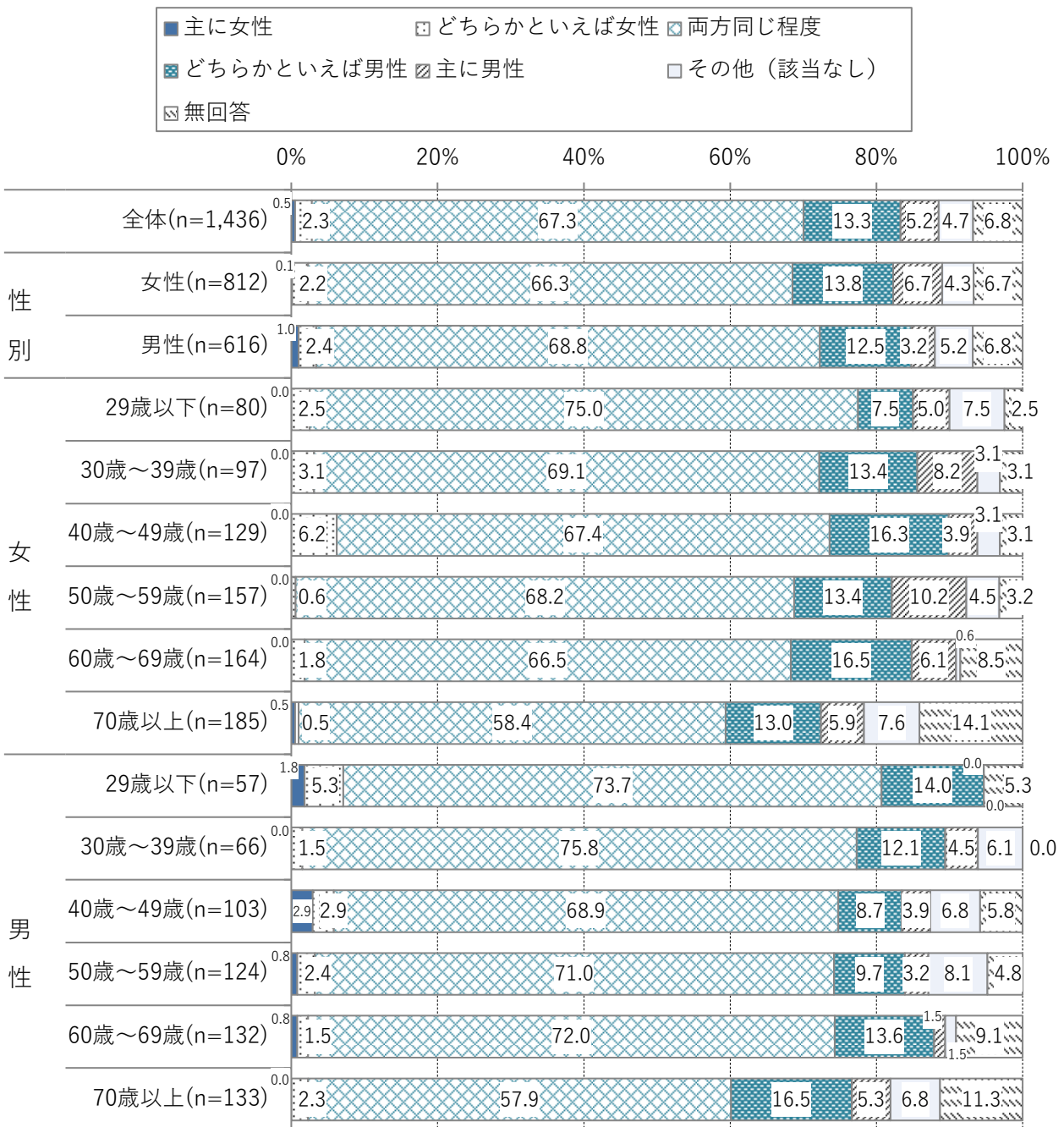


【子どもの教育方針や進路の決定】



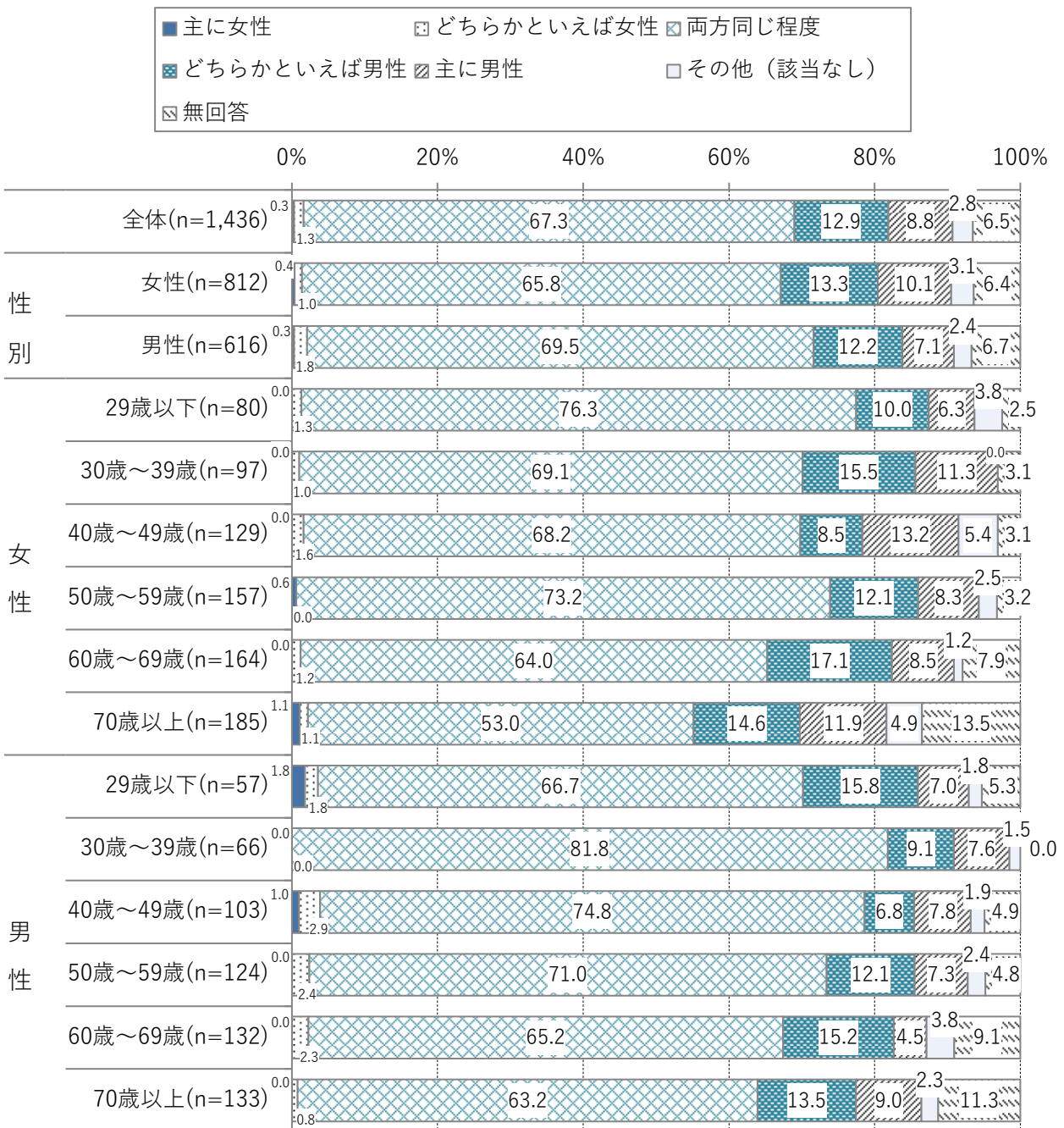
- 子どもの教育方針や進路の希望について、「両方同じ程度」の割合は80.4%となっています。
- 性別にみると、女性の「両方同じ程度」の割合は男性に比べて4.5ポイント高くなっています。
- 年齢階層別にみると、年齢階層が上がるにつれて、「両方同じ程度」の割合は概ね低くなっています。

【自治会やPTA 活動などの地域活動】



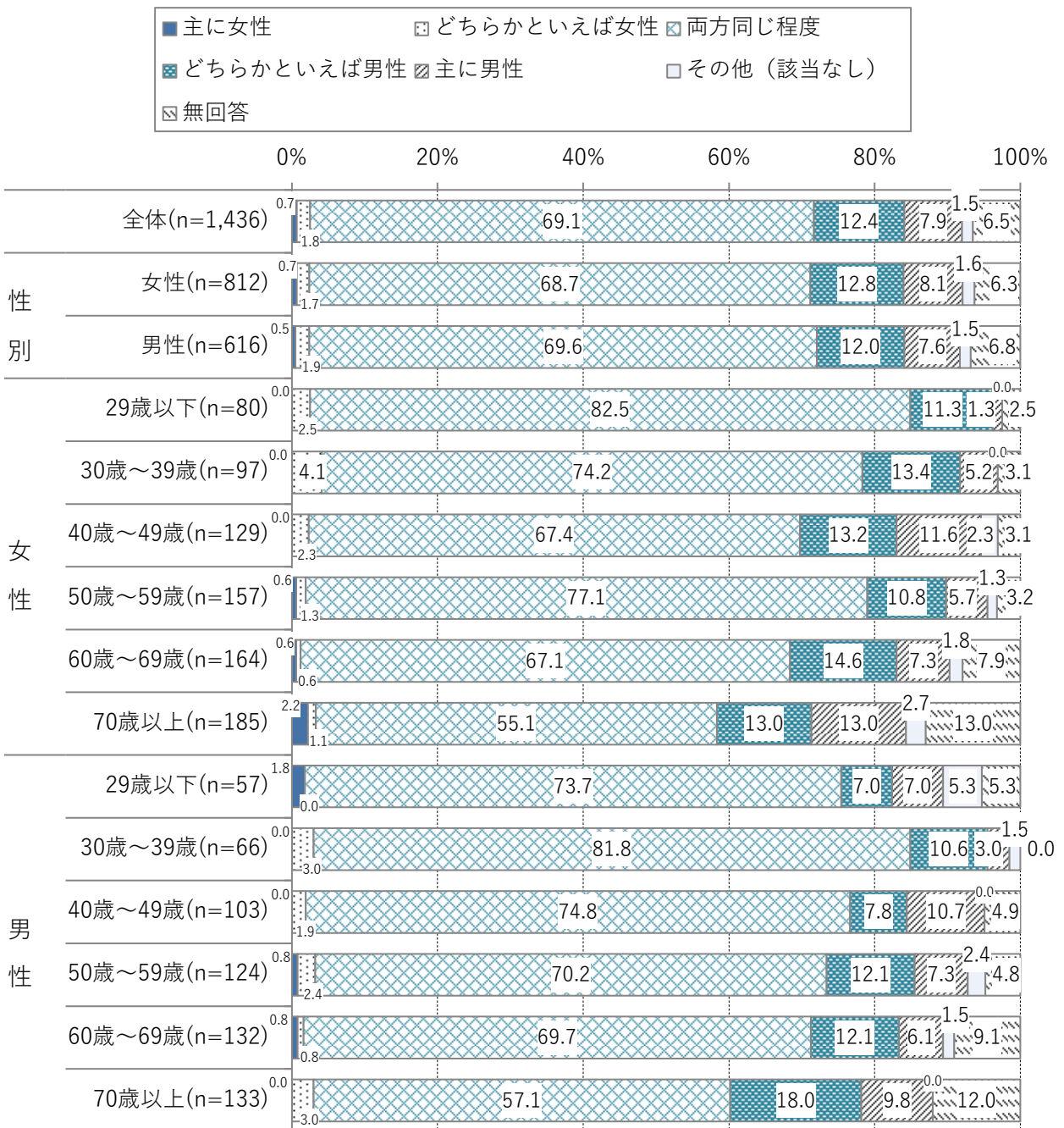
- 自治会やPTA活動などの地域活動の希望について、「両方同じ程度」の割合は67.3%となっています。
- 性別にみると、女性の「両方同じ程度」の割合は男性に比べて2.5ポイント低くなっています。

【高額の商品や土地・家屋の購入の決定】



- 高額の商品や土地・家屋の購入の決定の希望について、「両方同じ程度」の割合は 67.3% となっています。
- 性別にみると、女性の「両方同じ程度」の割合は男性に比べて 3.7 ポイント低くなっています。
- 年齢階層別にみると、女性の 30 歳～39 歳、70 歳以上の「両方同じ程度」の割合は男性の同年齢階層に比べて 10 ポイント以上低くなっています。

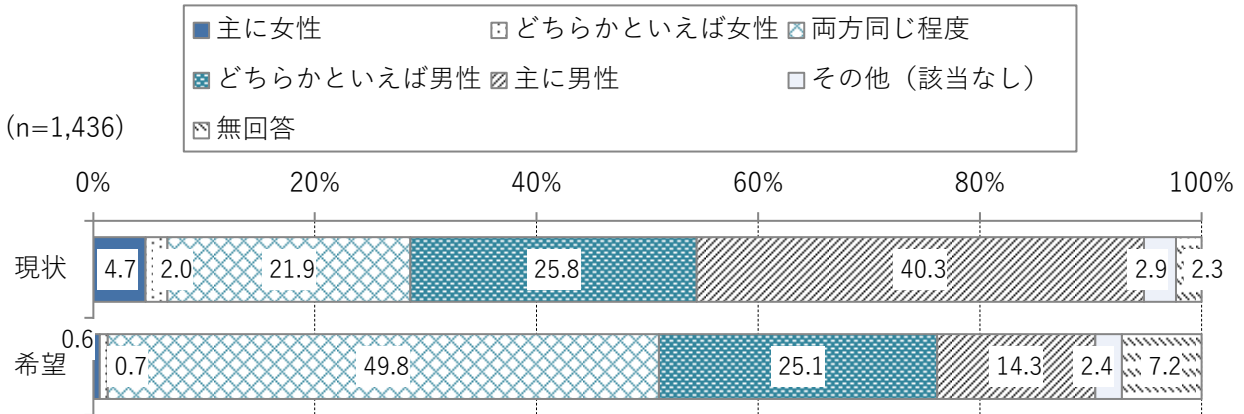
【家庭の問題における最終的な決定】



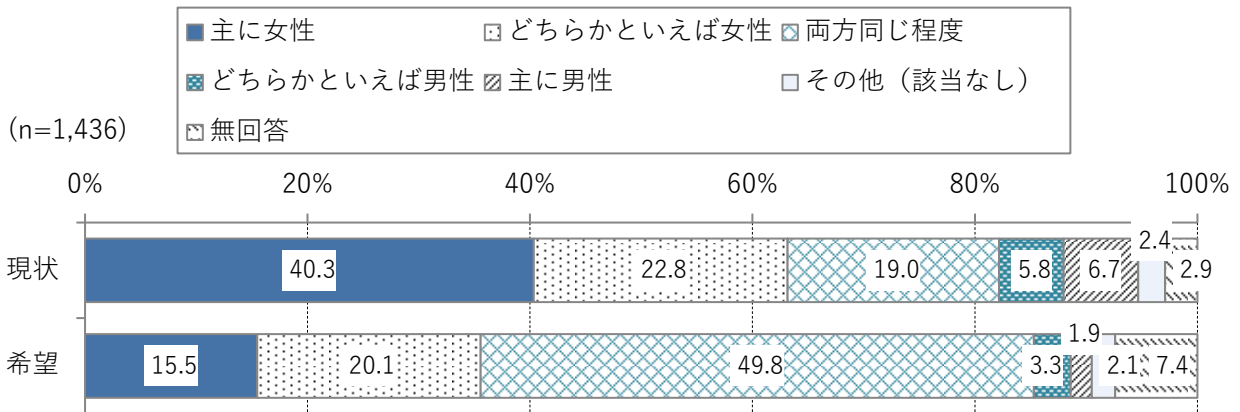
- 家庭の問題における最終的な決定の希望について、「両方同じ程度」の割合は 69.1%となっています。
- 性別にみても、女性と男性の「両方同じ程度」の割合に大きな差はみられません。

《現状と希望との比較》

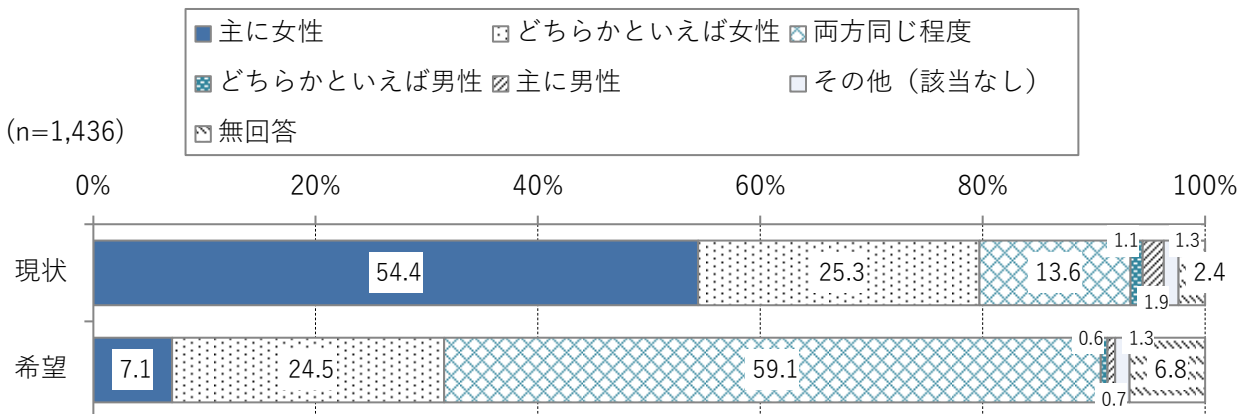
【生活費を得ること】



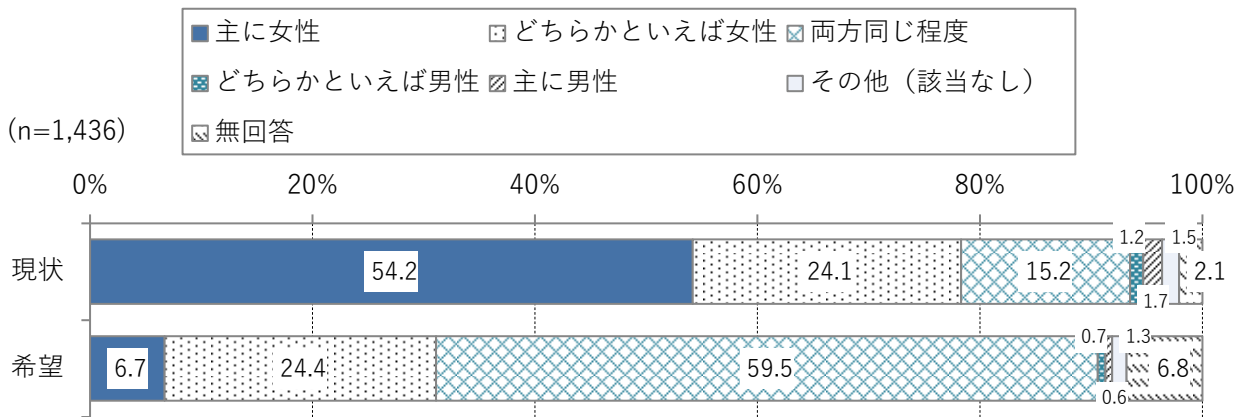
【家計の管理】



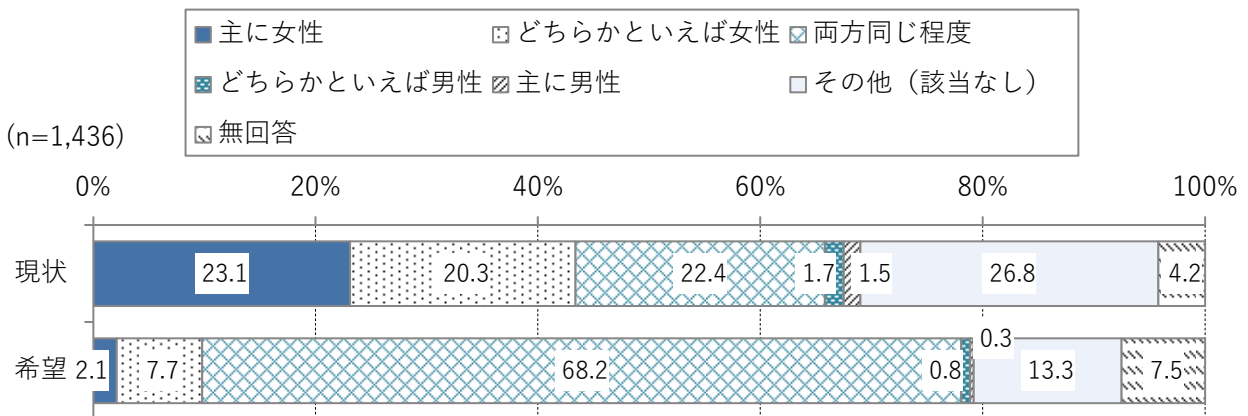
【食事の支度、片付けなどの家事】



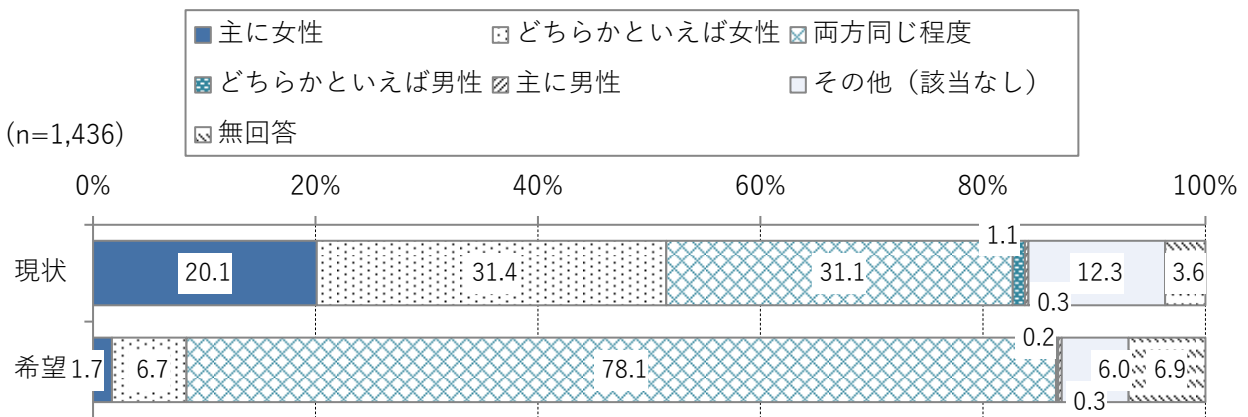
【掃除や洗濯などの家事】



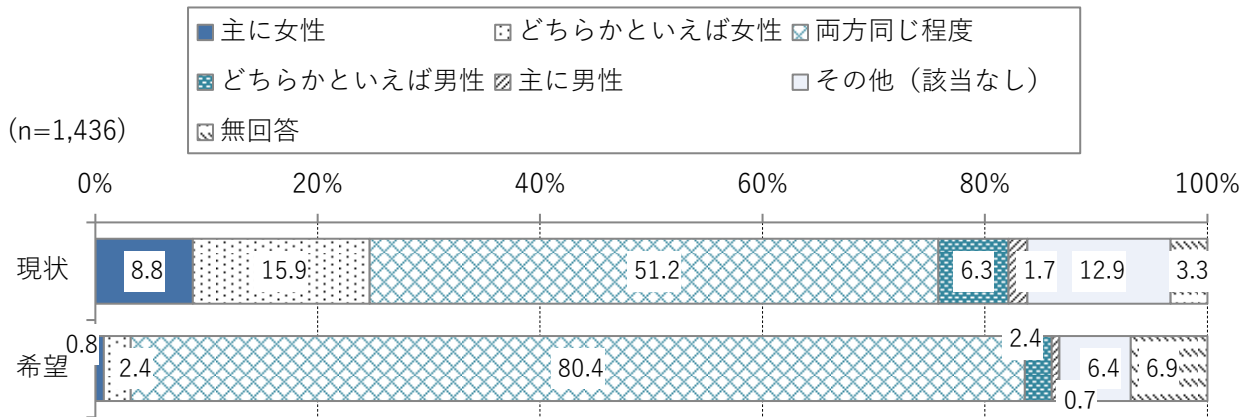
【家族の介護】



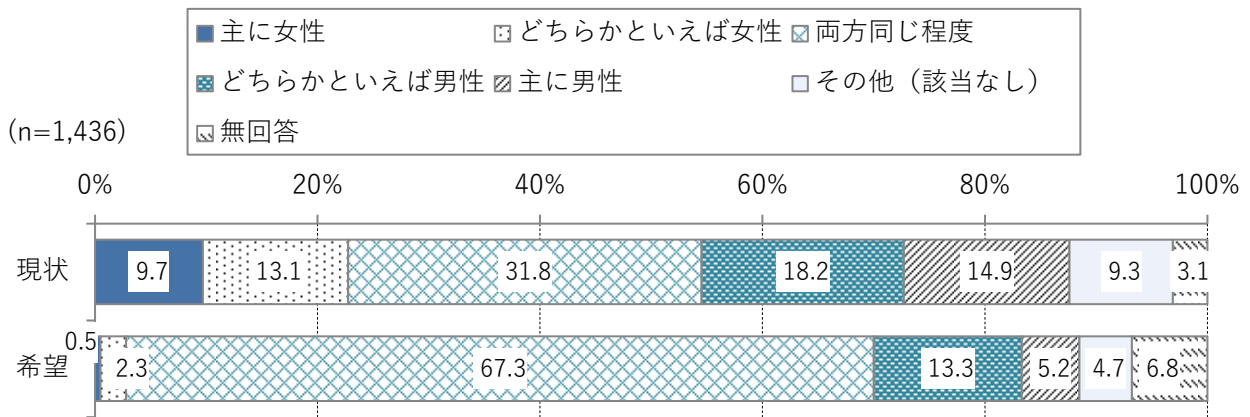
【子どもの世話・しつけ】



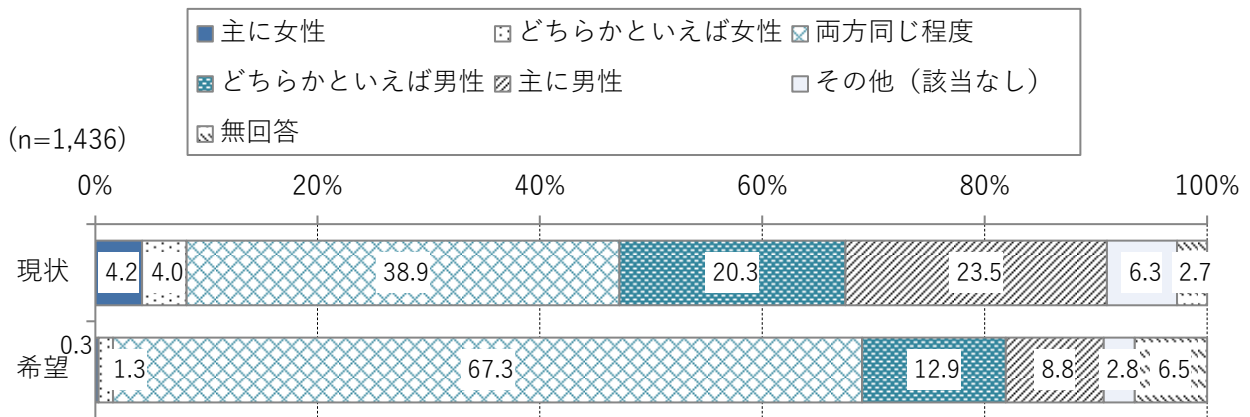
【子どもの教育方針や進路の決定】



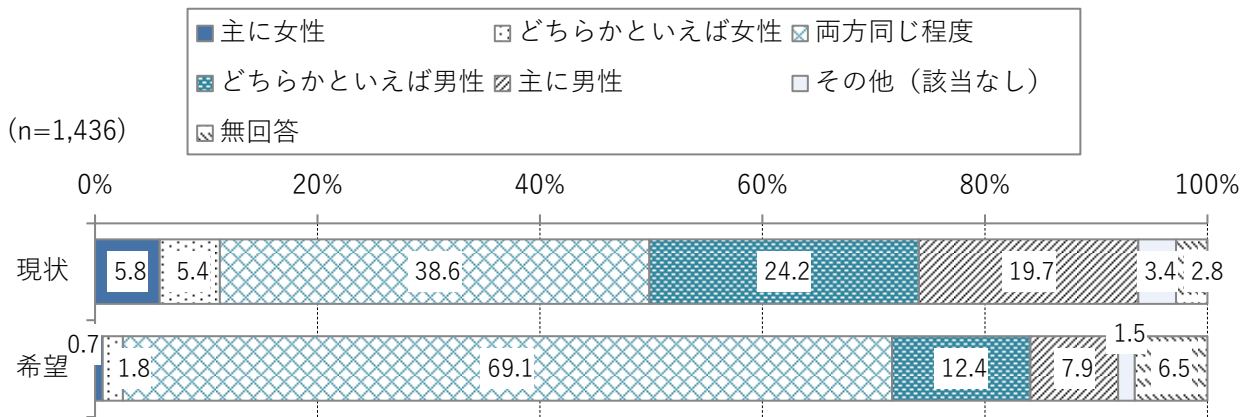
【自治会やPTA 活動などの地域活動】



【高額の商品や土地・家屋の購入の決定】



【家庭の問題における最終的な決定】

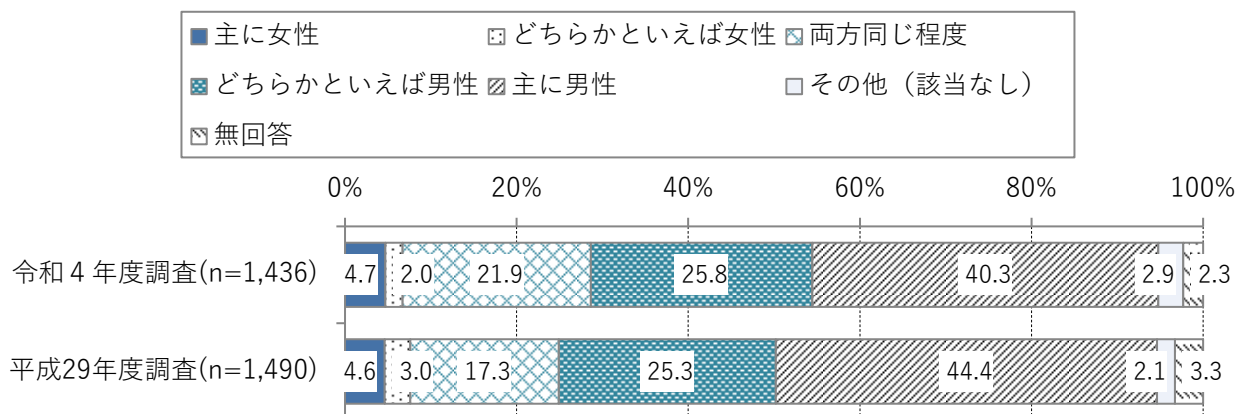


- すべての家庭の役割で、『女性』、『男性』ともに現状が希望を上回っており、「両方同じ程度」は現状が希望を下回っています。
- 『女性』の希望と現状の乖離が最も大きかった家庭の役割は「食事の支度、片付けなどの家事」となっており、その差は48.1%となっています。次いで「掃除や洗濯などの家事」(47.2%)、「子どもの世話・しつけ」(43.1%)となっています。
- 『男性』の希望と現状の乖離が最も大きかった家庭の役割は「生活費を得ること」となっており、その差は26.7%となっています。次いで「家庭の問題における最終的な決定」(23.6%)、「高額の商品や土地・家屋の購入の決定」(22.1%)となっています。

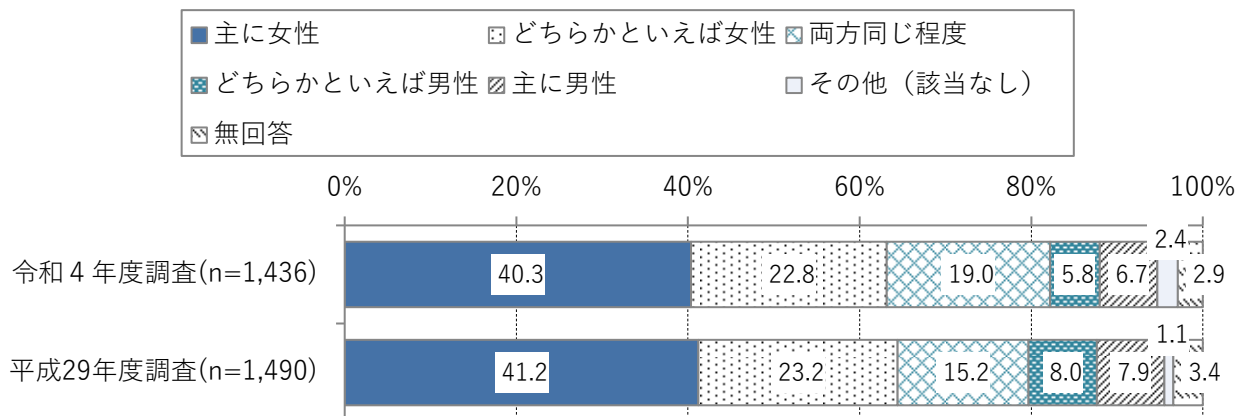


《経年比較（現状）》

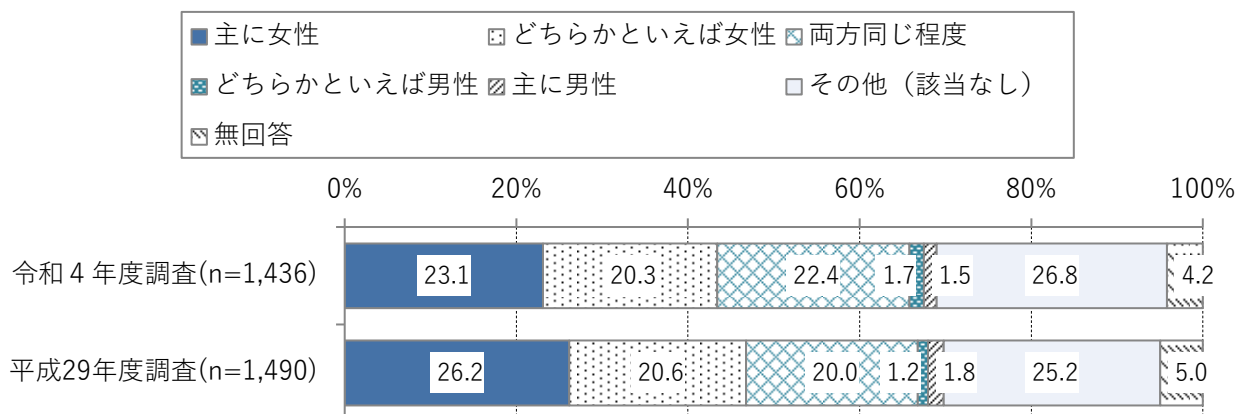
【生活費を得ること】



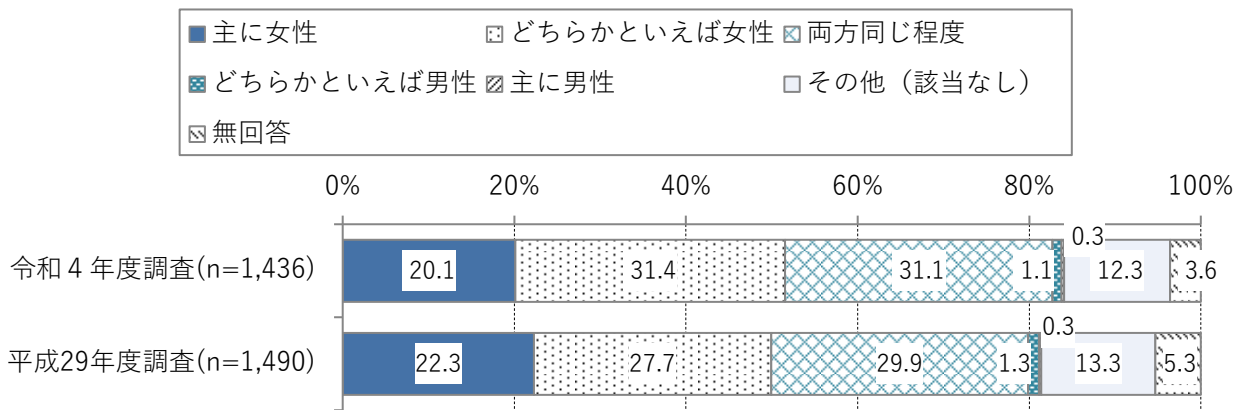
【家計の管理】



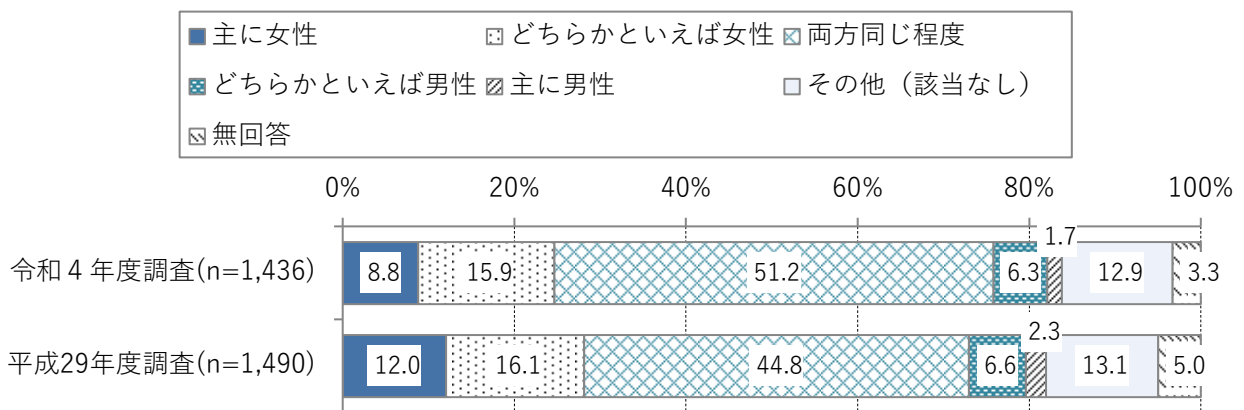
【家族の介護】



### 【子どもの世話・しつけ】



### 【子どもの教育方針や進路の決定】



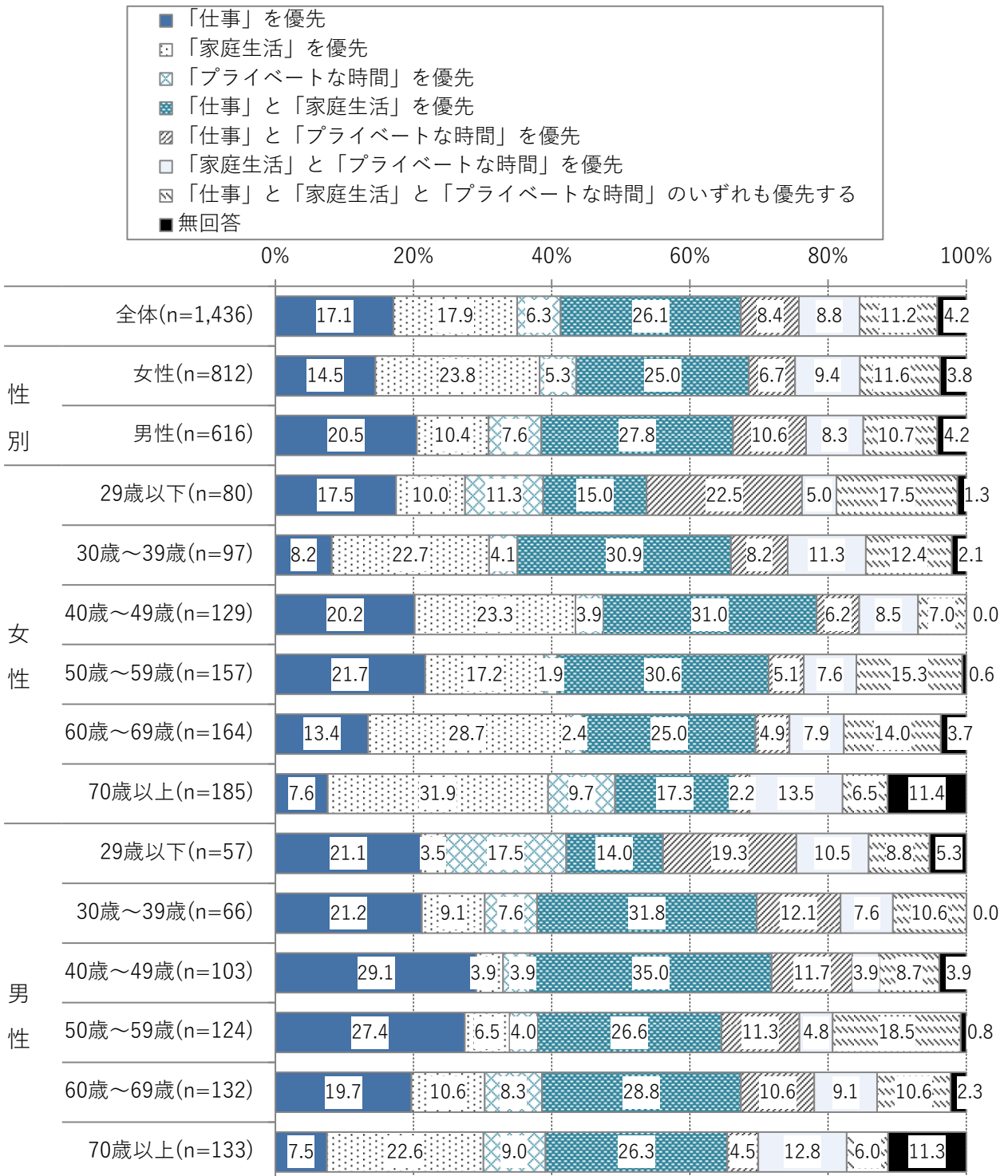
※「食事の支度、片付けなどの家事」、「掃除や洗濯などの家事」、「自治会やPTA活動などの地域活動」は平成29年度調査から設問が変更になったこと、「高額の商品や土地・家屋の購入の決定」、「家庭の問題における最終的な決定」は令和4年度調査から新規に設けた設問であることから比較不可。

- 平成29年度調査と比較すると、「子どもの世話・しつけ」をのぞくすべての家庭の役割において『女性』の割合が低くなっています。

### 3. 働き方・女性の活躍について

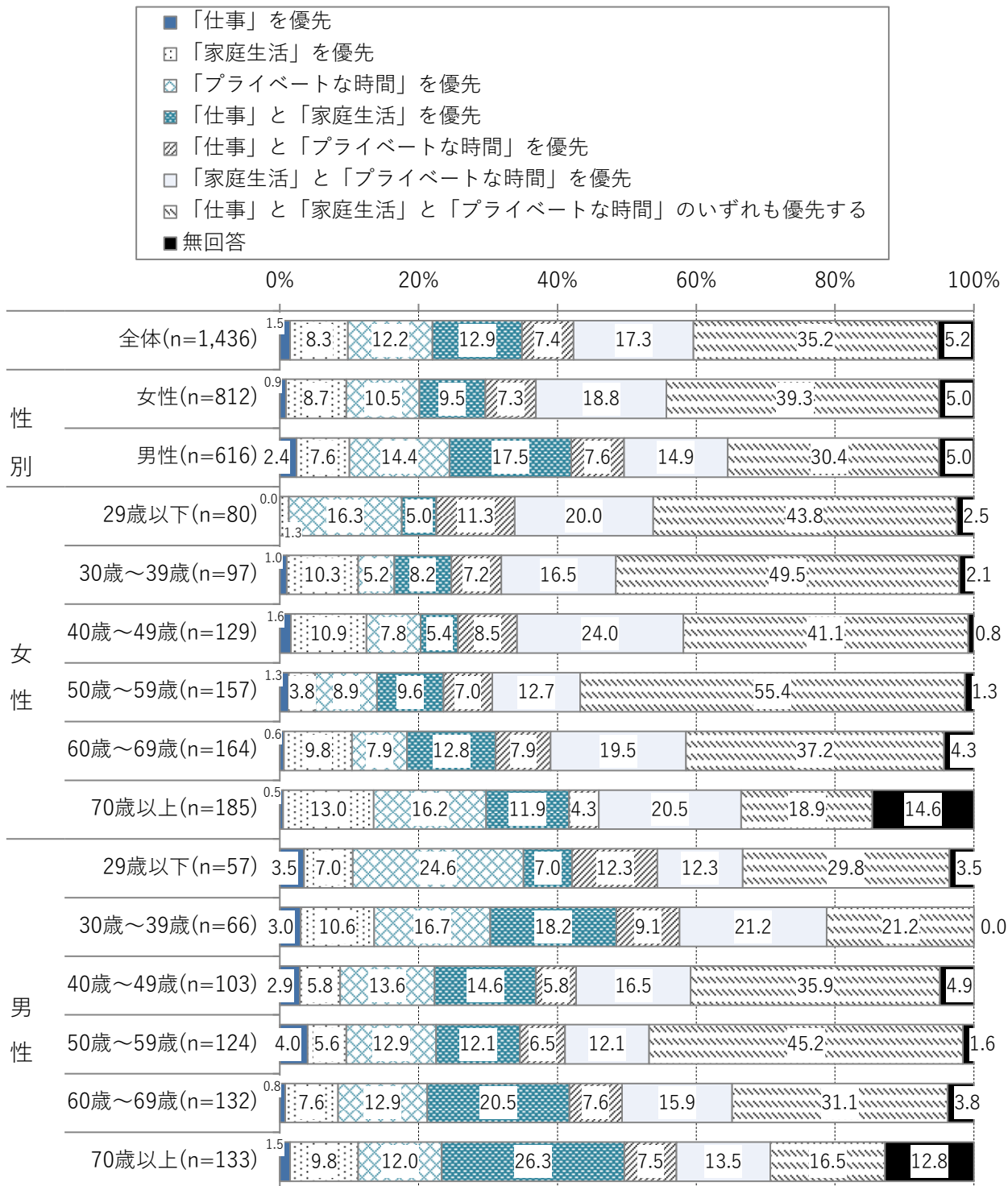
問5 あなたの生活の中での、「仕事」「家庭生活」「プライベートな時間」の優先度についておたずねします。あなたの生活は、次のどれにあてはまりますか。①現状の生活、②希望の生活のそれぞれについて、1つずつ選んで番号に○をつけてください。

【現状の生活】



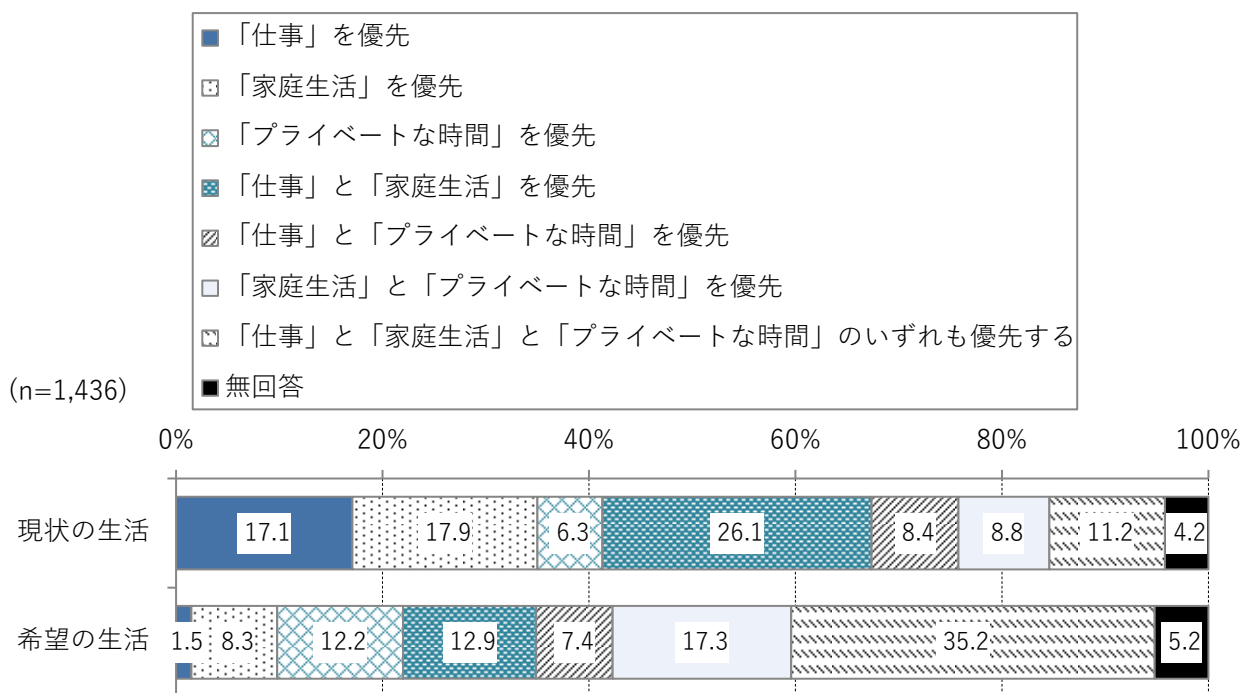
- 現状の生活の「仕事」「家庭生活」「プライベートな時間」の優先度について、「仕事」と「家庭生活」を優先」と回答した割合が最も高く 26.1%となっています。次いで、「家庭生活」を優先」（17.9%）、「仕事」を優先」（17.1%）と続いています。
- 性別にみると、女性の「家庭生活」を優先」の割合が男性に比べて13.4ポイント高くなっている一方、男性の「仕事」を優先」の割合は女性に比べて6.0ポイント高くなっています。
- 年齢階層別にみると、女性の29歳以下から50歳～59歳までの年齢階層の中で30歳～39歳の「仕事」を優先」の割合が、その他の年齢階層に比べて低くなっています。

【希望の生活】



- 希望の生活の「仕事」「家庭生活」「プライベートな時間」の優先度について、「仕事」と「家庭生活」と「プライベートな時間」のいずれも優先する」と回答した割合が最も高く 35.2%となっています。次いで、「家庭生活」と「プライベートな時間」を優先（17.3%）、「仕事」と「家庭生活」を優先（12.9%）と続いています。
- 性別にみると、女性の「仕事」と「家庭生活」と「プライベートな時間」のいずれも優先する」の割合が男性に比べて 8.9 ポイント高くなっている一方、男性の「仕事」と「家庭生活」を優先」の割合は女性に比べて 8.0 ポイント高くなっています。
- 年齢階層別にみると、女性のすべての年齢階層で「仕事」と「家庭生活」と「プライベートな時間」のいずれも優先する」の割合は男性に比べて高くなっている一方、「仕事」と「家庭生活」を優先」は男性の方が高くなっています。

《現在の生活と希望する生活の比較》



- 現在の生活と希望する生活を比較してみると、希望する生活に対して現状の生活との乖離が最も大きかったのは「仕事」を優先」となっており、15.6%となっています。また、現状の生活に対して希望する生活との乖離が最も大きかったのは「仕事」と「家庭生活」と「プライベートな時間」のいずれも優先する」となっており、24.0%となっています。

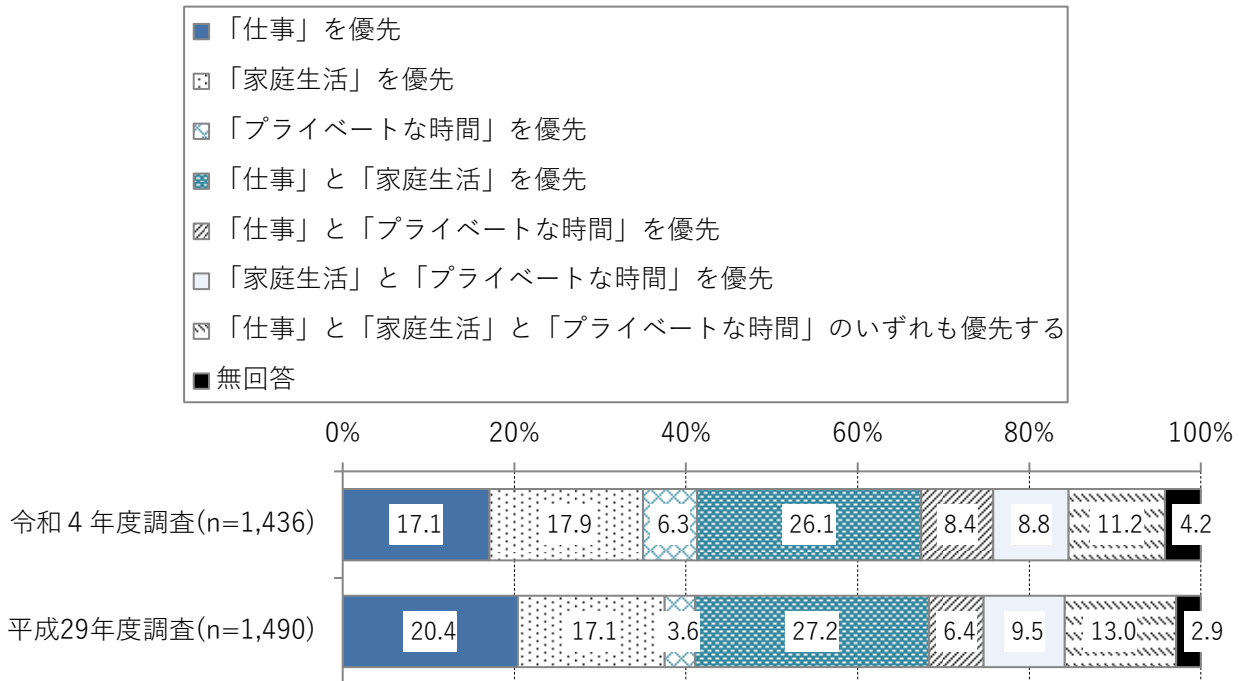
《希望の生活別現状の生活》

希望の生活		現状の生活							
		「仕事」を優先	「家庭生活」を優先	先「プライベートな時間」を優先	先「仕事」と「家庭生活」を優先	時間「仕事」と「プライベートな時間」を優先	「家庭生活」と「プライベートな時間」を優先	「仕事」と「プライベートな時間」のいずれも優先する	無回答
(%)									
希望の生活	「仕事」を優先 (n=22)	90.9	0.0	0.0	0.0	4.5	4.5	0.0	0.0
	「家庭生活」を優先 (n=119)	10.9	60.5	1.7	23.5	0.0	1.7	1.7	0.0
	「プライベートな時間」を優先 (n=175)	19.4	13.7	35.4	11.4	12.0	4.0	2.9	1.1
	「仕事」と「家庭生活」を優先 (n=185)	24.9	11.4	2.7	55.7	2.2	2.2	0.5	0.5
	「仕事」と「プライベートな時間」を優先 (n=106)	21.7	7.5	2.8	24.5	38.7	2.8	1.9	0.0
	「家庭生活」と「プライベートな時間」を優先 (n=248)	12.1	27.0	3.2	20.2	3.6	30.6	3.2	0.0
	「仕事」と「家庭生活」と「プライベートな時間」のいずれも優先する (n=506)	15.2	11.7	1.8	29.2	8.5	5.5	27.7	0.4

- 希望の生活別に現状の生活をみると、「「仕事」を優先」では、90.9%、「「家庭生活」を優先」では60.5%、「「仕事」と「家庭生活」を優先」では55.7%となっており、半数以上が希望と現実の生活が一致しています。一方、「「プライベートな時間」を優先」、「「仕事」と「プライベートな時間」を優先」、「「家庭生活」と「プライベートな時間」を優先」、「「仕事」と「家庭生活」と「プライベートな時間」のいずれも優先する」では希望と現実の生活が一致している人は半数を下回っており、「「仕事」を優先」、「「仕事」と「家庭生活」を優先」と回答した割合が比較的に高くなっています。

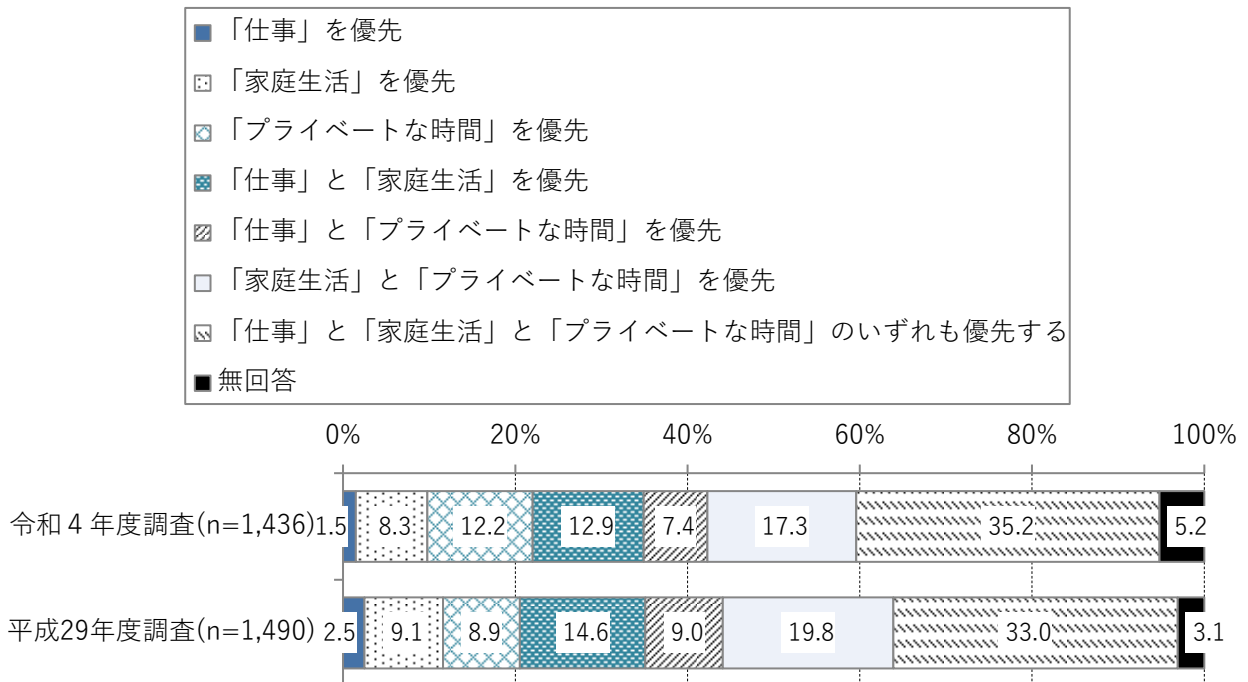
《経年比較》

【現状の生活】



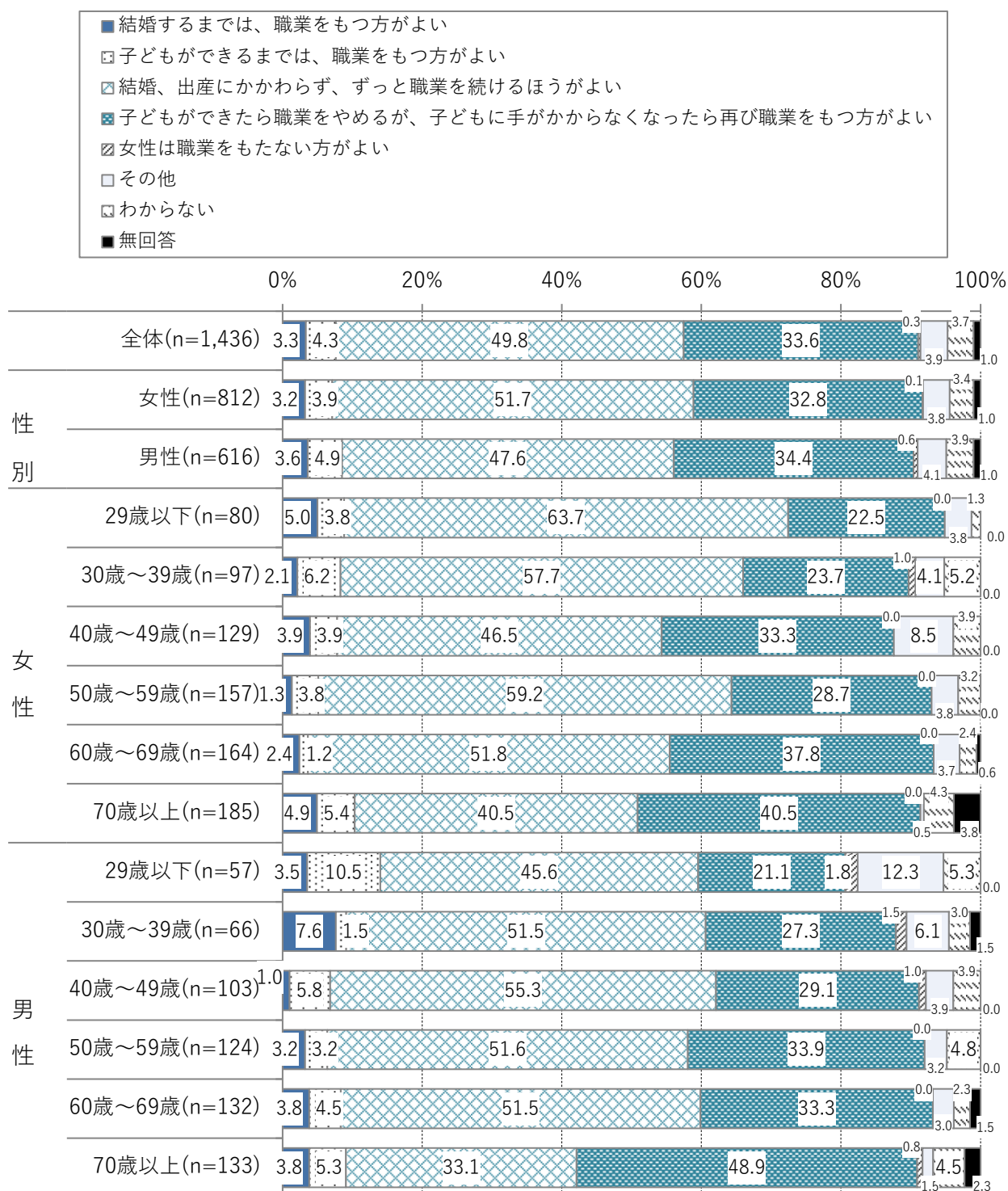
- 平成29年度調査と比較すると、「仕事」を優先の割合が3.3ポイント低くなっている一方、「プライベートな時間」を優先の割合が2.7ポイント高くなっています。

【希望の生活】



- 平成29年度調査と比較すると、「家庭生活」と「プライベートな時間」を優先の割合が2.5ポイント低くなっている一方、「プライベートな時間」を優先の割合が3.3ポイント高くなっています。

問6 あなたは、女性が職業（会社勤めなどの収入のある職業に限る）をもつことについてどのようにお考えですか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。

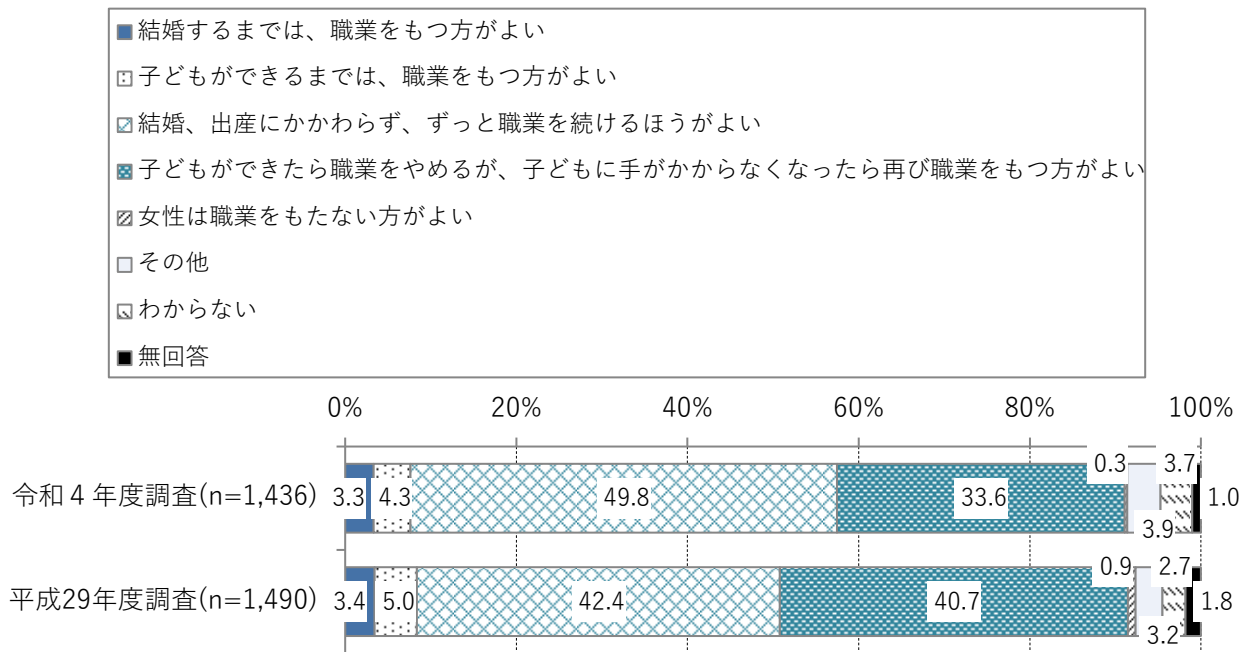


- 女性が職業をもつことについて、「結婚、出産にかかわらず、ずっと職業を続けるほうがよい」と回答した割合が最も高く 49.8%となっています。次いで、「子どもができたら職業をやめるが、子どもに手がかからなくなったら再び職業をもつ方がよい」(33.6%)、「子どもができるまでは、職業をもつ方がよい」(4.3%)と続いています。
- 性別にみると、女性の「結婚、出産にかかわらず、ずっと職業を続けるほうがよい」の割合が男性に比べて 4.1 ポイント高くなっています。



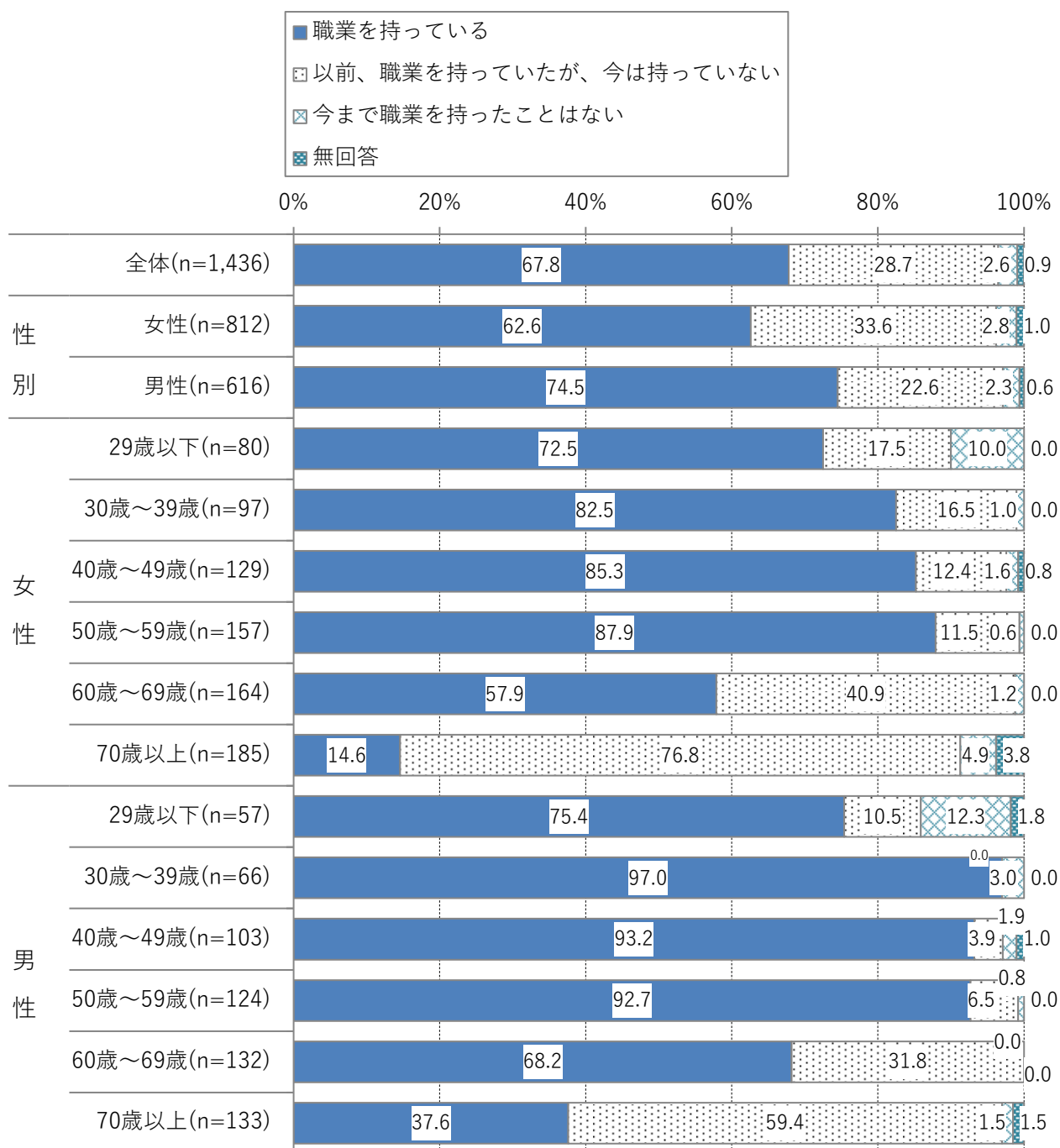
- 年齢階層別にみると、女性の29歳以下から50歳～59歳までの年齢階層の中で40歳～49歳の「結婚、出産にかかわらず、ずっと職業を続けるほうがよい」の割合が、その他の年齢階層に比べて低くなっています。

《経年比較》



- 平成29年度調査と比較すると、「子どもができたなら職業をやめるが、子どもに手がかからなくなったら再び職業をもつ方がよい」の割合が7.1ポイント低くなっている一方、「結婚、出産にかかわらず、ずっと職業を続けるほうがよい」の割合は7.4ポイント高くなっています。

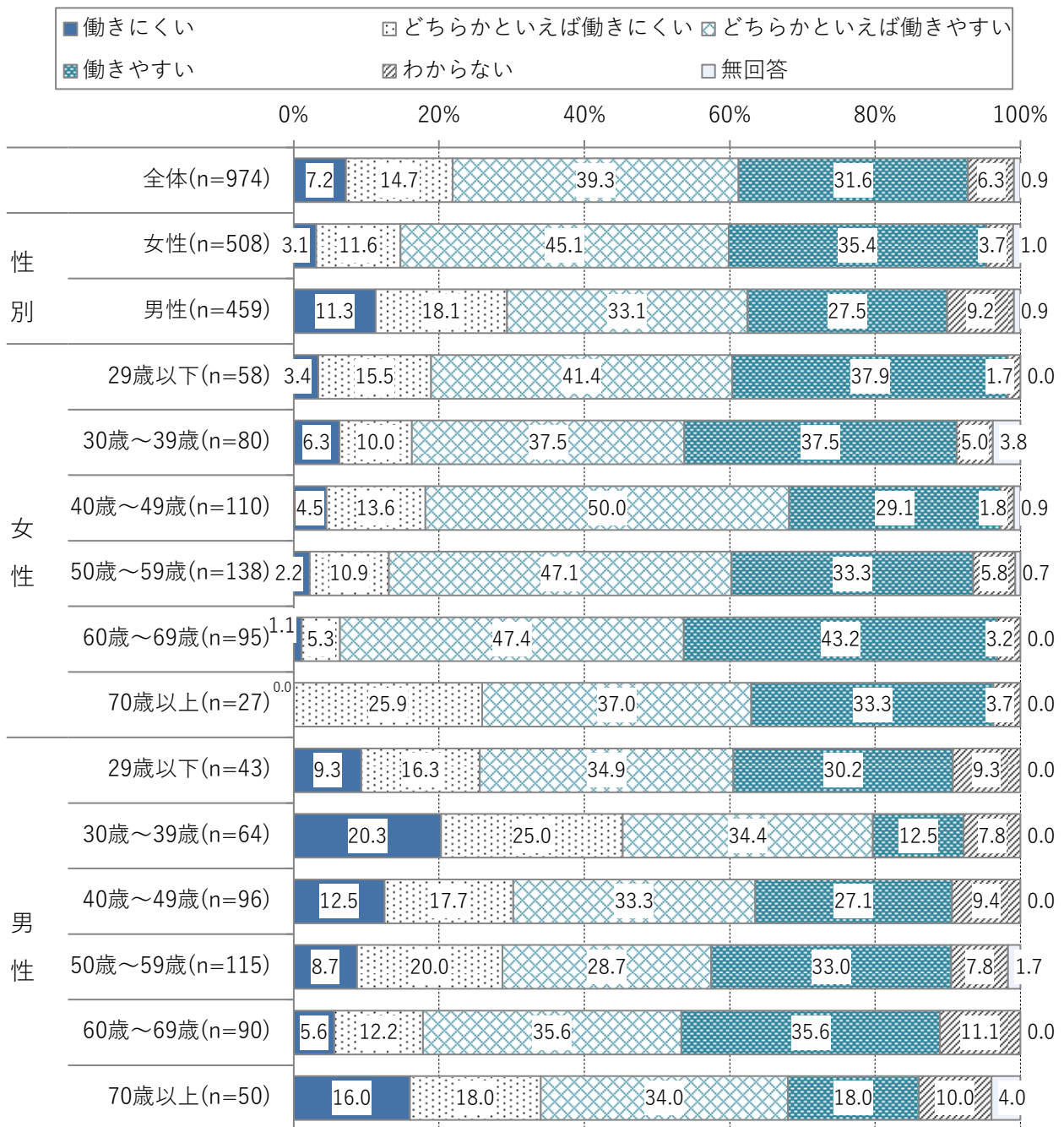
問7 あなたは現在、職業を持っていますか（内職・パート・アルバイト、自営業や農業などの手伝いも含みます）。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。



- 現在の就業状況について、「職業を持っている」と回答した割合が最も高く67.8%となっています。次いで、「以前、職業を持っていたが、今は持っていない」(28.7%)、「今まで職業を持ったことはない」(2.6%)と続いています。
- 性別にみると、女性の「職業を持っている」の割合は男性に比べて11.9ポイント低くなっています。
- 年齢階層別にみると、29歳以下では男女に大きな差はみられないものの、30～39歳より上の年齢階層では、いずれも「職業を持っている」の割合は女性の方が低くなっています。

【問7で「1 職業を持っている」に○をつけた方におたずねします。】

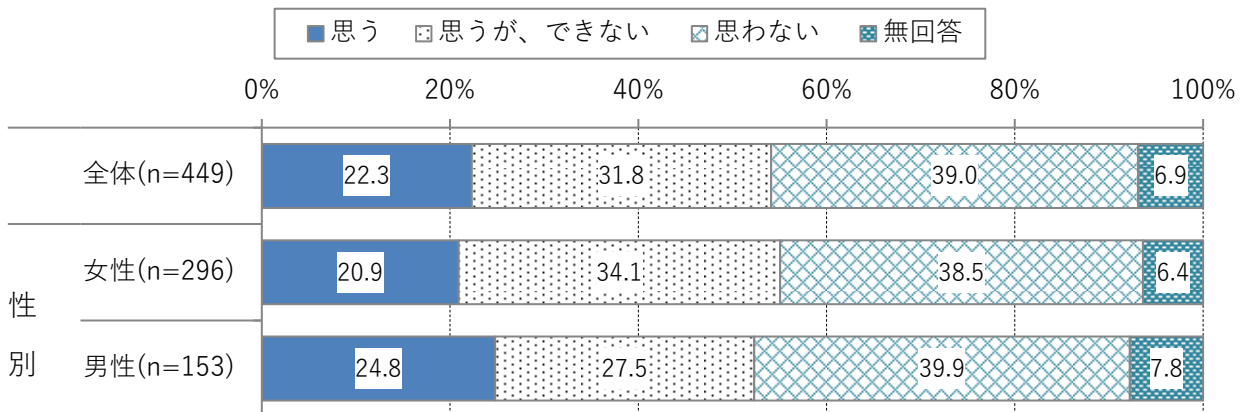
問8 あなたが現在勤めている職場は、女性にとって働きやすい職場だと思いますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。



- 現在勤めている職場が女性にとって働きやすい職場かについて、「どちらかといえば働きやすい」と回答した割合が最も高く 39.3%となっています。次いで、「働きやすい」(31.6%)、「どちらかといえば働きの悪い」(14.7%)と続いています。
- 性別にみると、女性の『働きの悪い』(「働きの悪い」と「どちらかといえば働きの悪い」の和)の割合は男性に比べて 14.7 ポイント低くなっています。
- 年齢階層別にみると、男性の 30 歳～39 歳の『働きの悪い』の割合がその他の年齢階層に比べて突出して高くなっています。

【問7で「2 以前、職業を持っていたが、今は持っていない」または「3 今まで職業を持ったことはない」に○をつけた方におたずねします。】

問9 できれば仕事に就きたいと思えますか。次の中から1つ選んで番号に○をつけてください。



- 現在職業を持っていない方にできれば仕事に就きたいと思うかたずねたところ、「思わない」と回答した割合が最も高く 39.0%となっています。次いで、「思うが、できない」(31.8%)、「思う」(22.3%)と続いています。

【問9で「2 思うが、できない」「3 思わない」に○をつけた方におたずねします。】

問10 仕事に就けない・就きたいと思わない理由は何ですか。次の中から3つまで（最大3つ）選んで番号に○をつけてください。

(%)		家族の理解が得られないから	家族に小さい子どもがいるから	高齢だから	家族に介護を必要とするものがあるから	健康状態が良くないから	家庭を大切にしたいから	適当な仕事が見つからないから	現在就学中、または職業訓練中だから	趣味やボランティアなどの活動をしていたいから	その他	無回答
全体	(n=318)	1.3	6.0	67.6	10.1	26.7	13.8	16.4	0.3	12.9	7.2	2.2
女性	(n=215)	0.9	7.9	67.9	12.6	26.0	17.7	15.8	0.5	11.2	6.0	1.9
男性	(n=103)	1.9	1.9	67.0	4.9	28.2	5.8	17.5	0.0	16.5	9.7	2.9

- 仕事に就けない・就きたいと思わない理由について、「高齢だから」と回答した割合が最も高く 67.6%となっています。次いで、「健康状態が良くないから」(26.7%)、「適当な仕事が見つからないから」(16.4%)と続いています。
- 性別にみると、男女ともに最も割合の高い「高齢だから」に大きな差はみられないものの、「家族に小さい子どもがいるから」、「家族に介護を必要とするものがあるから」、「家庭を大切にしたいから」は5ポイント以上女性の方が男性に比べて高くなっています。

問11 女性にとって、働きにくいことがある場合、どのようなことが挙げられますか。次の中から3つまで(最大3つ)選んで番号に○をつけてください。

(%)	募集・採用の機会が少ない	賃金に男女格差がある	補助的な業務や雑用が多い	能力を正當に評価されない	昇進、昇格に男女格差がある	女性に対する教育訓練機会が少ない	仕事と家庭が両立できる制度が十分整っていない	仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の雰囲気でない	仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の雰囲気でない	女性が働くことについて、上司や同僚の認識が足りない	生理など、体調不良時に休みが取りにくい	その他	特にない	無回答
全体 (n=1,436)	11.4	22.2	14.1	13.8	19.7	4.0	45.0	35.0	11.6	16.5	5.6	7.0	10.8	
性別														
女性 (n=812)	10.2	22.3	11.6	14.4	19.5	3.0	48.4	37.4	11.6	18.5	6.4	7.9	8.7	
男性 (n=616)	12.7	22.1	17.4	13.1	20.3	5.2	40.9	31.8	11.7	14.0	4.5	5.8	13.1	
女性														
29歳以下 (n=80)	2.5	31.3	8.8	11.3	33.8	0.0	57.5	53.8	7.5	40.0	0.0	6.3	1.3	
30歳～39歳 (n=97)	8.2	21.6	9.3	12.4	19.6	2.1	58.8	61.9	17.5	29.9	11.3	3.1	1.0	
40歳～49歳 (n=129)	10.9	26.4	13.2	13.2	17.8	3.1	59.7	46.5	8.5	25.6	7.8	3.9	3.9	
50歳～59歳 (n=157)	15.9	22.9	10.8	20.4	21.0	5.7	42.7	29.9	11.5	19.7	8.9	5.7	8.3	
60歳～69歳 (n=164)	9.1	23.8	14.6	15.2	17.7	2.4	48.2	29.9	15.9	6.7	5.5	6.1	12.2	
70歳以上 (n=185)	10.3	14.1	10.8	11.9	14.6	2.7	36.2	24.3	8.6	7.6	4.3	17.3	16.8	
男性														
29歳以下 (n=57)	15.8	22.8	8.8	3.5	19.3	7.0	59.6	52.6	12.3	33.3	3.5	1.8	0.0	
30歳～39歳 (n=66)	10.6	12.1	19.7	6.1	16.7	3.0	57.6	37.9	16.7	19.7	6.1	7.6	6.1	
40歳～49歳 (n=103)	13.6	17.5	14.6	14.6	23.3	6.8	39.8	33.0	8.7	18.4	6.8	7.8	8.7	
50歳～59歳 (n=124)	13.7	26.6	21.8	15.3	22.6	6.5	39.5	29.0	12.9	11.3	7.3	8.1	6.5	
60歳～69歳 (n=132)	14.4	24.2	19.7	18.2	19.7	4.5	37.9	31.8	15.2	11.4	2.3	4.5	13.6	
70歳以上 (n=133)	9.0	23.3	15.8	12.8	18.0	3.8	30.1	21.8	6.8	4.5	2.3	4.5	31.6	

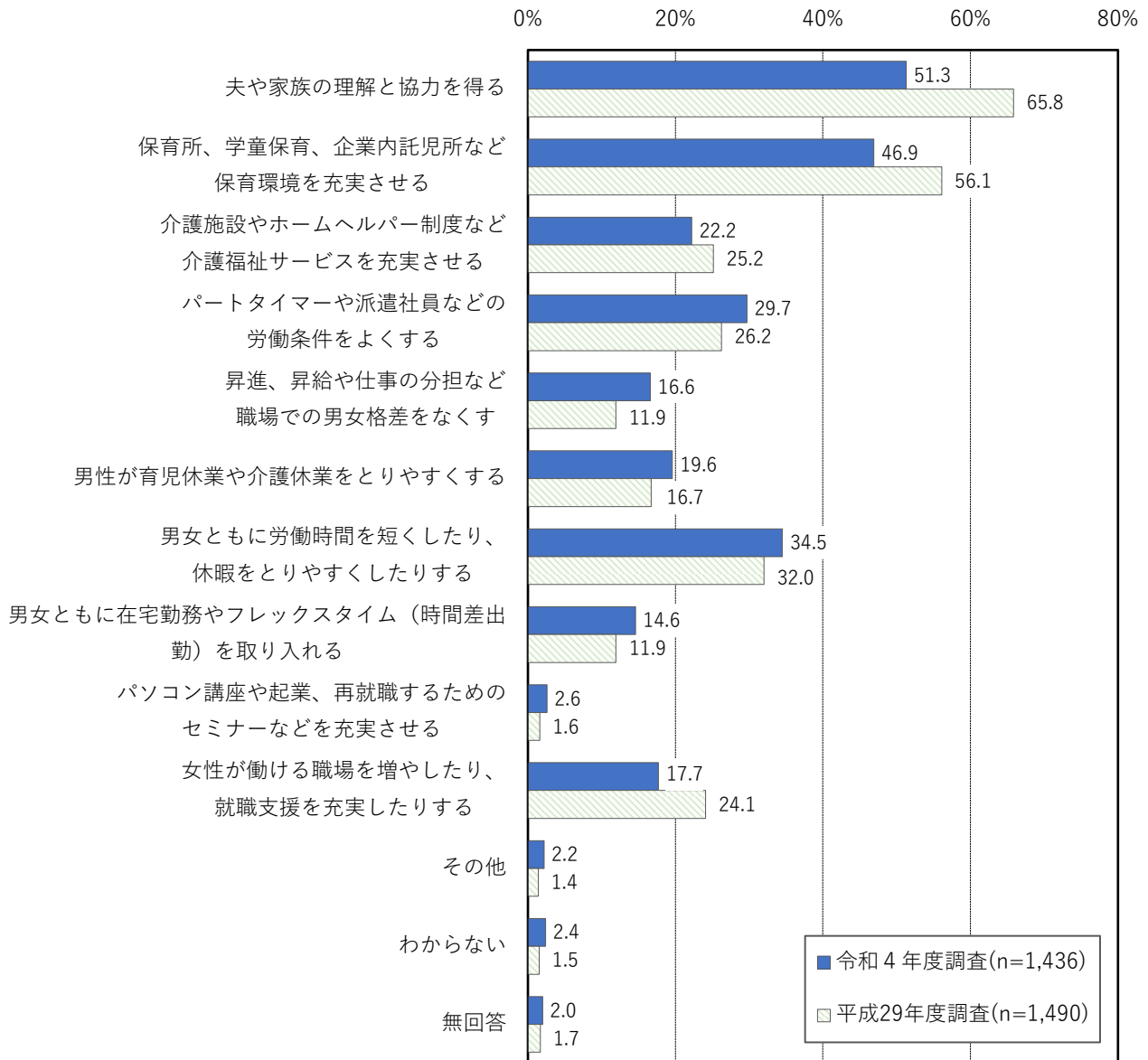
- 女性が働きにくいことについて、「仕事と家庭が両立できる制度が十分整っていない」と回答した割合が最も高く 45.0%となっています。次いで、「仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の雰囲気でない」(35.0%)、「賃金に男女格差がある」(22.2%)と続いています。
- 性別にみると、男女ともに最も高い割合は「仕事と家庭が両立できる制度が十分整っていない」、次いで高い割合は「仕事と家庭が両立できる制度があっても、それを利用できる職場の雰囲気でない」となっていますが、いずれも女性の方が5ポイント以上高くなっています。
- 年齢階層別にみると、年齢階層が下がるにつれて「仕事と家庭が両立できる制度が十分整っていない」の割合が概ね高くなっています。

問12 あなたは、女性が働きやすい環境をつくるためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。次の中から3つまで(最大3つ)選んで番号に○をつけてください。

(% )		夫や家族の理解と協力を得る	保育所、学童保育、企業内託児所など保育環境を充実させる	介護施設やホームヘルパー制度など	パートタイムや派遣社員などの労働条件をよくする	昇進、昇給や仕事の分担など職場での男女格差をなくす	男性が育児休業や介護休業をとりやすくなる	男女ともに労働時間を短くしたり、休暇をとりやすくしたりする	男女ともに在宅勤務やフレックスタイトム(時間差出勤)を取り入れる	女性のセミナーなどを充実させる	女性が働ける職場を増やしたり、就業支援を充実したりする	その他	わからない	無回答
全体 (n=1,436)		51.3	46.9	22.2	29.7	16.6	19.6	34.5	14.6	2.6	17.7	2.2	2.4	2.0
性別	女性 (n=812)	52.7	43.7	24.6	30.7	14.5	19.7	37.7	15.1	3.1	17.5	1.8	2.5	1.1
	男性 (n=616)	49.5	51.1	19.2	28.7	19.5	19.6	30.0	14.0	1.9	18.0	2.6	2.1	3.1
女性	29歳以下 (n=80)	35.0	57.5	8.8	21.3	26.3	41.3	56.3	17.5	1.3	11.3	2.5	0.0	0.0
	30歳～39歳 (n=97)	44.3	59.8	16.5	34.0	10.3	20.6	55.7	24.7	0.0	13.4	4.1	0.0	0.0
	40歳～49歳 (n=129)	41.1	37.2	14.7	35.7	14.7	20.2	48.1	23.3	3.1	19.4	2.3	1.6	0.0
	50歳～59歳 (n=157)	54.1	42.7	36.9	35.0	17.2	12.7	34.4	14.6	3.8	15.3	1.3	2.5	0.0
	60歳～69歳 (n=164)	64.0	50.6	28.7	28.7	12.2	20.7	29.9	9.8	3.7	20.7	1.8	1.2	1.2
70歳以上 (n=185)	61.6	28.6	28.6	27.6	11.4	14.6	22.7	8.6	4.3	20.0	0.5	6.5	3.8	
男性	29歳以下 (n=57)	40.4	47.4	14.0	26.3	10.5	35.1	43.9	19.3	0.0	15.8	1.8	1.8	1.8
	30歳～39歳 (n=66)	34.8	62.1	19.7	19.7	12.1	30.3	54.5	16.7	0.0	13.6	1.5	1.5	3.0
	40歳～49歳 (n=103)	53.4	41.7	11.7	31.1	23.3	15.5	30.1	18.4	1.9	17.5	6.8	1.9	2.9
	50歳～59歳 (n=124)	48.4	55.6	27.4	29.8	22.6	16.1	24.2	10.5	4.0	15.3	1.6	2.4	0.0
	60歳～69歳 (n=132)	56.8	56.8	20.5	29.5	23.5	18.2	24.2	8.3	2.3	21.2	2.3	0.0	1.5
70歳以上 (n=133)	51.9	44.4	18.0	30.8	17.3	15.0	22.6	15.8	1.5	21.1	1.5	4.5	8.3	

- 女性が働きやすい環境をつくるために必要なこととして、「夫や家族の理解と協力を得る」と回答した割合が最も高く 51.3%となっています。次いで、「保育所、学童保育、企業内託児所など保育環境を充実させる」(46.9%)、「男女ともに労働時間を短くしたり、休暇をとりやすくしたりする」(34.5%)と続いています。
- 性別にみると、女性は「夫や家族の理解と協力を得る」の割合が最も高くなっている一方、男性は「保育所、学童保育、企業内託児所など保育環境を充実させる」の割合が最も高くなっています。
- 年齢階層別にみると、女性の29歳以下、30歳～39歳では「保育所、学童保育、企業内託児所など保育環境を充実させる」、40歳～49歳では「男女ともに労働時間を短くしたり、休暇をとりやすくしたりする」、50歳～59歳より上の年齢階層では「夫や家族の理解と協力を得る」の割合が最も高くなっており、年齢階層によって求めることに差が見られます。また、男性は「保育所、学童保育、企業内託児所など保育環境を充実させる」の割合が、40歳～49歳、70歳以上を除くすべての年齢階層で最も高くなっており、40歳～49歳、70歳以上でも2番目に高くなっています。

《経年比較》



- 平成 29 年度調査と比較すると、「夫や家族の理解と協力を得る」は 14.5 ポイント、「保育所、学童保育、企業内託児所など保育環境を充実させる」は 9.2 ポイント低くなっています。

問13 男性の育児休業や介護休業等の取得が進まない状況ですが、今後どのようなことが必要だと思いますか。次の中から3つまで（最大3つ）選んで番号に○をつけてください。

（％）		休業する人の仕事の代わりをして くれる人を配置する	上司や同僚の理解を促進させる	休業しても収入が確保される	人事評価や昇給に影響を及ぼさない環境づくり	男性が家事などに参加することに対する抵抗感をなくす	男性の育児休業や介護休業の取得の前例を増やす	男性が子育てや介護をするためのネットワークづくりを進める	その他	わからない	無回答
全体 (n=1,436)		36.1	50.1	59.3	40.0	25.8	28.1	11.2	2.3	3.0	1.5
性別	女性 (n=812)	31.3	51.4	62.2	41.0	28.4	26.7	12.2	2.0	3.1	1.5
	男性 (n=616)	42.5	48.5	55.7	38.3	22.6	30.2	9.9	2.6	2.8	1.3
女性	29歳以下 (n=80)	22.5	58.8	70.0	56.3	27.5	30.0	16.3	2.5	1.3	0.0
	30歳～39歳 (n=97)	28.9	61.9	59.8	53.6	22.7	36.1	13.4	3.1	1.0	0.0
	40歳～49歳 (n=129)	30.2	46.5	64.3	44.2	24.8	32.6	12.4	4.7	0.8	0.0
	50歳～59歳 (n=157)	31.8	52.2	68.2	38.9	26.8	28.0	13.4	1.3	1.9	0.0
	60歳～69歳 (n=164)	40.2	56.1	59.1	42.1	30.5	22.0	6.1	0.6	1.2	1.8
	70歳以上 (n=185)	28.6	41.1	56.2	26.5	34.1	19.5	14.1	1.1	9.2	4.9
男性	29歳以下 (n=57)	33.3	52.6	61.4	38.6	21.1	43.9	10.5	1.8	1.8	0.0
	30歳～39歳 (n=66)	51.5	48.5	69.7	30.3	22.7	25.8	13.6	1.5	0.0	3.0
	40歳～49歳 (n=103)	50.5	45.6	47.6	34.0	16.5	21.4	6.8	8.7	4.9	1.0
	50歳～59歳 (n=124)	41.1	44.4	55.6	37.1	25.8	29.8	12.1	0.8	4.0	0.0
	60歳～69歳 (n=132)	42.4	51.5	54.5	45.5	26.5	33.3	7.6	1.5	0.0	0.0
	70歳以上 (n=133)	37.6	49.6	53.4	39.1	21.1	30.8	10.5	1.5	4.5	3.8

- 男性の育児休業や介護休業等の取得を進めるために必要なこととして、「休業しても収入が確保される」と回答した割合が最も高く 59.3%となっています。次いで、「上司や同僚の理解を促進させる」(50.1%)、「人事評価や昇給に影響を及ぼさない環境づくり」(40.0%)と続いています。
- 性別にみると、男女ともに最も高い割合は「休業しても収入が確保される」となっていますが、女性の方が6.5ポイント高くなっています。また、男性の「休業する人の仕事の代わりをしてくれる人を配置する」の割合が女性に比べて11.2ポイント高くなっています。
- 年齢階層別にみると、男女の多くの年齢階層で「休業しても収入が確保される」の割合が高くなっていますが、男性の30歳～39歳、40歳～49歳の「休業する人の仕事の代わりをしてくれる人を配置する」の割合が、その他の年齢階層に比べて高くなっています。



問 14 区長(自治会長)やPTA会長などの地域の役職について、女性が推薦されても断るケースがあります。その理由は何だと思いませんか。

女性の方は、自身が推薦された場合を、その他の方は妻などの身近な女性が推薦された場合を想定して、次の中から3つまで(最大3つ)選んで番号に○をつけてください。

(%)	責任が重い	家族の協力が得られない	役職につく知識や経験がない	女性は役職に向いていない	当人の職業生活に支障がでる	家事・育児や介護に支障がでる	人間関係がわずらわしい	こうした役職などに興味がでない	異性ばかりの組織でやりづらい	女性が役職につくことを快く思わない風習、社会通念がある	その他	無回答
全体 (n=1,436)	46.2	16.0	23.8	1.9	20.7	46.5	21.9	12.4	21.4	31.1	3.3	1.9
性別												
女性 (n=812)	48.5	14.9	27.7	2.2	20.3	49.6	18.8	11.2	20.9	31.0	2.7	1.4
男性 (n=616)	43.0	17.5	18.8	1.6	20.9	42.5	26.0	13.8	21.8	31.3	4.2	2.4
女性												
29歳以下 (n=80)	38.8	7.5	22.5	2.5	21.3	55.0	17.5	21.3	26.3	37.5	1.3	0.0
30歳～39歳 (n=97)	39.2	12.4	23.7	3.1	24.7	76.3	17.5	13.4	19.6	25.8	5.2	0.0
40歳～49歳 (n=129)	45.0	20.9	20.9	1.6	19.4	54.3	14.7	13.2	29.5	27.1	5.4	0.0
50歳～59歳 (n=157)	51.0	13.4	30.6	1.3	24.8	43.9	19.7	14.0	20.4	35.0	1.9	0.0
60歳～69歳 (n=164)	50.6	20.1	28.0	1.2	19.5	48.8	17.1	6.7	19.5	32.9	0.0	1.8
70歳以上 (n=185)	56.2	11.9	34.1	3.8	15.1	35.7	23.8	5.9	15.1	28.6	3.2	4.3
男性												
29歳以下 (n=57)	43.9	15.8	14.0	3.5	17.5	43.9	31.6	21.1	26.3	22.8	3.5	0.0
30歳～39歳 (n=66)	24.2	10.6	9.1	1.5	21.2	54.5	28.8	12.1	28.8	33.3	9.1	3.0
40歳～49歳 (n=103)	50.5	15.5	19.4	3.9	18.4	42.7	36.9	15.5	18.4	29.1	4.9	1.9
50歳～59歳 (n=124)	45.2	16.9	16.1	1.6	24.2	46.0	18.5	18.5	18.5	33.9	4.0	0.8
60歳～69歳 (n=132)	50.8	21.2	22.7	0.8	18.9	37.1	25.8	10.6	21.2	32.6	3.0	2.3
70歳以上 (n=133)	36.8	20.3	24.1	0.0	22.6	38.3	20.3	9.0	21.8	32.3	3.0	5.3

- 区長(自治会長)やPTA会長などの地域の役職に女性が推薦されても断る理由について、「家事・育児や介護に支障がでる」と回答した割合が最も高く 46.5%となっています。次いで、「責任が重い」(46.2%)、「女性が役職につくことを快く思わない風習、社会通念がある」(31.1%)と続いています。
- 性別にみると、女性の「役職につく知識や経験がない」の割合は男性に比べて8.9ポイント高くなっている一方、男性の「人間関係がわずらわしい」の割合は女性に比べて7.2ポイント高くなっています。
- 年齢階層別にみると、女性の30歳～39歳の「家事・育児や介護に支障がでる」の割合が、男性の同年齢階層に比べて21.8ポイント高くなっています。

問15 あなたの住んでいる地域において、以下のようなことがありますか。次の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。

（％）		「区長（自治会長）には男性を選ぶことが当然」という雰囲気がある	各地域の祭りなどの行事で、女性が参加できないものがある	会議などで、女性が見えにくい	会合では、お茶出しや準備・片付けなどは、女性が担当することが多い	男性が上座に、女性が下座に座る	会合や行事の時にセクシーな服装がある	その他	わからない	無回答
全体 (n=1,436)		57.2	17.7	14.3	44.6	10.8	5.8	2.7	19.3	3.3
性別	女性 (n=812)	55.9	16.5	15.3	46.7	10.6	5.7	2.6	21.4	3.0
	男性 (n=616)	59.1	19.5	13.1	42.2	11.2	5.8	2.9	16.2	3.6
女性	29歳以下 (n=80)	40.0	12.5	15.0	36.3	6.3	13.8	0.0	33.8	1.3
	30歳～39歳 (n=97)	28.9	7.2	15.5	38.1	3.1	8.2	2.1	43.3	3.1
	40歳～49歳 (n=129)	48.8	14.7	14.0	51.9	6.2	9.3	5.4	19.4	1.6
	50歳～59歳 (n=157)	55.4	21.7	11.5	44.6	10.8	5.7	3.8	20.4	1.3
	60歳～69歳 (n=164)	73.8	23.2	18.3	50.0	11.0	1.8	1.2	15.9	1.8
	70歳以上 (n=185)	66.5	14.1	16.8	50.8	18.9	1.6	2.2	11.9	7.0
男性	29歳以下 (n=57)	26.3	15.8	12.3	35.1	5.3	10.5	1.8	38.6	0.0
	30歳～39歳 (n=66)	34.8	12.1	12.1	28.8	4.5	12.1	6.1	30.3	3.0
	40歳～49歳 (n=103)	45.6	13.6	9.7	39.8	10.7	11.7	1.9	22.3	4.9
	50歳～59歳 (n=124)	62.1	21.8	9.7	45.2	9.7	2.4	4.8	12.9	4.0
	60歳～69歳 (n=132)	69.7	23.5	19.7	42.4	12.1	3.8	1.5	9.8	5.3
	70歳以上 (n=133)	82.0	23.3	13.5	51.1	18.0	1.5	2.3	4.5	2.3

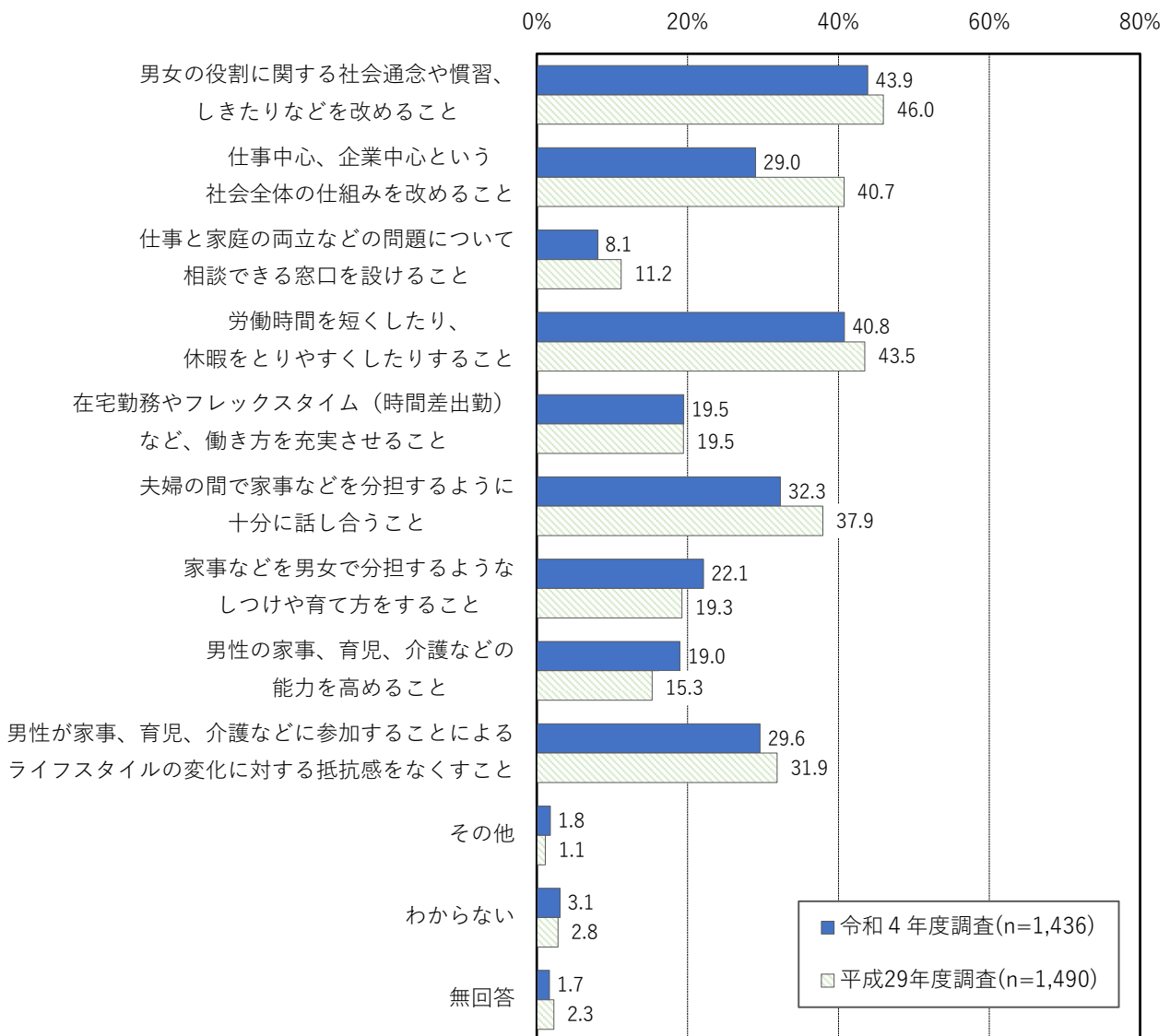
- 住んでいる地域に残っている言動や習慣について、「区長（自治会長）には男性を選ぶことが当然」という雰囲気がある」と回答した割合が最も高く 57.2%となっています。次いで、「会合でのお茶出しや準備・片付けなどは、女性が担当することが多い」（44.6%）、「各地域の祭りなどの行事で、女性が参加できないものがある」（17.7%）と続いています。
- 年齢階層別にみると、男女ともに年齢階層が上がるにつれて、「区長（自治会長）には男性を選ぶことが当然」という雰囲気がある」の割合が概ね高くなっています。

問 16 あなたは、女性と男性がともに働きながら家事、育児や教育、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。次の中から3つまで(最大3つ)選んで番号に○をつけてください。

(%)	男女の役割に関する社会通念や慣習、しきたりなどを改めること	仕事中心、企業中心という社会全体の仕組みを改めること	仕事と家庭の両立などの問題について相談できる窓口を設けること	労働時間を短くしたり、休暇をとりやすくしたりすること	在宅勤務やフレックスタイトム、時間差(通勤)など、働き方を充実させること	夫婦の間で家事などを分担するように十分に話し合うこと	家事などを男女で分担するようないつや育て方をすること	男性の家事、育児、介護などの能力を高めること	男性が家事、育児、介護などに参加することによるライフスタイルの変化に対する抵抗感をなくすこと	その他	わからない	無回答
全体 (n=1,436)	43.9	29.0	8.1	40.8	19.5	32.3	22.1	19.0	29.6	1.8	3.1	1.7
性別												
女性	41.1	25.4	8.3	41.5	20.1	32.6	26.0	18.7	35.3	1.6	3.1	2.0
男性	47.7	33.9	8.0	39.8	18.8	32.1	17.2	19.5	22.1	1.9	2.9	1.3
年齢階層別												
29歳以下 (n=80)	35.0	42.5	6.3	55.0	25.0	25.0	18.8	18.8	35.0	2.5	1.3	0.0
30歳～39歳 (n=97)	41.2	32.0	6.2	50.5	33.0	34.0	25.8	18.6	27.8	3.1	0.0	0.0
40歳～49歳 (n=129)	35.7	26.4	8.5	48.8	24.8	28.7	24.8	18.6	34.1	3.9	1.6	0.0
50歳～59歳 (n=157)	47.8	27.4	7.0	35.7	19.1	30.6	29.3	15.9	36.3	0.0	3.2	1.3
60歳～69歳 (n=164)	44.5	21.3	6.1	37.2	14.6	36.0	31.7	20.7	40.2	0.0	3.0	1.8
70歳以上 (n=185)	38.9	15.7	13.0	34.6	13.5	36.8	22.2	19.5	35.1	1.6	6.5	5.9
男性												
29歳以下 (n=57)	38.6	40.4	1.8	50.9	24.6	17.5	17.5	28.1	17.5	1.8	7.0	0.0
30歳～39歳 (n=66)	43.9	37.9	4.5	54.5	25.8	30.3	10.6	13.6	19.7	3.0	3.0	0.0
40歳～49歳 (n=103)	40.8	40.8	10.7	39.8	22.3	18.4	14.6	15.5	19.4	4.9	4.9	1.0
50歳～59歳 (n=124)	43.5	34.7	8.1	42.7	18.5	33.1	23.4	22.6	16.9	0.8	3.2	0.0
60歳～69歳 (n=132)	62.1	23.5	8.3	34.8	17.4	35.6	19.7	18.9	28.8	0.8	0.0	0.8
70歳以上 (n=133)	48.1	33.1	9.8	30.1	12.0	45.9	14.3	19.5	25.6	1.5	2.3	4.5

- 女性と男性がともに働きながら家事、育児や教育、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なこととして、「男女の役割に関する社会通念や慣習、しきたりなどを改めること」と回答した割合が最も高く 43.9%となっています。次いで、「労働時間を短くしたり、休暇をとりやすくしたりすること」(40.8%)、「夫婦の間で家事などを分担するように十分に話し合うこと」(32.3%)と続いています。
- 性別にみると、女性の「男性が家事、育児、介護などに参加することによるライフスタイルの変化に対する抵抗感をなくすこと」の割合が男性に比べて 13.2 ポイント高くなっています。
- 年齢階層別にみると、女性の 40 歳～49 歳より下の年齢階層では「労働時間を短くしたり、休暇をとりやすくしたりすること」の割合が最も高くなっている一方、50 歳～59 歳より上の年齢階層では「男女の役割に関する社会通念や慣習、しきたりなどを改めること」の割合が最も高くなっています。また、男女ともに年齢階層が下がるにつれて、「仕事中心、企業中心という社会全体の仕組みを改めること」の割合が概ね高くなっています。

《経年比較》



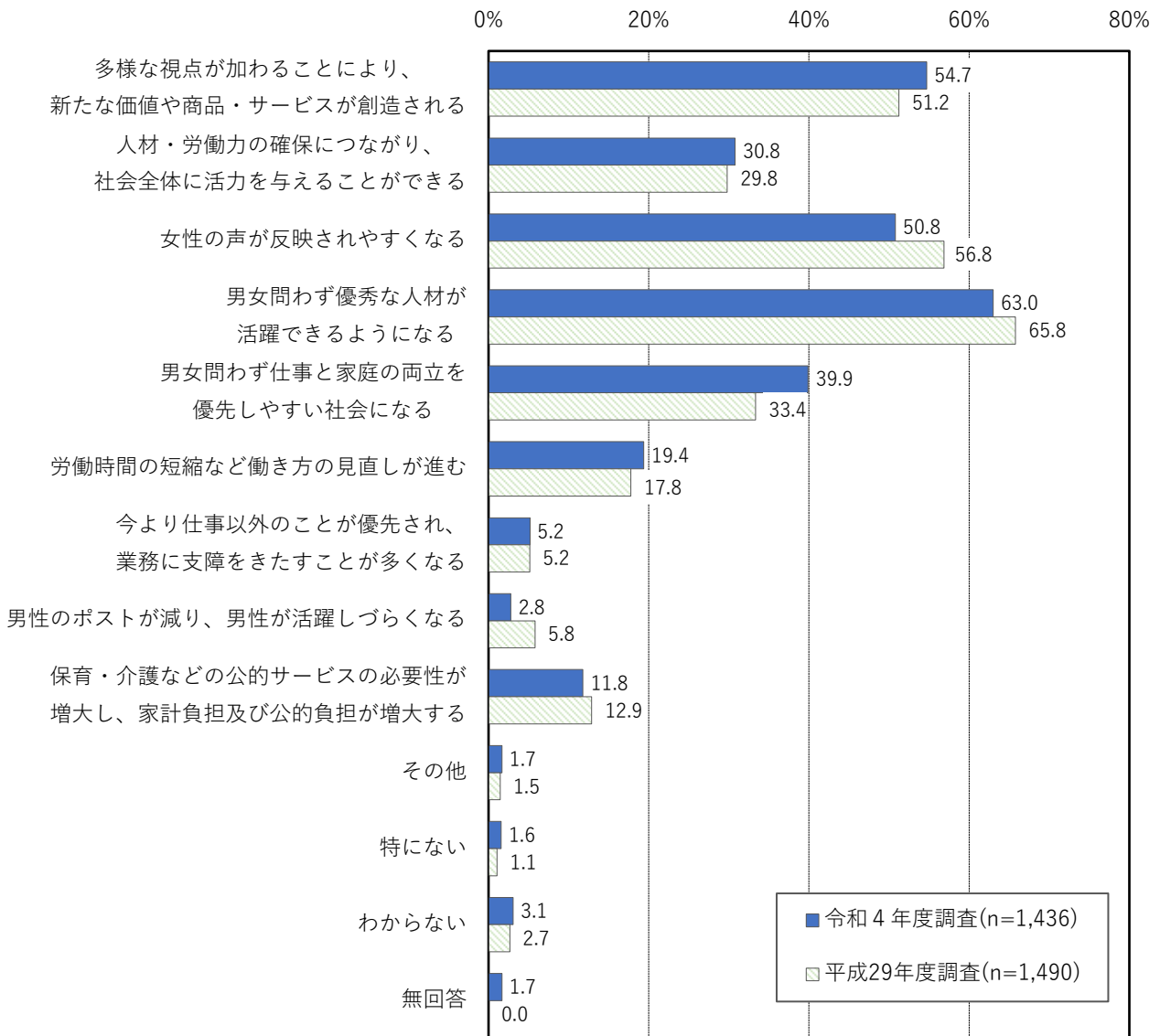
- 平成 29 年度調査と比較すると、「仕事中心、企業中心という社会全体の仕組みを改めること」が 11.7 ポイント、「夫婦の間で家事などを分担するように十分に話し合うこと」が 5.6 ポイント低くなっている一方、「男性の家事、育児、介護などの能力を高めること」は 3.7 ポイント高くなっています。

問17 政治・経済・地域などの各分野で、女性の参加が進み、女性のリーダーが増えるるとどのような影響があると思いますか。次の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。

（％）		や多様な商品・サービスが加わるにより、新たな価値が創造される	人材・労働力の確保につながり、社会全体に活力を与えることができる	女性の声が反映されやすくなる	男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる	男女問わず仕事と家庭の両立を優先しやすい社会になる	労働時間の短縮など働き方の見直しが進む	障をきたすことが多くなる	今より仕事以外のことが優先され、業務に支障をきたすことが多くなる	男性のポストが減り、男性が活躍しづらくなる	保育・介護などの公的サービスの必要性が増大する	その他	特にない	わからない	無回答
全体 (n=1,436)		54.7	30.8	50.8	63.0	39.9	19.4	5.2	2.8	11.8	1.7	1.6	3.1	1.7	
性別	女性 (n=812)	55.9	28.2	52.2	63.3	41.9	20.8	4.6	2.1	13.1	1.4	1.5	3.0	2.0	
	男性 (n=616)	53.1	34.4	49.2	63.0	37.5	17.4	6.2	3.7	10.2	2.1	1.8	3.2	1.1	
女性	29歳以下 (n=80)	57.5	33.8	65.0	60.0	52.5	30.0	3.8	3.8	11.3	0.0	2.5	2.5	0.0	
	30歳～39歳 (n=97)	57.7	24.7	55.7	63.9	46.4	34.0	5.2	0.0	10.3	4.1	1.0	2.1	0.0	
	40歳～49歳 (n=129)	56.6	21.7	52.7	68.2	47.3	21.7	3.9	1.6	14.0	1.6	0.8	1.6	0.0	
	50歳～59歳 (n=157)	61.1	28.7	56.1	62.4	38.2	13.4	8.3	0.0	14.6	2.5	1.9	3.8	1.3	
	60歳～69歳 (n=164)	59.1	34.8	48.2	70.1	36.6	18.3	2.4	1.8	18.3	0.0	0.0	1.8	2.4	
70歳以上 (n=185)	46.5	25.9	44.9	55.7	38.9	17.8	3.8	4.9	8.6	0.5	2.7	4.9	5.4		
男性	29歳以下 (n=57)	42.1	21.1	42.1	52.6	35.1	24.6	5.3	7.0	8.8	5.3	0.0	10.5	0.0	
	30歳～39歳 (n=66)	59.1	31.8	51.5	59.1	45.5	25.8	6.1	6.1	6.1	1.5	0.0	1.5	0.0	
	40歳～49歳 (n=103)	52.4	24.3	42.7	53.4	38.8	14.6	6.8	4.9	6.8	3.9	5.8	3.9	1.0	
	50歳～59歳 (n=124)	60.5	31.5	47.6	65.3	29.8	16.1	4.0	0.8	10.5	1.6	2.4	2.4	0.0	
	60歳～69歳 (n=132)	55.3	39.4	56.1	72.7	37.1	15.2	8.3	3.8	12.9	1.5	0.8	2.3	1.5	
70歳以上 (n=133)	45.9	47.4	51.1	64.7	40.6	15.8	6.0	3.0	12.8	0.8	0.8	2.3	3.0		

- 各分野で女性のリーダーが増えると影響があることについて、「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」と回答した割合が最も高く 63.0%となっています。次いで、「多様な視点が加わるにより、新たな価値や商品・サービスが創造される」(54.7%)、「女性の声が反映されやすくなる」(50.8%)と続いています。
- 性別にみると、女性の「人材・労働力の確保につながり、社会全体に活力を与えることができる」の割合が男性に比べて6.2ポイント低くなっています。
- 年齢階層別にみると、女性の「女性の声が反映されやすくなる」の割合は、年齢階層が下がるにつれて概ね高くなる傾向にあります。

《経年比較》



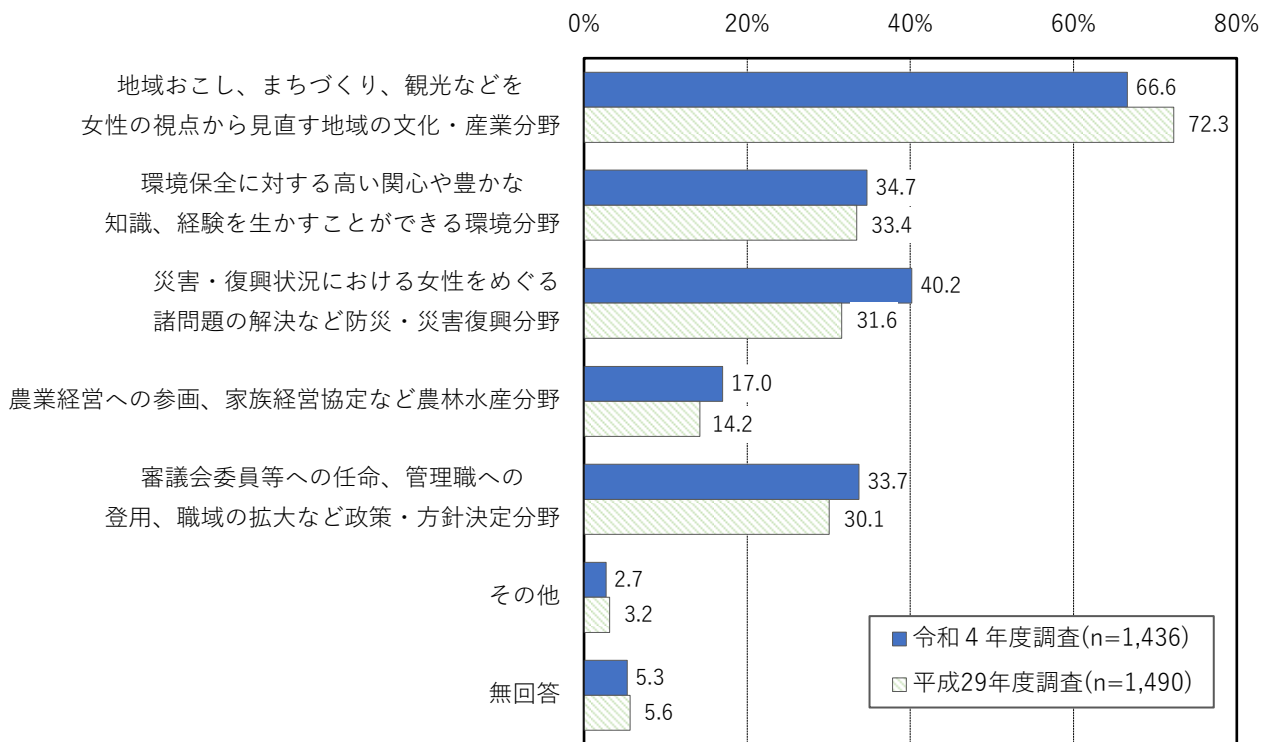
- 平成 29 年度調査と比較すると、「女性の声が反映されやすくなる」の割合が 6.0 ポイント低くなっている一方、「男女問わず仕事と家庭の両立を優先しやすい社会になる」の割合は 6.5 ポイント高くなっています。

問 18 あなたは、今後どのような分野、領域で女性の参画が必要になるとお考えですか。次の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。

（％）		地域文化・産業分野の視点から見直す地域の文化・産業分野	環境保全に関する高い関心や豊かな知識、経験を生かすことができる環境分野	災害・復興分野の解決など防災・災害復興分野	定農林水産分野	審議委員会等への任命、管理職への登用、職域の拡大など政策・方針決定分野	その他	無回答
全体 (n=1,436)		66.6	34.7	40.2	17.0	33.7	2.7	5.3
性別	女性 (n=812)	64.5	37.7	41.4	13.8	30.4	2.2	6.0
	男性 (n=616)	69.6	30.8	38.6	20.9	38.1	3.4	3.9
女性	29歳以下 (n=80)	48.8	30.0	40.0	20.0	48.8	1.3	5.0
	30歳～39歳 (n=97)	60.8	33.0	53.6	20.6	35.1	2.1	4.1
	40歳～49歳 (n=129)	60.5	34.1	45.0	10.1	32.6	3.1	3.1
	50歳～59歳 (n=157)	74.5	34.4	42.0	11.5	29.3	3.8	3.8
	60歳～69歳 (n=164)	72.6	44.5	42.1	14.0	28.7	0.6	5.5
	70歳以上 (n=185)	60.5	42.7	31.9	11.9	21.1	2.2	11.9
男性	29歳以下 (n=57)	59.6	26.3	33.3	24.6	36.8	5.3	3.5
	30歳～39歳 (n=66)	72.7	25.8	43.9	18.2	39.4	1.5	1.5
	40歳～49歳 (n=103)	71.8	22.3	41.7	18.4	30.1	7.8	2.9
	50歳～59歳 (n=124)	64.5	28.2	40.3	18.5	41.1	2.4	3.2
	60歳～69歳 (n=132)	71.2	38.6	41.7	26.5	46.2	3.8	5.3
	70歳以上 (n=133)	73.7	36.1	31.6	19.5	33.8	0.8	5.3

- 女性の参画が必要になると思う分野、領域について、「地域おこし、まちづくり、観光などを女性の視点から見直す地域の文化・産業分野」と回答した割合が最も高く 66.6%となっています。次いで、「災害・復興状況における女性をめぐるとる諸問題の解決など防災・災害復興分野」(40.2%)、「環境保全に対する高い関心や豊かな知識、経験を生かすことができる環境分野」(34.7%)と続いています。
- 性別にみると、女性の「環境保全に対する高い関心や豊かな知識、経験を生かすことができる環境分野」の割合が男性に比べて 6.9 ポイント高くなっています。
- 年齢階層別にみると、男女ともにいずれの年齢階層も「地域おこし、まちづくり、観光などを女性の視点から見直す地域の文化・産業分野」の割合が最も高くなっていますが、女性の 29 歳以下では「審議会委員等への任命、管理職への登用、職域の拡大など政策・方針決定分野」の割合も同率となっています。

《経年比較》



- 平成 29 年度調査と比較すると、「地域おこし、まちづくり、観光などを女性の視点から見直す地域の文化・産業分野」の割合が 5.7 ポイント低くなっている一方、「災害・復興状況における女性をめぐる諸問題の解決など防災・災害復興分野」の割合は 8.6 ポイント高くなっています。

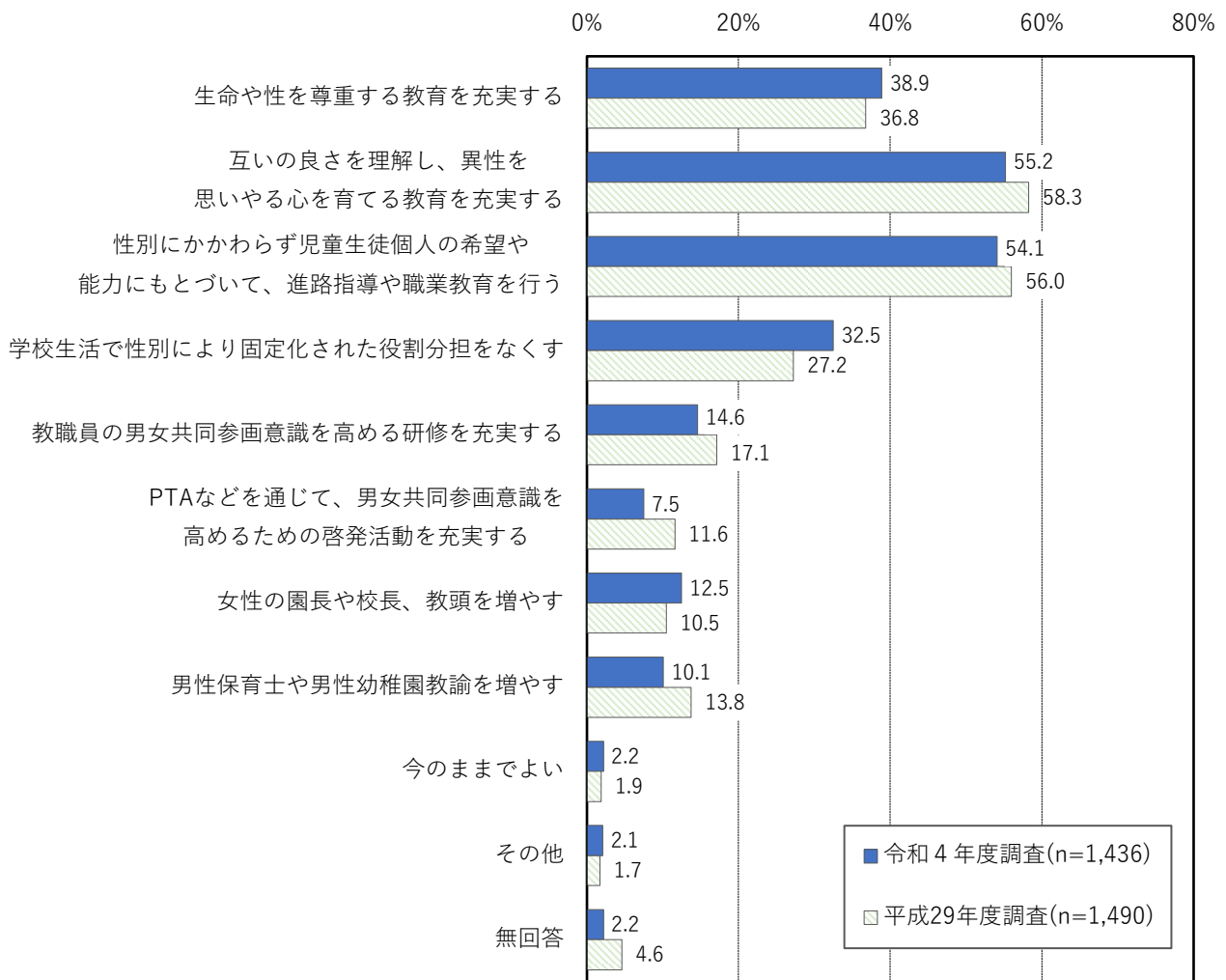


問 19 男女共同参画社会を実現するために、就学前の保育・教育や学校教育の場でどのようなことが大切だと思いますか。次の中から3つまで（最大3つ）選んで番号に○をつけてください。

(% )		生命や性を尊重する教育を充実する	互いの良さを理解し、異性を思いやる心を育てる教育を充実する	性別にかかわらず、進路指導や職業教育を行う	性別にかかわらず児童生徒個人の希望や能力にもとづいて、進路指導や職業教育を行う	学校生活で性別により固定化された役割分担をなくす	教職員の男女共同参画意識を高める研修を充実する	P T A などを通じて、男女共同参画意識を高めるための啓発活動を充実する	女性の園長や校長、教頭を増やす	男性保育士や男性幼稚園教諭を増やす	今のままでよい	その他	無回答
全体 (n=1,436)		38.9	55.2	54.1	32.5	14.6	7.5	12.5	10.1	2.2	2.1	2.2	
性別	女性 (n=812)	42.1	54.4	57.9	32.6	12.9	5.9	11.6	10.1	2.1	1.6	2.7	
	男性 (n=616)	34.9	56.2	49.4	32.5	17.0	9.6	14.0	10.1	2.3	2.6	1.3	
女性	29歳以下 (n=80)	35.0	50.0	63.7	46.3	12.5	5.0	16.3	10.0	1.3	0.0	1.3	
	30歳～39歳 (n=97)	47.4	62.9	63.9	33.0	7.2	5.2	12.4	15.5	2.1	3.1	1.0	
	40歳～49歳 (n=129)	34.1	45.7	58.1	38.0	11.6	6.2	10.9	11.6	2.3	2.3	0.0	
	50歳～59歳 (n=157)	40.1	58.6	61.8	26.8	11.5	2.5	14.0	9.6	2.5	0.6	1.9	
	60歳～69歳 (n=164)	48.8	60.4	60.4	39.6	12.2	6.1	8.5	6.1	1.2	0.0	1.8	
	70歳以上 (n=185)	43.8	49.2	46.5	21.6	18.9	9.2	10.3	10.3	2.7	3.2	7.6	
男性	29歳以下 (n=57)	33.3	54.4	42.1	38.6	12.3	14.0	17.5	12.3	3.5	3.5	0.0	
	30歳～39歳 (n=66)	40.9	57.6	57.6	30.3	13.6	3.0	7.6	10.6	1.5	0.0	1.5	
	40歳～49歳 (n=103)	35.9	50.5	48.5	29.1	10.7	4.9	13.6	10.7	3.9	6.8	1.0	
	50歳～59歳 (n=124)	31.5	54.8	48.4	41.1	12.9	8.1	16.1	9.7	2.4	3.2	0.0	
	60歳～69歳 (n=132)	34.8	61.4	49.2	32.6	23.5	12.9	13.6	10.6	1.5	1.5	1.5	
	70歳以上 (n=133)	34.6	56.4	50.4	24.8	23.3	12.8	14.3	8.3	1.5	0.8	3.0	

- 就学前の保育・教育や学校教育の場で大切だと思うことについて、「互いの良さを理解し、異性を思いやる心を育てる教育を充実する」と回答した割合が最も高く 55.2%となっています。次いで、「性別にかかわらず児童生徒個人の希望や能力にもとづいて、進路指導や職業教育を行う」(54.1%)、「生命や性を尊重する教育を充実する」(38.9%)と続いています。
- 性別にみると、女性は「性別にかかわらず児童生徒個人の希望や能力にもとづいて、進路指導や職業教育を行う」の割合が最も高くなっている一方、男性は「互いの良さを理解し、異性を思いやる心を育てる教育を充実する」の割合が最も高くなっています。
- 年齢階層別にみると、男性はすべての年齢階層で「互いの良さを理解し、異性を思いやる心を育てる教育を充実する」の割合が最も高くなっていますが、女性は70歳以上を除くすべての年齢階層で「性別にかかわらず児童生徒個人の希望や能力にもとづいて、進路指導や職業教育を行う」の割合が最も高くなっています。

《経年比較》



- 平成 29 年度調査と比較すると、「学校生活で性別により固定化された役割分担をなくす」の割合が 5.3 ポイント高くなっています。

問 20 防災・災害復興対策について、男女共同参画の視点からどのようなことが必要だと思いますか。  
次の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。

(% )		避難所の設備 男女別のトイレ、更衣室、洗濯物干場 など	避難所運営の責任者に男女両方がともに配置され、避難所 運営や被災者対策に男女両方の視点が入ること	女性用品など性別に応じて必要な物資に対する備えや ニーズの把握、支給する際の配慮	災害時の救急医療体制 妊産婦へのサポート体制な ど	被災者に対する相談体制	災害対策本部に男女がともに配置され、対策に男女両 方の視点が入ること	防災会議等に男女がともに参画し、地域防災計画に男 女両方の視点が入ること	女性の地域防災リーダーを育成する	その他	特に必要とは思わない	無回答
全体 (n=1,436)		65.7	60.8	59.8	48.3	26.9	53.7	38.4	20.9	1.1	0.8	2.8
性別	女性 (n=812)	66.7	60.5	63.5	48.8	27.8	53.6	37.2	20.0	0.9	0.9	3.0
	男性 (n=616)	64.8	61.4	55.4	47.7	25.8	54.1	40.1	22.2	1.5	0.8	2.3
女性	29歳以下 (n=80)	70.0	47.5	82.5	51.2	20.0	57.5	40.0	18.8	1.3	1.3	2.5
	30歳～39歳 (n=97)	68.0	63.9	82.5	68.0	26.8	53.6	44.3	23.7	1.0	2.1	0.0
	40歳～49歳 (n=129)	60.5	60.5	67.4	42.6	27.1	54.3	41.9	11.6	0.8	1.6	0.8
	50歳～59歳 (n=157)	73.2	61.8	69.4	53.5	29.3	55.4	34.4	19.7	0.0	0.6	1.9
	60歳～69歳 (n=164)	65.9	68.9	52.4	47.0	28.0	57.3	39.6	21.3	0.0	0.6	3.0
	70歳以上 (n=185)	64.3	55.7	47.6	39.5	30.8	46.5	29.2	23.2	2.2	0.0	7.0
男性	29歳以下 (n=57)	71.9	50.9	64.9	52.6	24.6	29.8	24.6	14.0	3.5	1.8	1.8
	30歳～39歳 (n=66)	63.6	53.0	63.6	50.0	18.2	47.0	28.8	28.8	0.0	0.0	1.5
	40歳～49歳 (n=103)	58.3	53.4	54.4	49.5	20.4	52.4	37.9	15.5	1.9	1.9	2.9
	50歳～59歳 (n=124)	72.6	67.7	64.5	46.8	18.5	58.1	42.7	23.4	0.8	0.8	0.8
	60歳～69歳 (n=132)	68.2	63.6	51.5	51.5	37.9	58.3	47.0	27.3	2.3	0.0	1.5
	70歳以上 (n=133)	56.4	68.4	43.6	39.8	29.3	61.7	45.1	21.8	0.8	0.8	4.5

- 男女共同参画の視点から必要だと思う防災・災害復興対策について、「避難所の設備（男女別のトイレ、更衣室、洗濯物干場など）」と回答した割合が最も高く65.7%となっています。次いで、「避難所運営の責任者に男女がともに配置され、避難所運営や被災者対策に男女両方の視点が入ること」（60.8%）、「女性用品など性別に応じて必要な物資に対する備えやニーズの把握、支給する際の配慮」（59.8%）と続いています。
- 性別にみると、女性の「女性用品など性別に応じて必要な物資に対する備えやニーズの把握、支給する際の配慮」の割合が、男性に比べて8.1ポイント高くなっています。
- 年齢階層別にみると、女性の29歳以下、30歳～39歳の「女性用品など性別に応じて必要な物資に対する備えやニーズの把握、支給する際の配慮」の割合が男性や女性のその他の年齢階層に比べて突出して高くなっています。

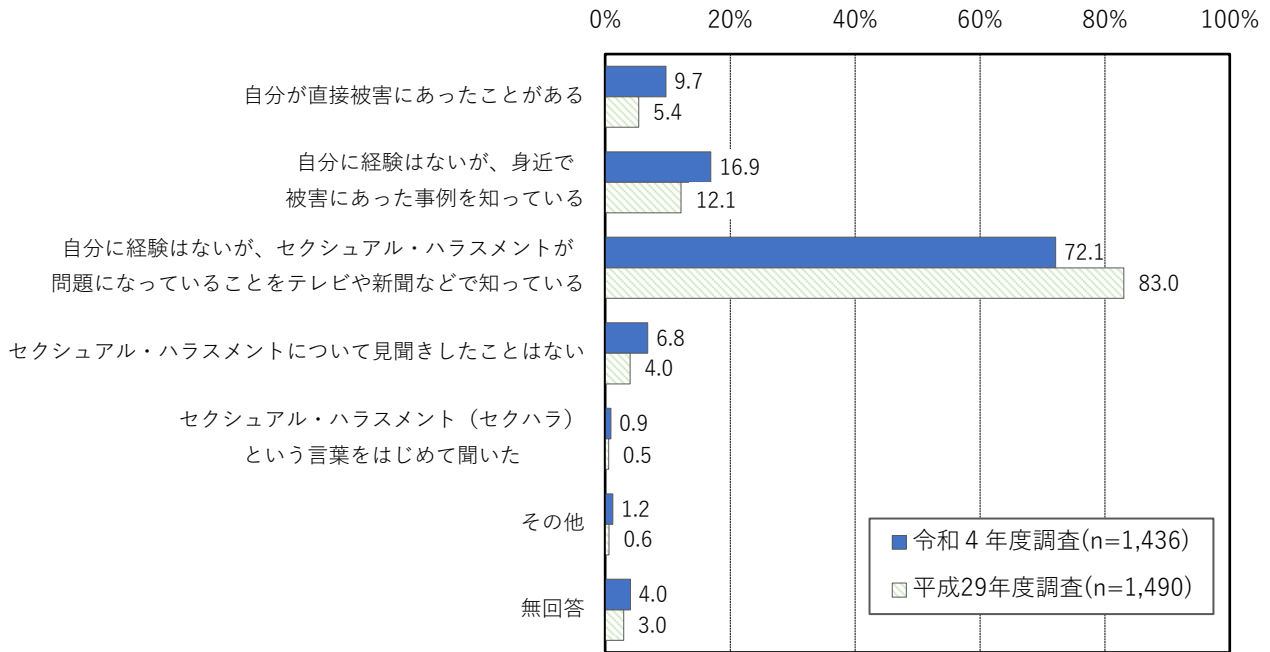
## 4. セクシュアル・ハラスメントについて

問21 あなたは、セクシュアル・ハラスメントについて、経験をしたり、見聞きしたりしたことがありますか。次の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。

（％）		自分が直接被害にあったことがある	自分に経験はないが、身近で被害にあった事例を知っている	自分に経験はないが、テレビや新聞などで知っている	見聞きしたことはない	セクシュアル・ハラスメントについて	セクシュアル・ハラスメントという言葉をはじめて聞いた	その他	無回答
全体 (n=1,436)		9.7	16.9	72.1	6.8	0.9	1.2	4.0	
性別	女性 (n=812)	14.4	13.8	70.0	4.9	1.2	1.4	3.6	
	男性 (n=616)	3.6	20.8	74.7	9.3	0.5	1.0	4.5	
女性	29歳以下 (n=80)	21.3	15.0	61.3	7.5	0.0	1.3	1.3	
	30歳～39歳 (n=97)	25.8	16.5	57.7	4.1	0.0	1.0	1.0	
	40歳～49歳 (n=129)	20.2	17.8	65.1	2.3	0.8	1.6	0.8	
	50歳～59歳 (n=157)	15.3	15.9	73.9	3.2	0.0	0.0	1.3	
	60歳～69歳 (n=164)	9.1	10.4	80.5	3.7	0.0	1.2	2.4	
	70歳以上 (n=185)	5.4	10.3	70.8	8.6	4.9	2.7	10.8	
男性	29歳以下 (n=57)	5.3	21.1	68.4	19.3	1.8	0.0	0.0	
	30歳～39歳 (n=66)	10.6	30.3	59.1	10.6	0.0	0.0	1.5	
	40歳～49歳 (n=103)	1.0	21.4	72.8	9.7	0.0	1.9	4.9	
	50歳～59歳 (n=124)	4.0	20.2	76.6	8.9	0.8	2.4	2.4	
	60歳～69歳 (n=132)	2.3	20.5	82.6	7.6	0.0	0.0	3.0	
	70歳以上 (n=133)	2.3	16.5	76.7	6.0	0.8	0.8	11.3	

- セクシュアル・ハラスメントについて、「自分に経験はないが、セクシュアル・ハラスメントが問題になっていることをテレビや新聞などで知っている」と回答した割合が最も高く72.1%となっています。次いで、「自分に経験はないが、身近で被害にあった事例を知っている」（16.9%）、「自分が直接被害にあったことがある」（9.7%）と続いています。
- 性別にみると、女性の「自分が直接被害にあったことがある」の割合が男性に比べて10.8ポイント高くなっています。
- 年齢階層別にみると、女性の40歳～49歳より下の年齢階層の「自分が直接被害にあったことがある」の割合が2割を超えています。

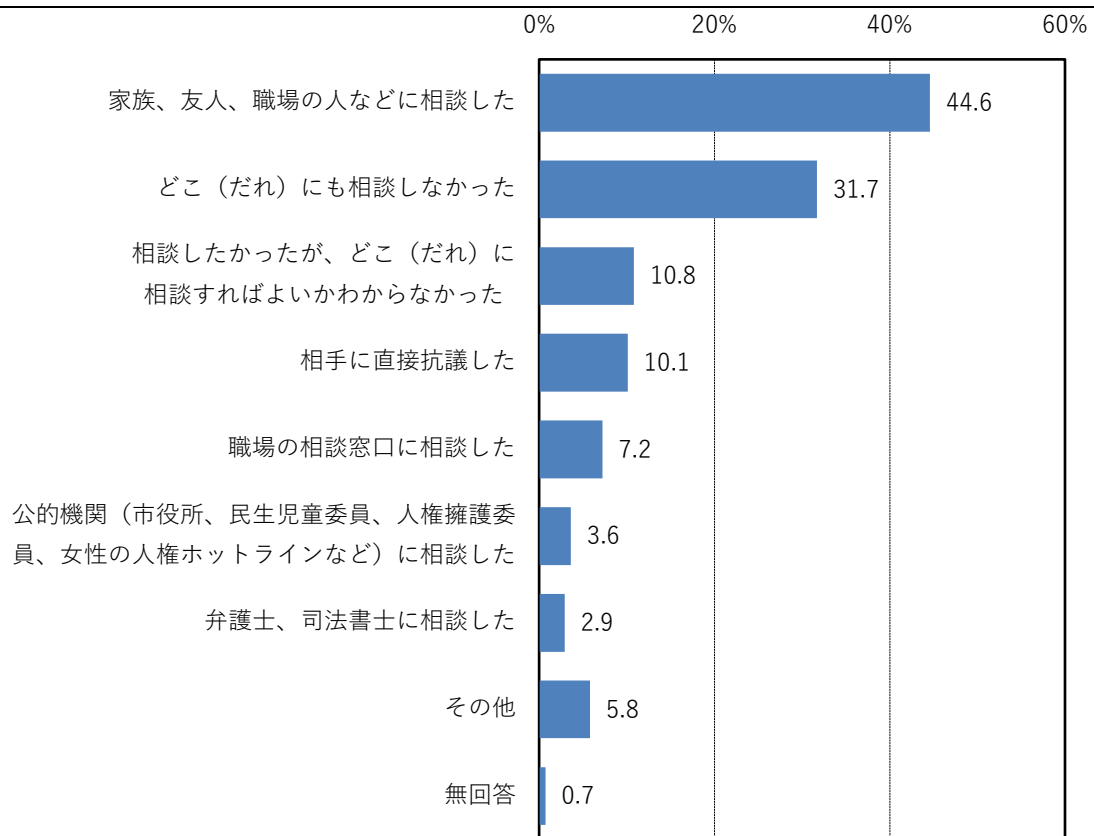
《経年比較》



- 平成 29 年度調査と比較すると、「自分に経験はないが、セクシュアル・ハラスメントが問題になっていることをテレビや新聞などで知っている」の割合が 10.9 ポイント低くなっている一方、「自分が直接被害にあったことがある」の割合は 4.3 ポイント、「自分に経験はないが、身近で被害にあった事例を知っている」は 4.8 ポイント高くなっています。

【問 21 で「1 自分が直接被害にあったことがある」に○をつけた方におたずねします。】

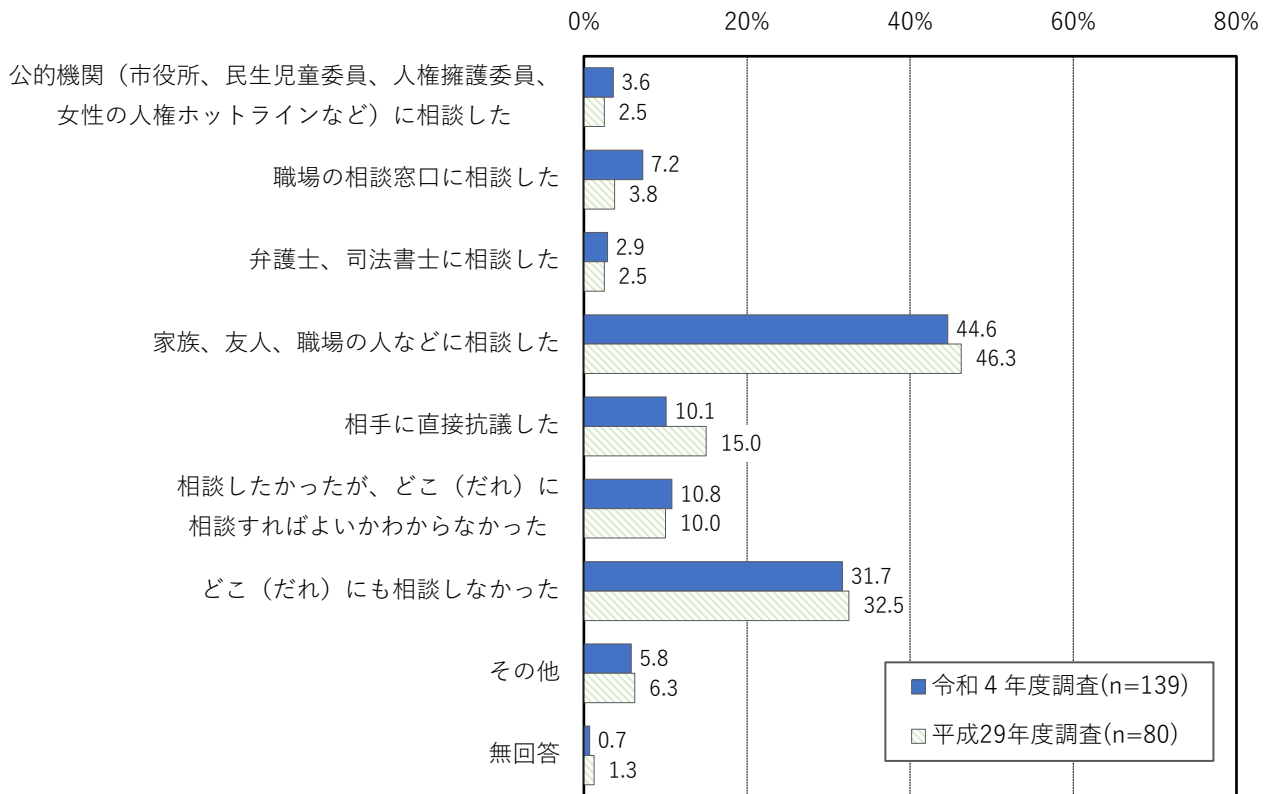
問 22 セクシュアル・ハラスメントの被害にあった時、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。次の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。



(n=139)

- セクシュアル・ハラスメントの被害にあった時、だれかに打ち明けたり、相談した相手について、「家族、友人、職場の人などに相談した」と回答した割合が最も高く 44.6%となっています。次いで、「どこ（だれ）にも相談しなかった」（31.7%）、「相談したかったが、どこ（だれ）に相談すればよいかわからなかった」（10.8%）と続いています。

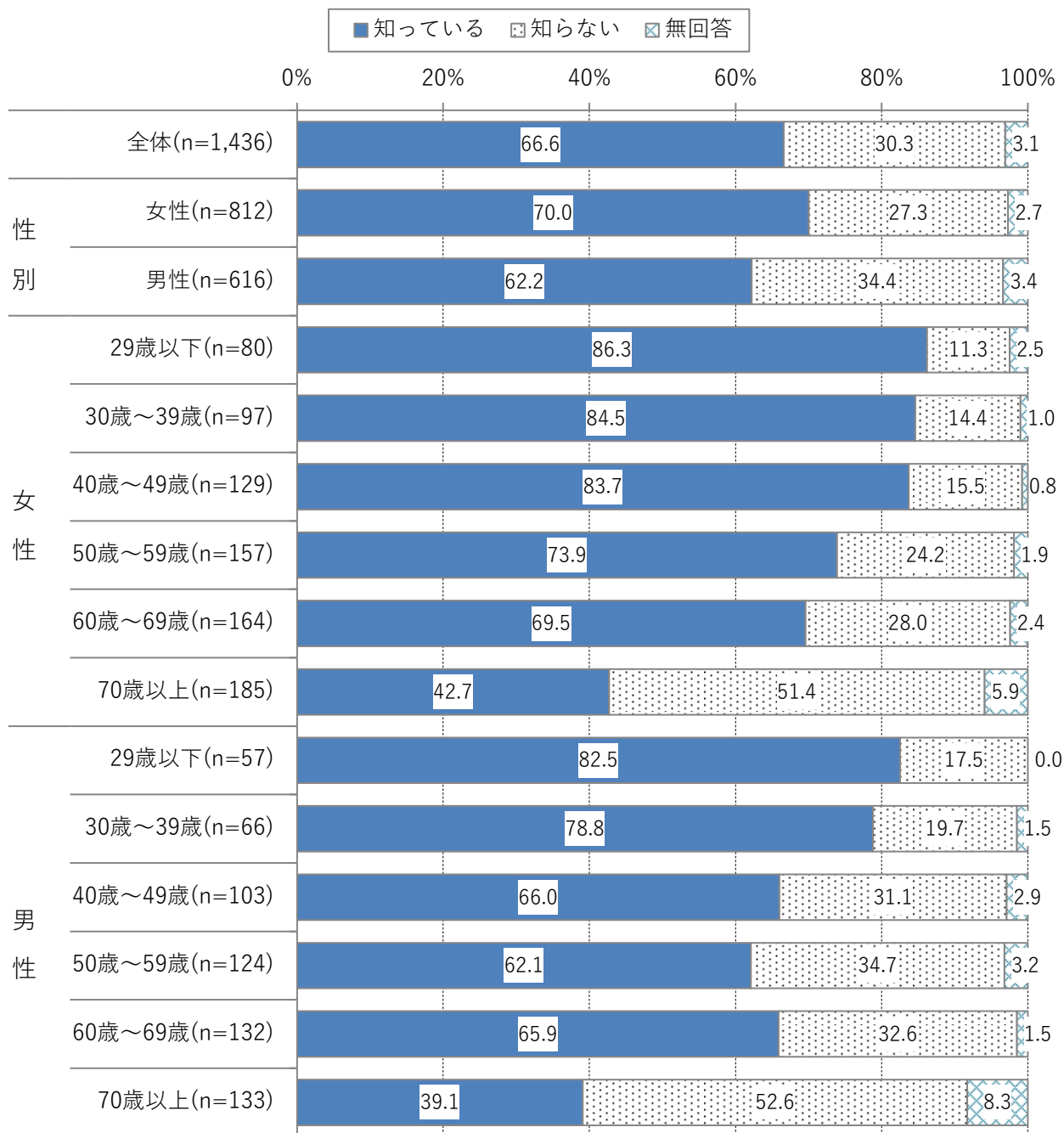
《経年比較》



- 平成 29 年度調査と比較すると、「相手に直接抗議した」の割合が 4.9 ポイント低くなっている一方、「職場の相談窓口相談した」の割合は 3.4 ポイント高くなっています。

## 5. LGBTQ について

問 23 あなたは「LGBTQ」という言葉の意味を知っていますか。次のどちらか1つ選んで番号に○をつけてください。



- 「LGBTQ」という言葉の意味について、「知っている」と回答した割合は66.6%となっています。一方、「知らない」と回答した割合は30.3%となっています。
- 性別にみると、女性の「知っている」の割合が男性に比べて7.8ポイント高くなっています。
- 年齢階層別にみると、男女ともに年齢階層が上がるにつれて「知っている」の割合は低くなっています。



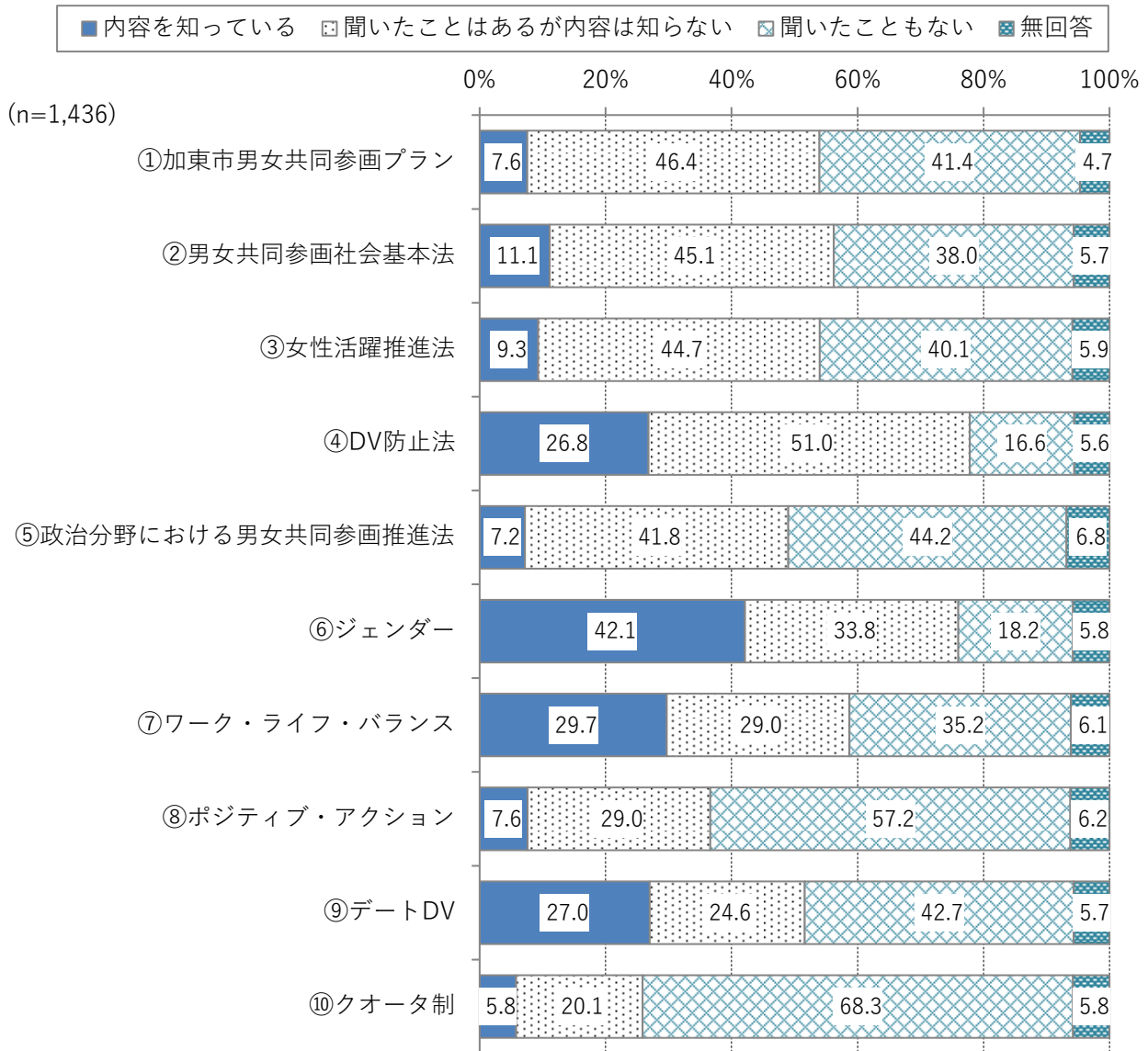
問 24 「LGBTQ」の方が生活しやすくなるためには、どのようなことが必要だと思いますか。次の中からあてはまるものすべてに○をつけてください。

(%)		講演会等、ホームページ、啓発活動	相談窓口を設置する	学校の授業・学習、制服・トイレの配慮)	学校教育現場での取組を行う	公的施設や窓口での不便を解消する	働きやすい職場環境づくりの取組を行う	行政職員や教員などに対する研修等を行う	その他	無回答
全体 (n=1,436)		27.9	35.4	60.5	39.4	46.4	25.3	4.7	7.0	
性別	女性 (n=812)	29.3	35.8	66.4	41.9	50.4	26.6	3.8	6.0	
	男性 (n=616)	26.0	34.9	53.1	36.2	41.1	23.5	5.8	8.1	
女性	29歳以下 (n=80)	36.3	30.0	80.0	56.3	61.3	25.0	2.5	1.3	
	30歳～39歳 (n=97)	29.9	34.0	76.3	58.8	55.7	32.0	8.2	1.0	
	40歳～49歳 (n=129)	25.6	27.9	73.6	45.7	48.8	32.6	6.2	1.6	
	50歳～59歳 (n=157)	30.6	43.9	77.1	45.9	59.2	25.5	0.6	1.9	
	60歳～69歳 (n=164)	31.7	32.3	67.1	40.9	52.4	28.0	3.0	3.7	
	70歳以上 (n=185)	25.4	41.1	40.5	21.6	34.6	20.0	3.8	19.5	
男性	29歳以下 (n=57)	24.6	35.1	59.6	54.4	47.4	22.8	5.3	0.0	
	30歳～39歳 (n=66)	27.3	40.9	63.6	36.4	48.5	19.7	3.0	1.5	
	40歳～49歳 (n=103)	22.3	34.0	59.2	28.2	43.7	20.4	8.7	4.9	
	50歳～59歳 (n=124)	20.2	25.0	58.9	44.4	45.2	26.6	8.1	3.2	
	60歳～69歳 (n=132)	35.6	43.9	59.1	40.2	44.7	29.5	3.8	5.3	
	70歳以上 (n=133)	24.8	32.3	29.3	22.6	24.8	18.8	5.3	24.8	

- 「LGBTQ」の方が生活しやすくなるために必要こととして、「学校教育現場での取組を行う（性の多様性に関する授業・学習、制服・トイレの配慮）」と回答した割合が最も高く 60.5%となっています。次いで、「働きやすい職場環境づくりの取組を行う」（46.4%）、「公的施設や窓口での不便を解消する」（39.4%）と続いています。
- 性別にみると、男女ともに「学校教育現場での取組を行う（性の多様性に関する授業・学習、制服・トイレの配慮）」と回答した割合が最も高くなっていますが、女性の方が13.3ポイント高くなっています。
- 年齢階層別にみると、「学校教育現場での取組を行う（性の多様性に関する授業・学習、制服・トイレの配慮）」の割合について、男女ともに70歳以上を除くすべての年齢階層で最も割合が高くなっていますが、いずれの年齢階層においても女性の方がその割合は高くなっています。

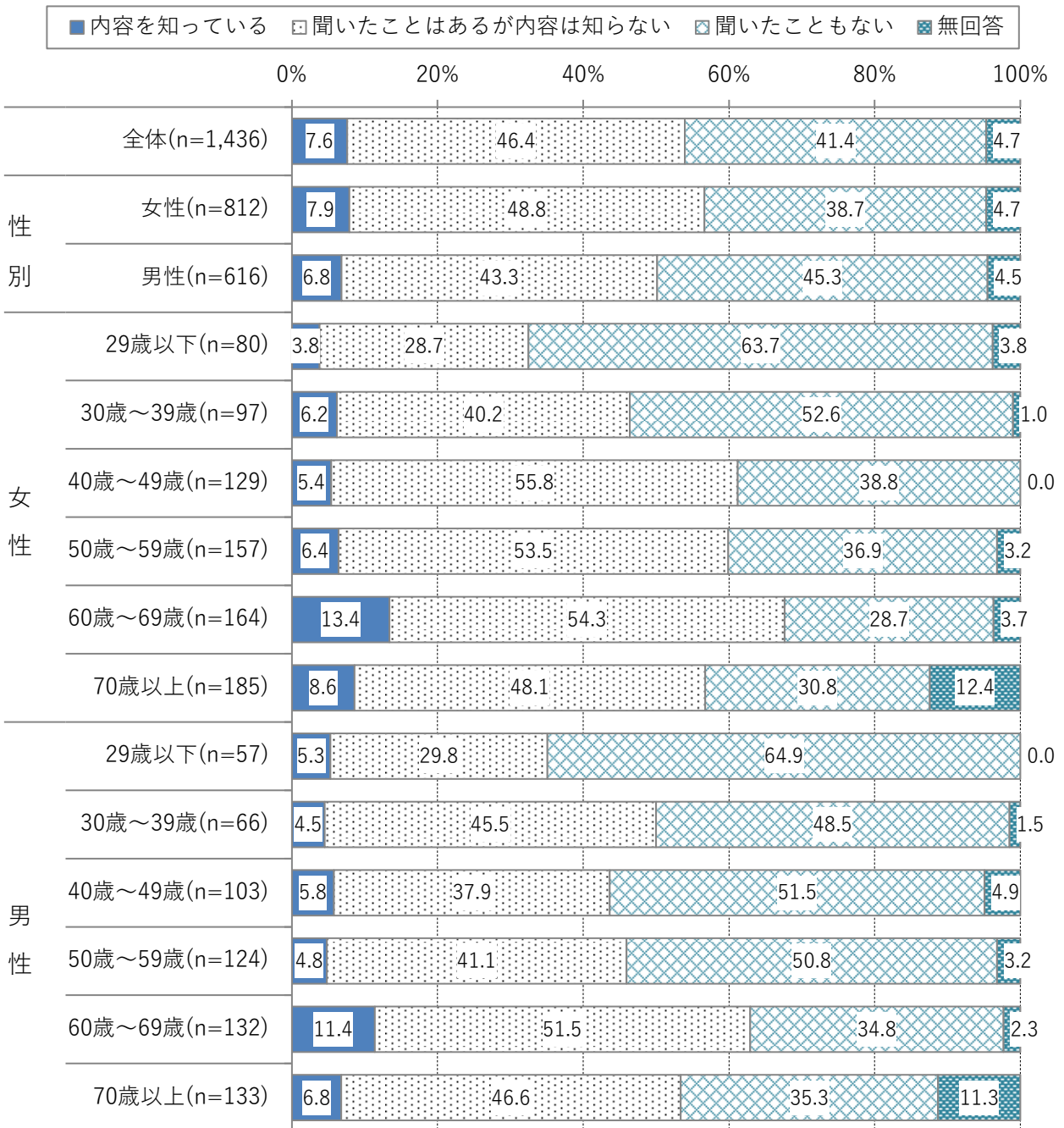
## 6. 男女共同参画社会の実現について

問 25 男女共同参画に関する次の言葉について、あなたはどの程度知っていますか。①～⑩のそれぞれの項目について、あてはまるもの1つずつ選んで番号に○をつけてください。



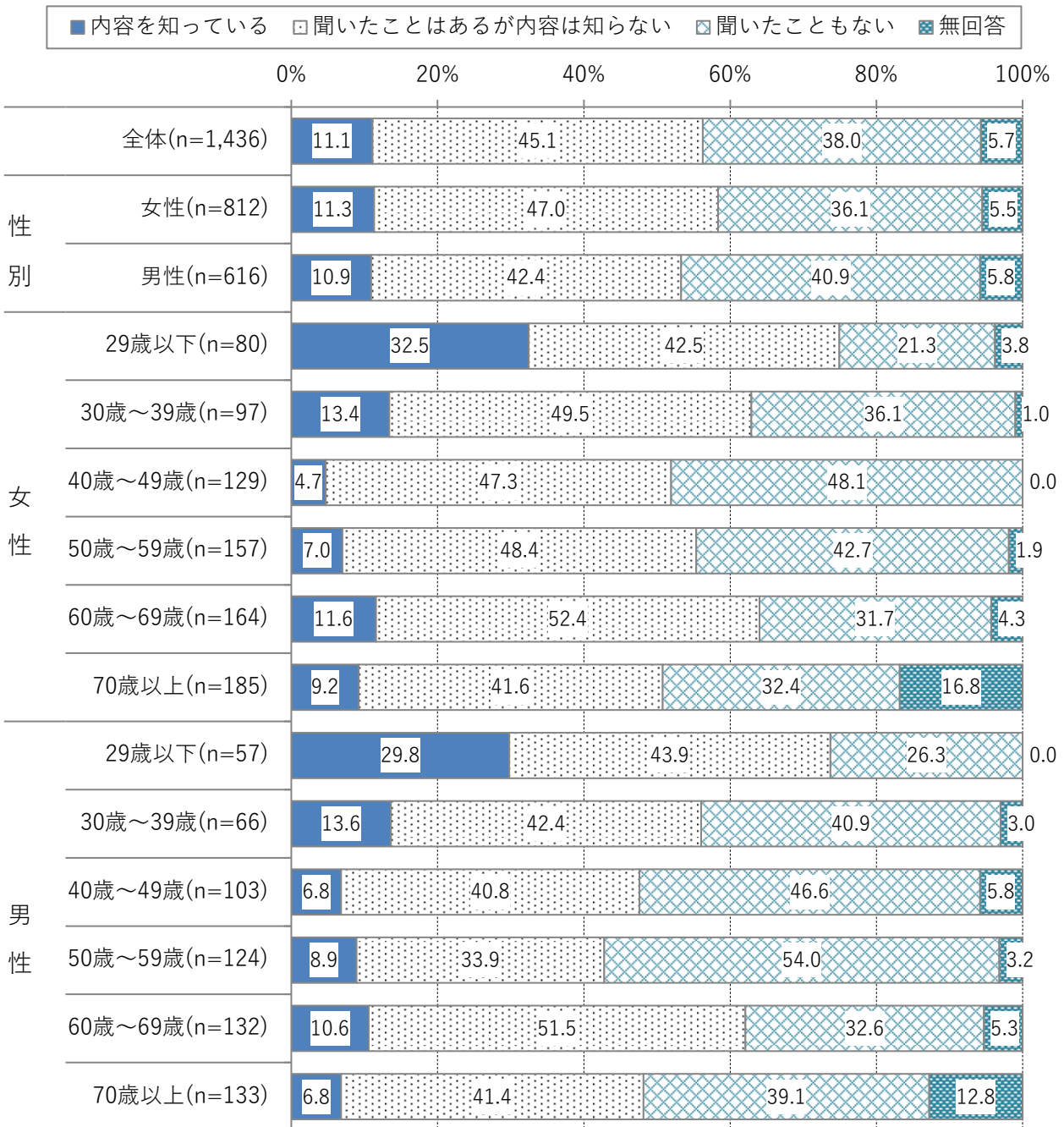
- 男女共同参画に関する用語について、「内容を知っている」と回答した割合は「⑥ジェンダー」が最も高く42.1%となっています。次いで、「⑦ワーク・ライフ・バランス」(29.7%)、「⑨デートDV」(27.0%)と続いています。

【①加東市男女共同参画プラン】



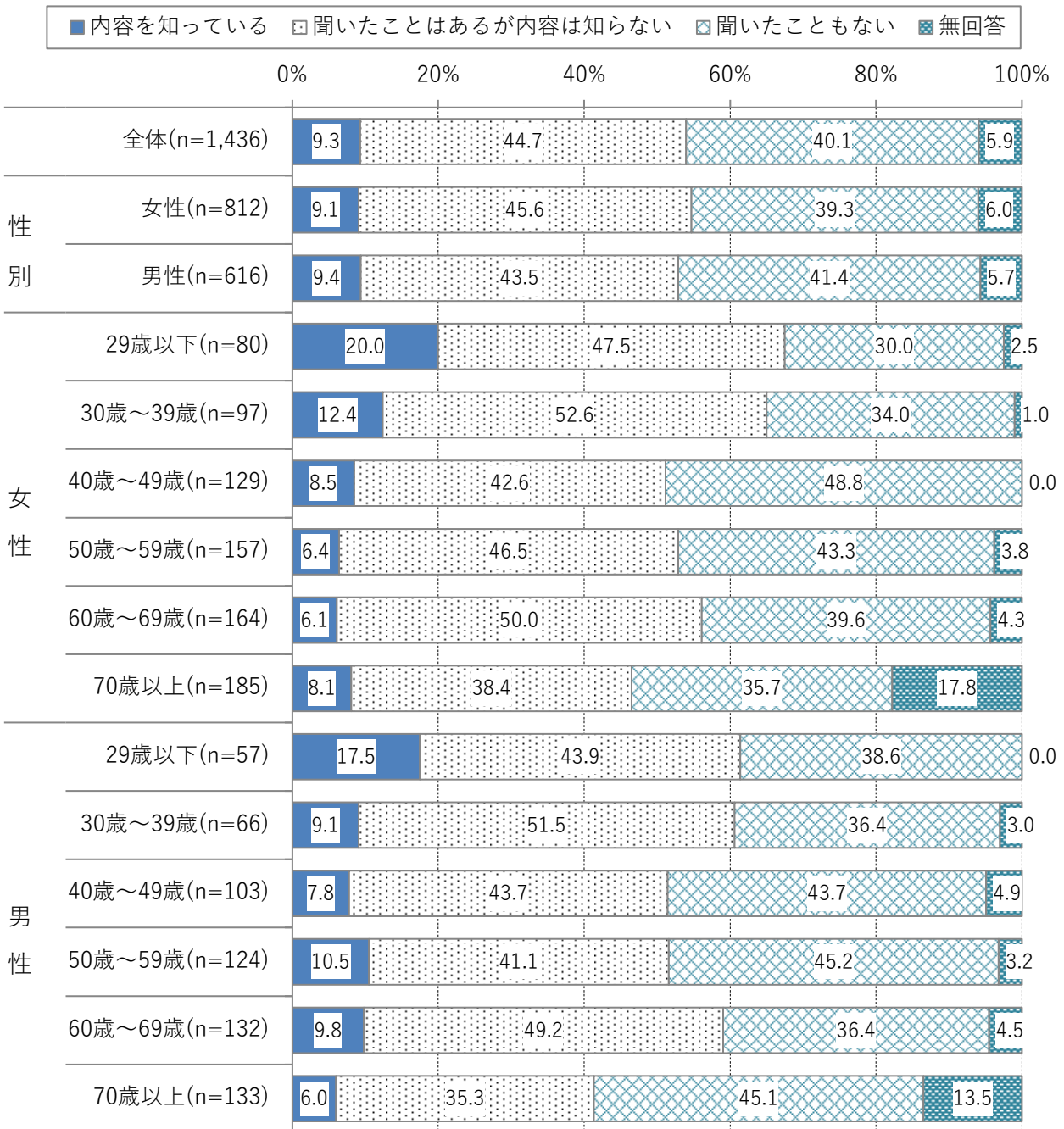
- 「加東市男女共同参画プラン」という言葉について、「内容を知っている」と回答した割合は7.6%となっています。
- 性別にみると、男性の「聞いたこともない」の割合は女性に比べて6.6ポイント高くなっています。
- 年齢階層別にみると、男女ともに60歳～69歳の「内容を知っている」の割合が、その他の年齢階層に比べて高くなっています。

【②男女共同参画社会基本法】



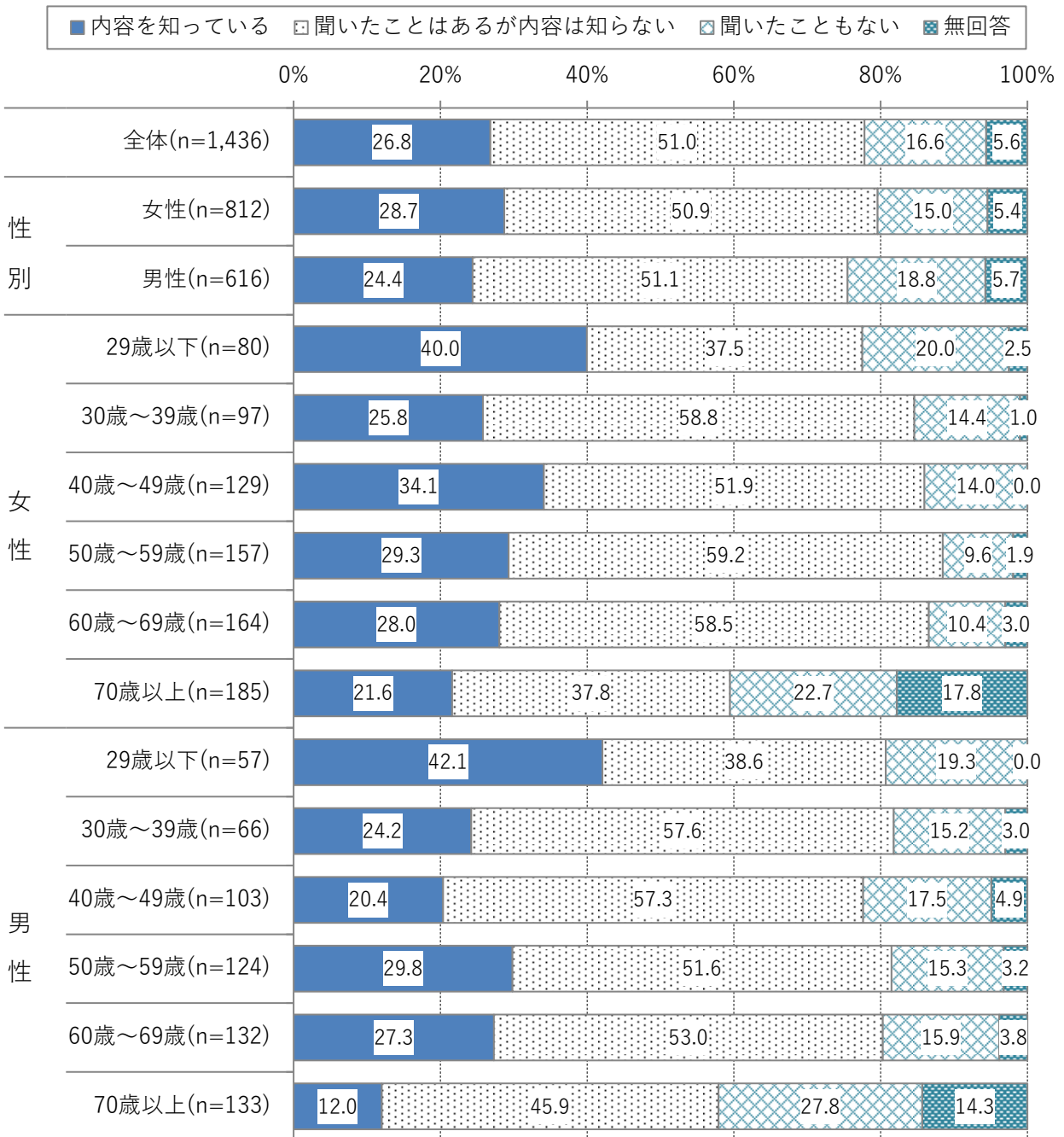
- 「男女共同参画社会基本法」という言葉について、「内容を知っている」と回答した割合は 11.1% となっています。
- 性別にみると、男性の「聞いたこともない」の割合は女性に比べて 4.8 ポイント高くなっています。
- 年齢階層別にみると、男女ともに 29 歳以下の「内容を知っている」の割合が、その他の年齢階層に比べて高くなっています。

【③女性活躍推進法】



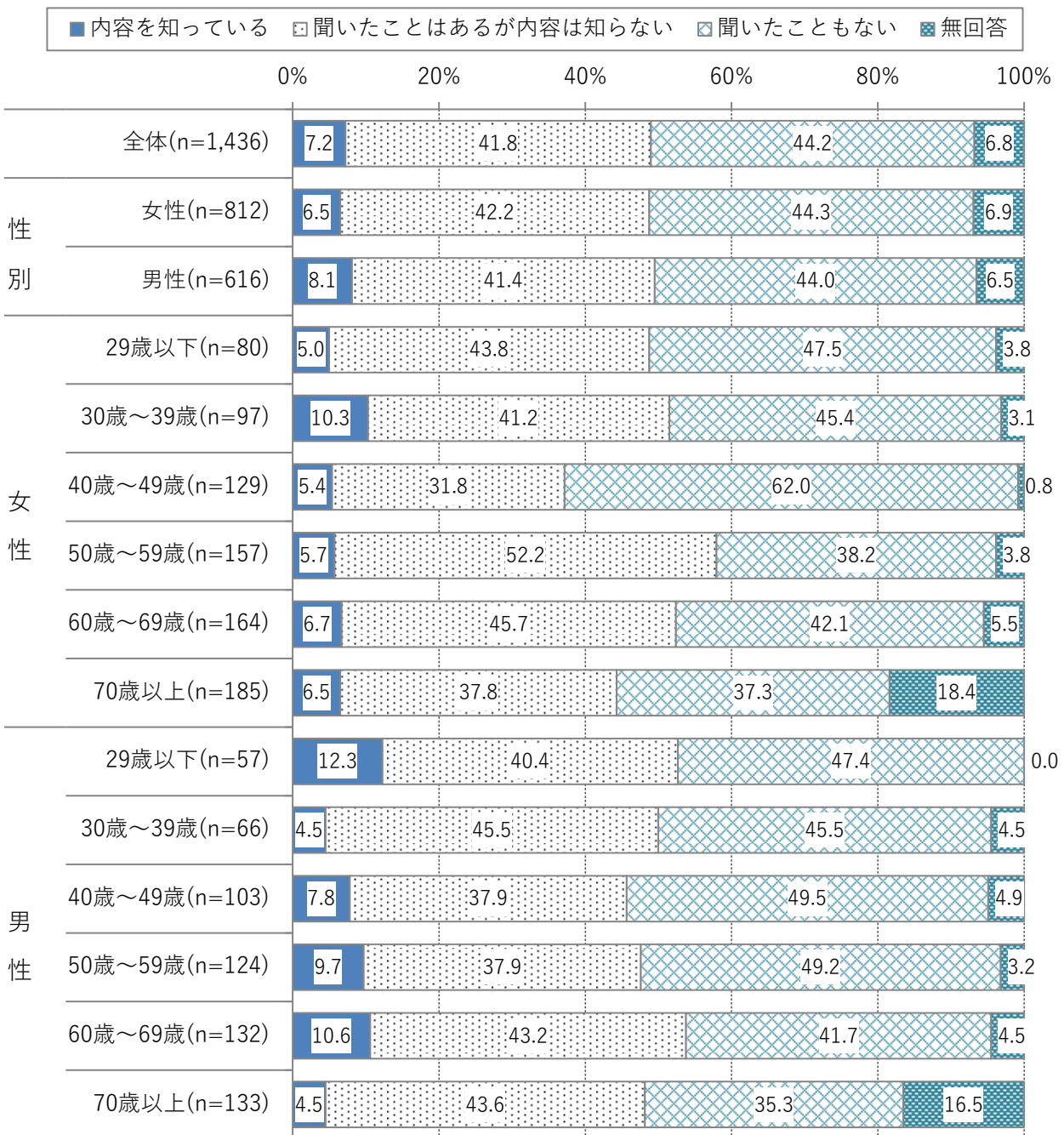
- 「女性活躍推進法」という言葉について、「内容を知っている」と回答した割合は9.3%となっています。
- 性別にみると、男性の「聞いたこともない」の割合は女性に比べて2.1ポイント高くなっています。
- 年齢階層別にみると、男女ともに29歳以下の「内容を知っている」の割合が、その他の年齢階層に比べて高くなっています。

【④DV 防止法】



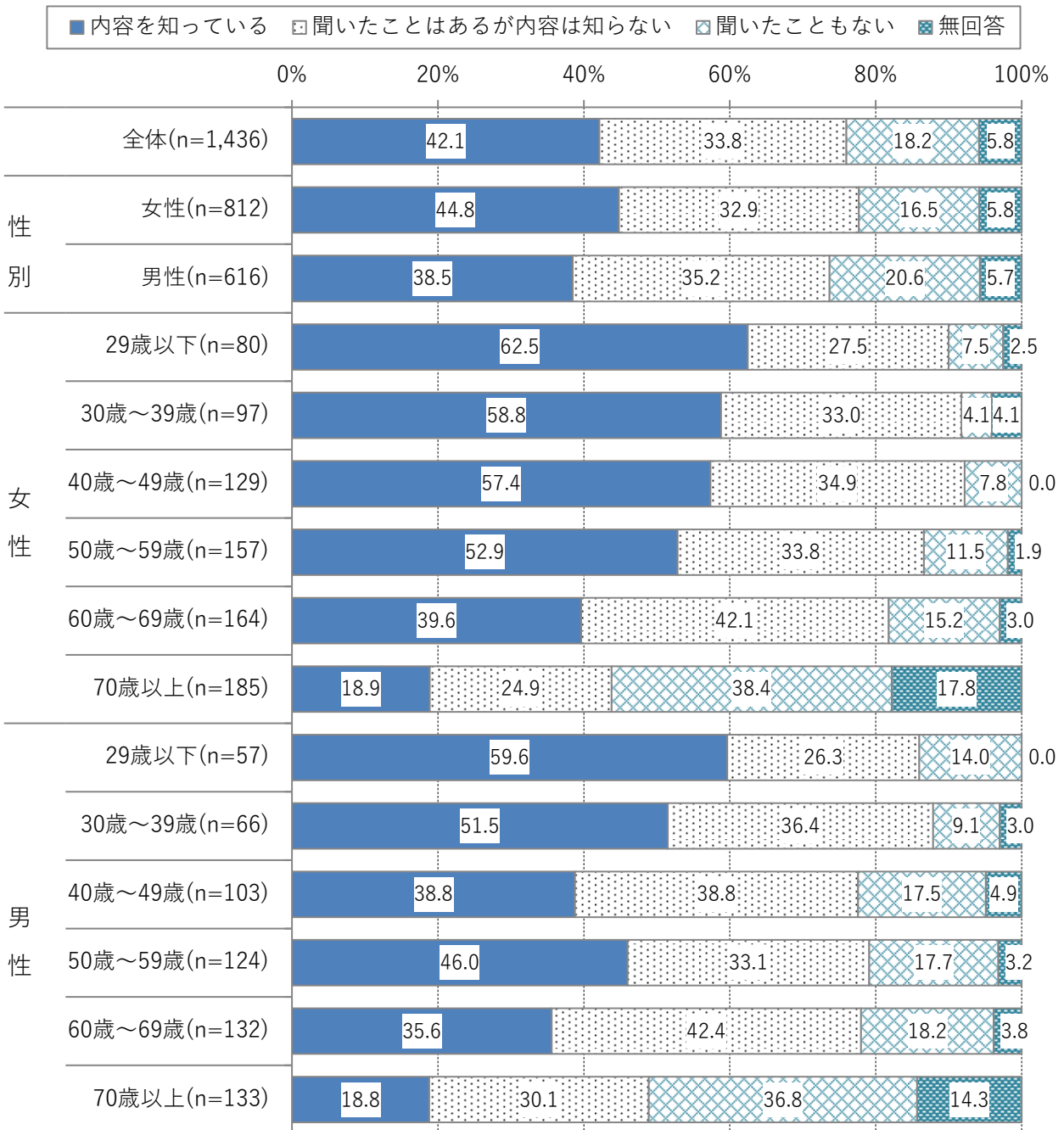
- 「DV 防止法」という言葉について、「内容を知っている」と回答した割合は26.8%となっています。
- 性別にみると、男性の「聞いたこともない」の割合は女性に比べて3.8ポイント高くなっています。
- 年齢階層別にみると、男女ともに29歳以下の「内容を知っている」の割合が、その他の年齢階層に比べて高くなっています。

【⑤政治分野における男女共同参画推進法】



- 「政治分野における男女共同参画推進法」という言葉について、「内容を知っている」と回答した割合は7.2%となっています。
- 性別にみても、大きな差はみられません。
- 年齢階層別にみると、「内容を知っている」の割合は、女性では30歳～39歳、男性では29歳以下が最も高くなっています。

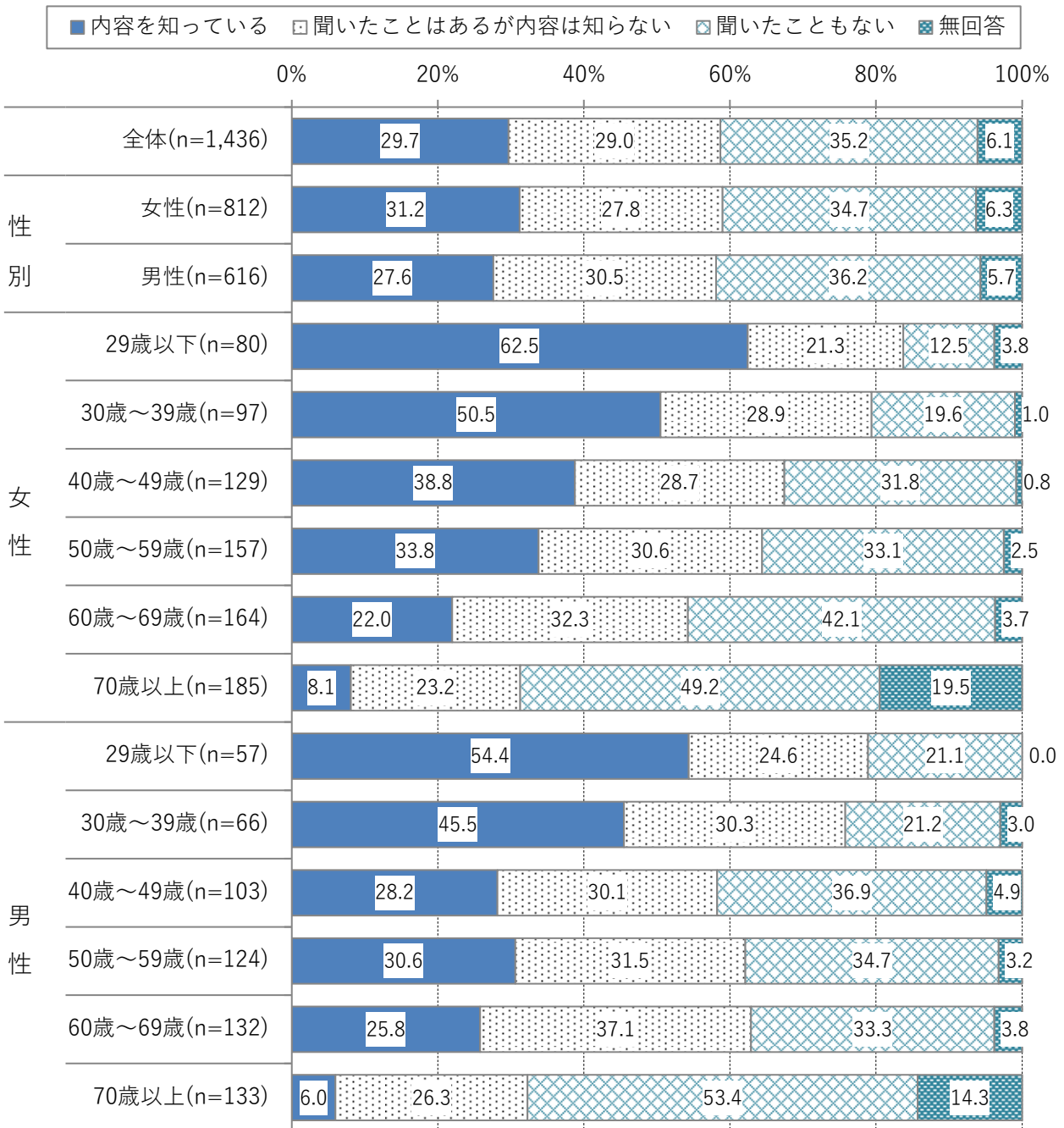
【⑥ジェンダー】



- 「ジェンダー」という言葉について、「内容を知っている」と回答した割合は 42.1%となっています。
- 性別にみると、男性の「聞いたこともない」の割合は女性に比べて 4.1 ポイント高くなっています。
- 年齢階層別にみると、男女ともに年齢階層が下がるにつれて、「内容を知っている」の割合が概ね高くなっています。

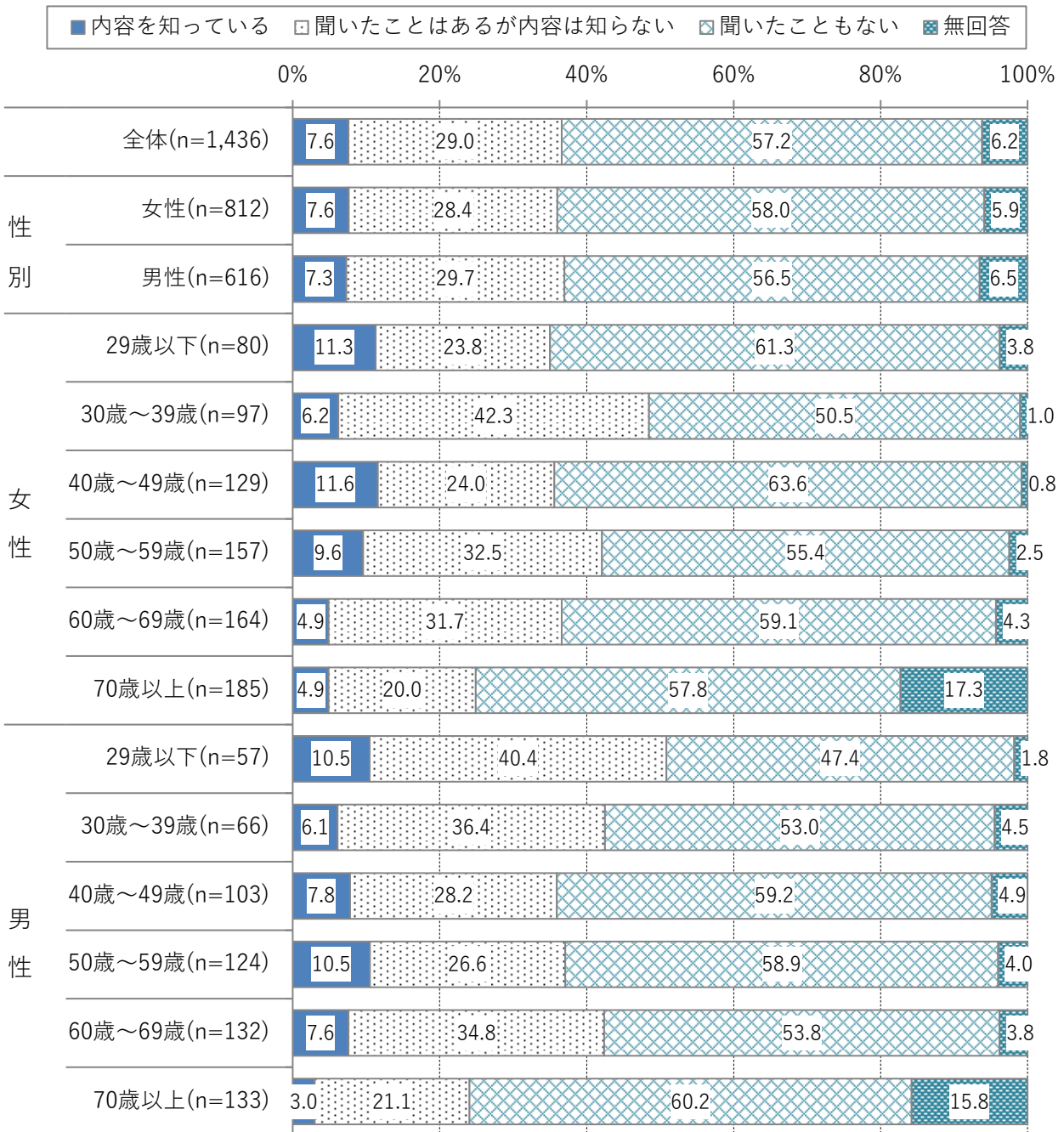


【⑦ワーク・ライフ・バランス】



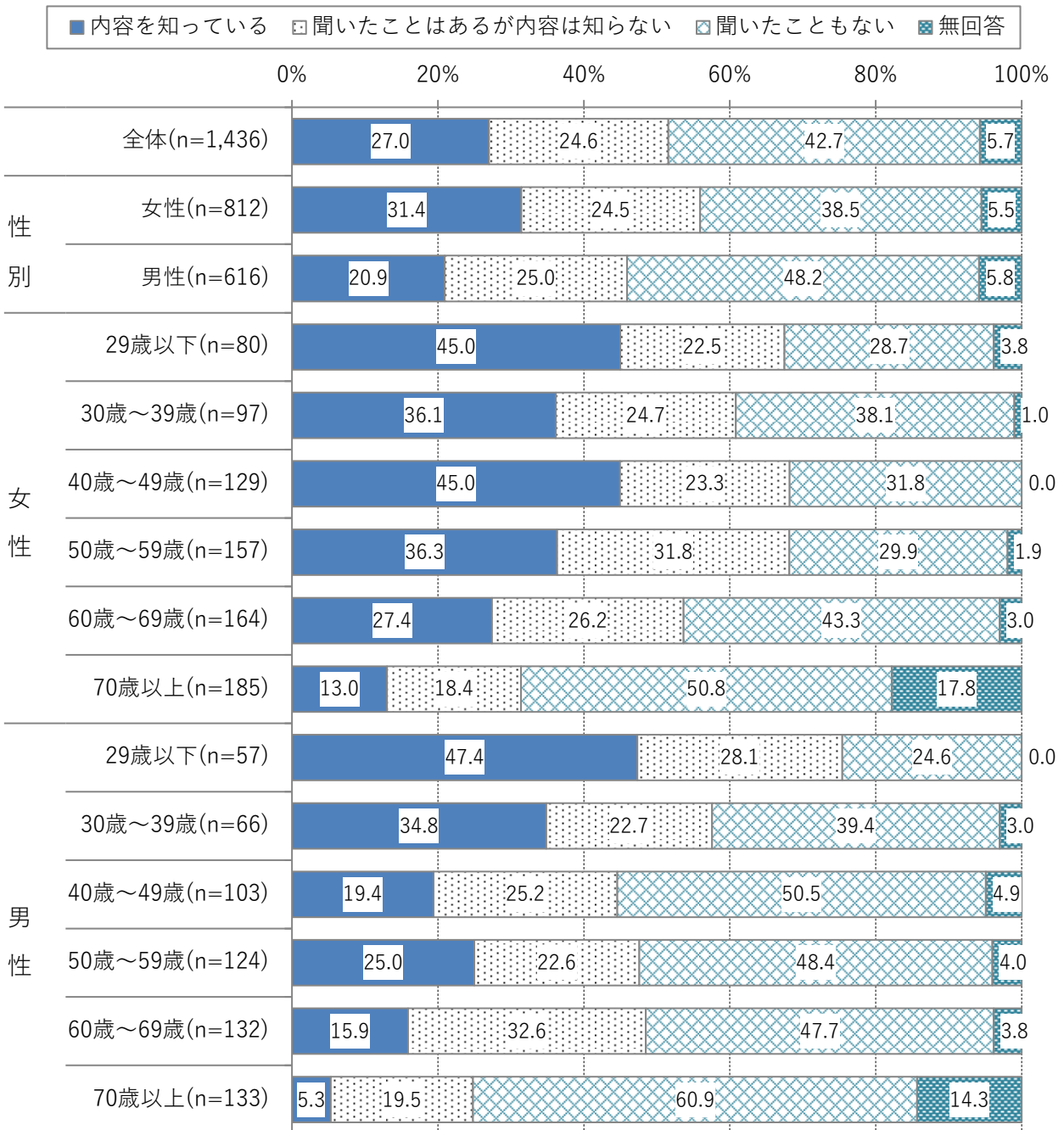
- 「ワーク・ライフ・バランス」という言葉について、「内容を知っている」と回答した割合は29.7%となっています。
- 性別にみると、女性の「内容を知っている」の割合は男性に比べて3.6ポイント高くなっています。
- 年齢階層別にみると、男女ともに年齢階層が下がるにつれて、「内容を知っている」の割合が概ね高くなっています。

【⑧ポジティブ・アクション】



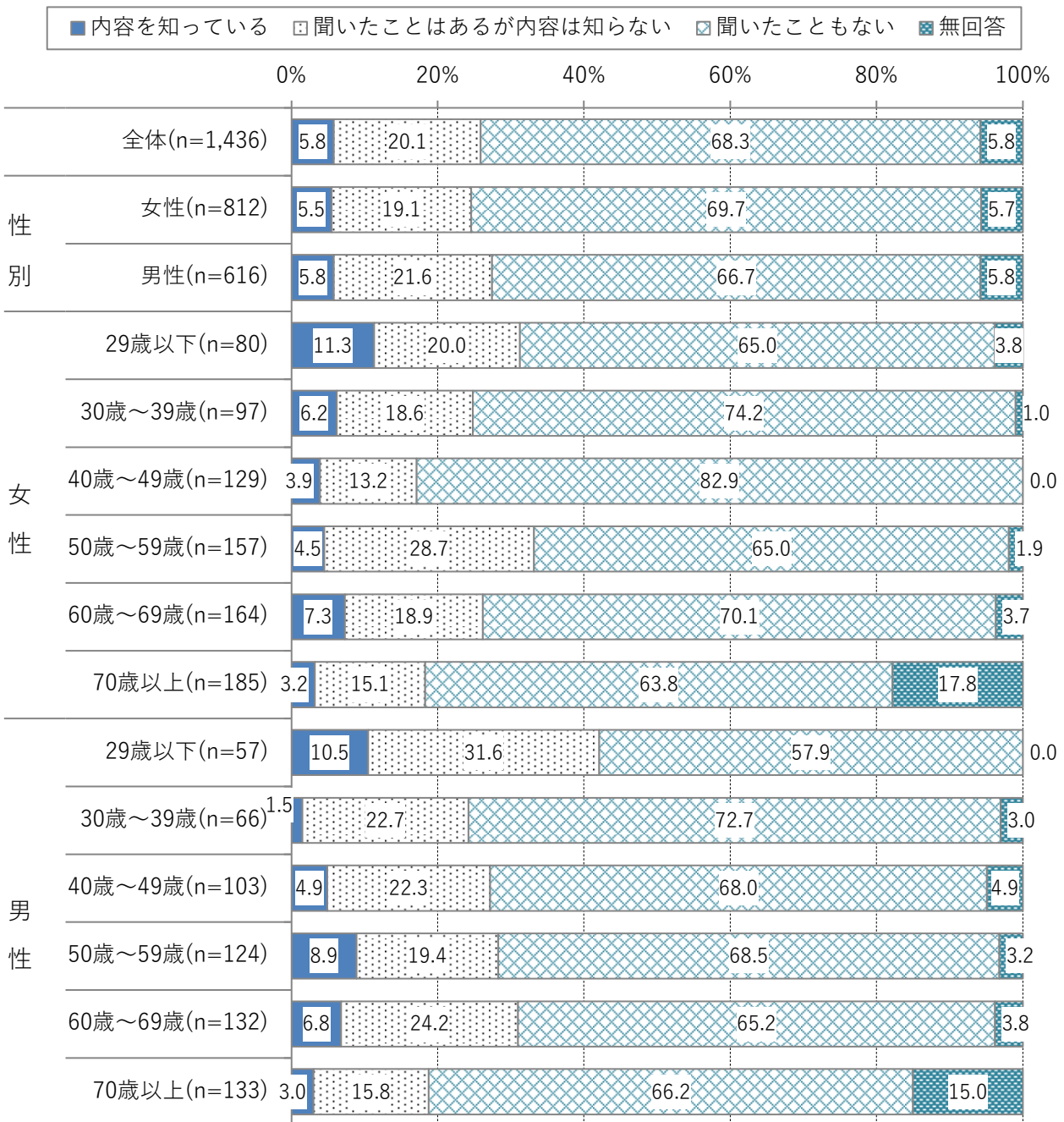
- 「ポジティブ・アクション」という言葉について、「内容を知っている」と回答した割合は7.6%となっています。
- 性別にみても、大きな差はみられません。
- 年齢階層別にみると、女性の29歳以下、40歳～49歳及び男性の29歳以下、50歳～59歳を除く年齢階層では「内容を知っている」の割合が1割を切っています。

【⑨デート DV】



- 「デート DV」という言葉について、「内容を知っている」と回答した割合は27.0%となっています。
- 性別にみると、男性の「聞いたこともない」の割合は女性に比べて9.7ポイント高くなっています。
- 年齢階層別にみると、男女ともに年齢階層が下がるにつれて、「内容を知っている」の割合が概ね高くなっています。

【⑩クオータ制】



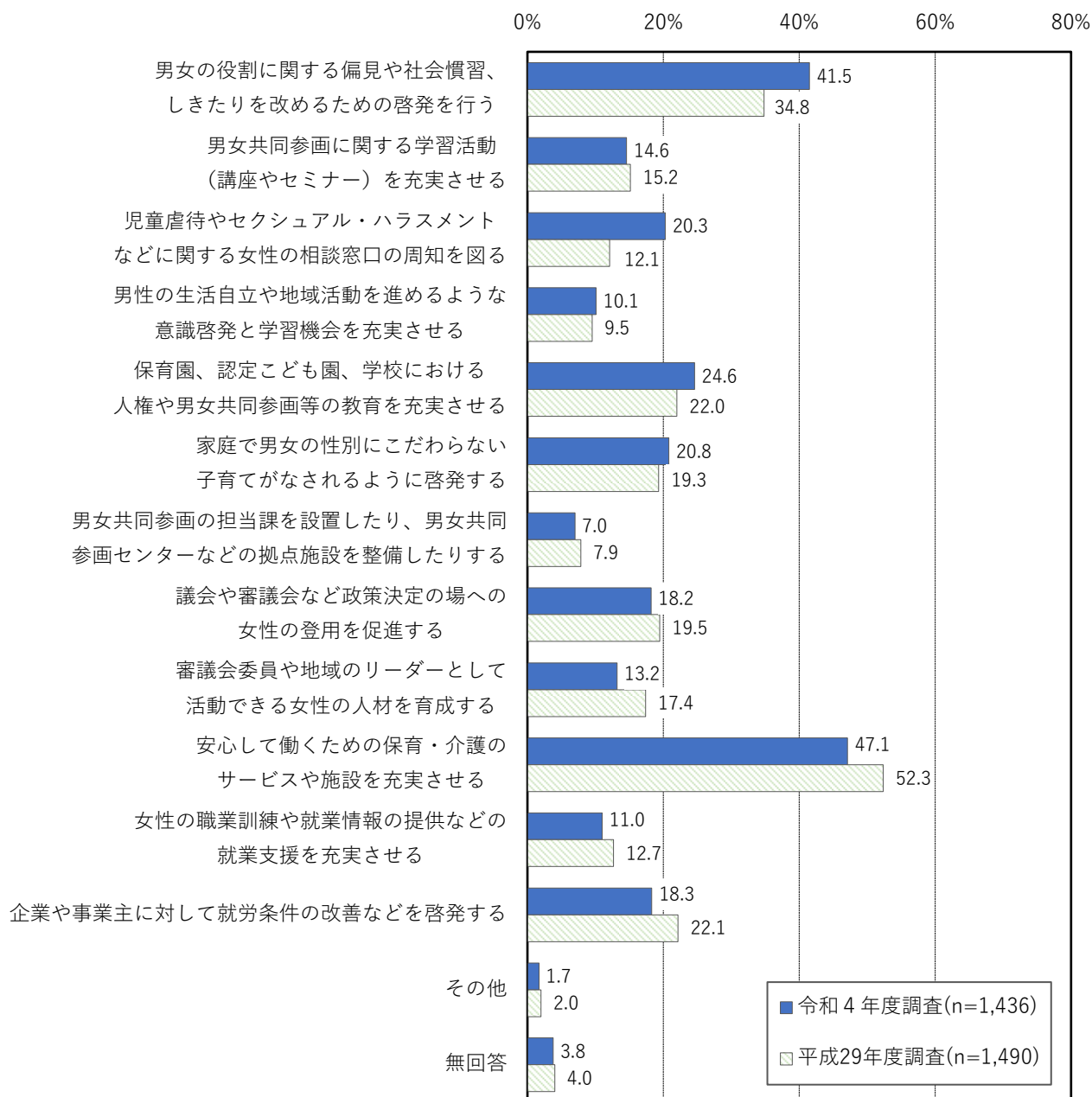
- 「クオータ制」という言葉について、「内容を知っている」と回答した割合は5.8%となっています。
- 性別にみると、女性の「聞いたこともない」の割合は男性に比べて3.0ポイント高くなっています。
- 年齢階層別にみると、男女の29歳以下を除く年齢階層では「内容を知っている」の割合が1割を切っています。

問 26 あなたは、男女共同参画社会を実現するためには、今後、加東市では特にどのようなことに力を入れるとよいと思いますか。次の中から3つまで（最大3つ）選んで番号に○をつけてください。

(%)		男女の役割に関する偏見や社会慣習、しきたりを改めるための啓発を行う	男女共同参画に関する学習活動（講座やセミナー）を充実させる	児童虐待やセクシュアル・ハラスメントなどに関する女性の相談窓口の周知を図る	男性の生活自立や地域活動を進めるような意識啓発と学習機会を充実させる	保育園、認定こども園、学校における人権や男女共同参画等の教育を充実させる	家庭で男女の性別にこだわらない子育てがなされるように啓発する	男女共同参画の担当課を設置したり、男女共同参画センターなどの拠点施設を整備したりする	議会や審議会など政策決定の場への女性の登用を促進する	審議会委員や地域のリーダーとして活動できる女性の人材を育成する	安心して働くための保育・介護のサービスや施設を充実させる	女性の職業訓練や就業情報の提供などの就業支援	企業や事業主に対して就労条件の改善などを啓発する	その他	無回答
全体 (n=1,436)		41.5	14.6	20.3	10.1	24.6	20.8	7.0	18.2	13.2	47.1	11.0	18.3	1.7	3.8
性別	女性 (n=812)	39.8	13.3	18.6	9.5	25.5	24.6	5.8	15.5	12.2	52.2	12.9	19.7	1.6	4.4
	男性 (n=616)	44.0	16.2	22.6	10.9	23.4	15.7	8.8	21.8	14.8	40.3	8.4	16.4	1.8	2.9
女性	29歳以下 (n=80)	36.3	7.5	21.3	6.3	32.5	22.5	3.8	20.0	13.8	50.0	13.8	23.8	0.0	1.3
	30歳～39歳 (n=97)	39.2	5.2	19.6	7.2	29.9	26.8	4.1	12.4	8.2	62.9	15.5	26.8	5.2	1.0
	40歳～49歳 (n=129)	42.6	9.3	10.1	8.5	24.0	31.0	3.1	12.4	10.1	51.9	19.4	19.4	0.8	1.6
	50歳～59歳 (n=157)	36.3	11.5	20.4	9.6	22.3	22.9	8.9	15.9	11.5	54.8	12.7	22.9	1.3	4.5
	60歳～69歳 (n=164)	43.9	15.9	18.3	14.0	25.0	25.0	3.7	17.7	13.4	49.4	9.8	18.3	0.6	3.7
	70歳以上 (n=185)	38.9	22.2	21.6	8.6	24.3	21.1	8.6	15.1	14.6	48.1	9.7	13.0	2.2	10.3
男性	29歳以下 (n=57)	42.1	8.8	29.8	10.5	22.8	22.8	10.5	15.8	8.8	38.6	8.8	28.1	1.8	1.8
	30歳～39歳 (n=66)	45.5	12.1	21.2	18.2	19.7	18.2	3.0	13.6	10.6	43.9	15.2	18.2	1.5	0.0
	40歳～49歳 (n=103)	43.7	17.5	29.1	2.9	23.3	15.5	4.9	18.4	15.5	36.9	10.7	17.5	3.9	1.0
	50歳～59歳 (n=124)	43.5	9.7	26.6	10.5	22.6	16.1	8.1	27.4	17.7	40.3	6.5	16.9	0.0	4.0
	60歳～69歳 (n=132)	45.5	21.2	18.9	13.6	24.2	13.6	12.1	21.2	20.5	38.6	9.8	14.4	2.3	2.3
	70歳以上 (n=133)	42.9	21.8	15.0	11.3	24.8	13.5	11.3	26.3	10.5	42.9	3.8	11.3	1.5	6.0

- 男女共同参画社会を実現するために、今後、加東市で特に力を入れるべき取組について、「安心して働くための保育・介護のサービスや施設を充実させる」と回答した割合が最も高く47.1%となっています。次いで、「男女の役割に関する偏見や社会慣習、しきたりを改めるための啓発を行う」（41.5%）、「保育園、認定こども園、学校における人権や男女共同参画等の教育を充実させる」（24.6%）と続いています。
- 性別にみると、女性は「安心して働くための保育・介護のサービスや施設を充実させる」の割合が最も高く、男性に比べて11.9ポイント高くなっている一方、男性は「男女の役割に関する偏見や社会慣習、しきたりを改めるための啓発を行う」の割合が最も高く、女性に比べて4.2ポイント高くなっています。また、女性の「家庭で男女の性別にこだわらない子育てがなされるように啓発する」の割合が、男性に比べて8.9ポイント高くなっています。
- 年齢階層別にみると、女性の29歳以下、30歳～39歳の「保育園、認定こども園、学校における人権や男女共同参画等の教育を充実させる」の割合が、男性の同年齢階層に比べて高くなっています。

《経年比較》



- 平成 29 年度調査と比較すると、「安心して働くための保育・介護のサービスや施設を充実させる」は 5.2 ポイント低くなっている一方、「男女の役割に関する偏見や社会慣習、しきたりを改めるための啓発を行う」は 6.7 ポイント、「児童虐待やセクシュアル・ハラスメントなどに関する女性の相談窓口の周知を図る」は 8.2 ポイント高くなっています。

## IV 自由意見（抜粋）

### 1. 男女の地位等について

#### （1）男性が優遇（優位）

-----  
全ての人がそうだとは思いませんが、共働きで子供がケガや病気をしたら迎えに行くのはだいたいの女性。全てにおいて向いている方、やれる方がやれば良いと思います。現状そんな事ができる社会にはなっていませんが。日本人でいる限りムリかなと思います。（女性 ,40 歳～49 歳）

-----  
私も働きたいと言うと、夫から、自分と同じくらい稼げるなら働きに行っていと言われてた事があります。そんな仕事、あるわけないとあきらめました。人が変わらなければどうにもならないと思います。（女性 ,29 歳以下）

-----  
日本では、男性の仕事時間が長い事で、家事との両立が出来なくなっている。男性の育休取得する人が他国と比べて少ないので、先進国でのセミナー・シンポジウムに参加して男女共同参画の推進レベル up してほしい。（男性 ,50 歳～59 歳）

-----  
日本は大昔から男尊女卑が根付いてしまっている。少しは時代が進む事に解消はされている部分もありますが一度根付いた習慣を改善するのは困難だと思う。だから日本はこれからも今のような状態が半永久的に続くと思う、嫁姑問題と同じです。男女平等なんて無理です。理想です（女性 ,40 歳～49 歳）

-----  
全て男女平等が良いとは思いませんが、家事の分担などにより女性がもっと働きやすくなれば良いなと思います。男女共同参画に関する事ではないと思いますが、共働き家庭にとって PTA や地域の役員などは負担がとても大きいです。（女性 ,30 歳～39 歳）

-----  
女性も体力的に出来ない事もあるのでそこは考えてほしい。口が災いの人が多いと思われれます。女性も女らしく。男も男らしく。これが平等だと思います。（男性 ,60 歳～69 歳）

-----  
男性優遇の風潮が社会に大きい現状では難かしいと思う。まずは家庭内の男女の意識の違いから改める方法を模索すべきだと思う。（男性 ,60 歳～69 歳）

-----  
女性の家事子育ては、あたり前となっていて、どうしてもパートでしか生活ができない。男性の帰宅が遅く、ぜったいに代わってもらったり、自分の時間などありえない。毎日、女性が…と言うのである前に男性がとにかく早く帰宅できることが大前提だと思います。夜遅くに帰ってきて、何ができますか、PTA で夜出るとき、本当に大変です。それでもひきうけていますが、本当に必要な会議なのか考えて数をへらしていがないと病気になります。昔からやっているから今も・・・これはやめるべきです。（女性 ,40 歳～49 歳）

-----  
日本社会は、やはり戦前の家長制が根強いです。私たち 60 代前半の世代は、少しは平等に近づきつつあるとは思いますが、表面的なことで根っこは変わりません。かつて同業者であった夫婦でも、家事、育児介護は当然女の仕事でありえない重圧があります。その上、農家では妻は労働者です。日本の男女平等など遠いと、生まれた子供に教育することです！女子供を下に見る風土がたまらなくいやです！（女性 ,60 歳～69 歳）

---

男性の家事への意識改革が必要。女性があたりまえのようにしている家事の内容を聞きとりして、なぜ、男性が家事をしないのかを考えるべき。女性の社会活動は自分の準備以前に、子供の世話、夫の世話、家事が出来なければできないという現状が改善されなければ、女性の負担が大きいばかりです。女性の社会参加が増えない原因は負担が減らないからです。(女性,40歳~49歳)

---

三世帯同居だと家庭内での性別格差が大きく、女が下、男が上という昔からの男尊女卑が根強い。(女性,40歳~49歳)

---

今までの日本は、男女の就労条件で女性の賃金が低く年金生活になっても、女性が損をしている様に思う、男女平等の社会になります様に。(女性,70歳以上)

---

女性が中心となって大きな役職につくことは大切だが、家庭との両立が難しすぎる。仕事を5時に終えて、子どもの世話をし、家事をして上手くやっていくためには、まず長い時間仕事をしているのが当たり前だという固定観念をなくしてほしい。出産を期に仕事がしにくくなった。男性はライフスタイルが変わろうが仕事に変化がないのはくやしい。(女性,30歳~39歳)

---

学校のPTA、家事をして地域の行事までしていた時、これにさらに仕事をしている人はすごい大変だと感じました、地区の役員は男性がほとんどですが、女性は少ないとはいえ今のままで良いと思います。それより令和の今、婦人会はなくなったとはいえ地区役員に女性部があり、踊りたくもないのに加東市の夏祭に出なくてはいけないのは何とかしてほしい。老人会のお茶くみとか、女性がすればいいと思われている雑用も女性部の仕事。踊りたい人が踊れば良いし、それで踊り手がないのなら他の方法でのやり方を考えていけばいいと思います。(女性,40歳~49歳)

---

昇進や給料面で男女格差を感じます。結婚・出産の為退職する(だろう)と思われがちでその結果、未婚、少子化が広がっている気がします。女性が昇進し、管理職になり意見や提案が求められる会社、社会になって欲しいです。加東市内にそんな企業が増えればいいですね。(女性,40歳~49歳)

---

## (2) 女性が優遇(優位)

---

男女平等を強く訴える人々に出会いますが、生まれ持った男女という性別による能力の差を理解できるようになるにはまだまだ難しいと思います。そもそも男女平等の話では、「女性の社会進出」を取り上げられがちですが、男性が不利益を受けていることも多々あると感じます。本当の意味での「平等」とは何なのか。理解に苦しみます。(男性,30歳~39歳)

---

高齢者程、自分が今まであたり前のようにやってきた事を否定されるのは抵抗があるし、理解が難しいと思いますので男女平等は難しい問題だと思います。若い人に期待したいです。しかし、今までの風習などで、私も含めてですが、女性がまだ甘えているように感じる事も多いです。責任に対して逃げている。(女性,60歳~69歳)

---



## 2. 社会環境等の改善について

男女平等はなかなか難しいように感じます。母親は父親よりも子供の事が気になります。父親に任せられない面もあると思います。ただ今の時代、女性も仕事を持つ人が増えてきています。仕事にも責任がありますが、男女ともに、子育て優先の社会になれば良いと感じます。(女性,40歳~49歳)

現在女性の多い職場で働いています。ここ数年、育休・産休を取得する方が相次いでおり、そのこと事体は良いことなのですが、人が減っている分、働いている人へのしわ寄せが大きく、正直しんどいです。これからは男性も育休を取得するという時代、育休を取りやすい雰囲気づくりはもちろん、働いている側の負担やストレスが大きくなるような工夫もあればいいと感じています。(女性,29歳以下)

男女共に、職場で皆が助け合いながら、気軽に子育てや介護でたいへんな人をサポート出来る。そんな取り組みがあれば良いと思います。(女性,50歳~59歳)

子供を育てる母親という目線でしか解答できていないのでかたよりがあると思います。子供をもつ以上、子供を優先して生活を送る為には周りに迷惑をかけてしまうことも多々あり、時に悩みます。働きながらの子育ては時に体力だけではなく精神も弱ってしまいます。結婚する人、しない人、子供もつ人、もたない人、みんなに男女問わず自分らしい生活が実現できるといいと思いました。(女性,40歳~49歳)

地域の役職など、女性自身の意識改革が必要だと思います。(男性,70歳以上)

男性の育休所得ができやすいようにしてほしい。(男性,29歳以下)

企業や事業主から変えていかないと何も変わらないと思う。そこが一番のネック。(男性,40歳~49歳)

女性のリーダーを増やしていくのは、とてもいいことだと思いますが、女性をリーダーに置くと、家庭と仕事の両立がしづらくなる可能性があります。また、子供がいれば仕事を優先させてばかりもできないですし、家庭を優先させれば、職場の雰囲気に影響を与える可能性もあります。女性の立場はまだ難しいと感じています。なので、女性リーダーを置くなら、その代わりに務められる男性や女性の育成、また育児等で休んだ時の周りへの負担の軽減も必要だと思います。代わりを作るのも必要ですが、今の業務量の減少も必要だと思います。(女性,30歳~39歳)

男の人も女の人も平等になんでも出来る社会になっていけるようにしてほしい。パートでもボーナスがもらえたり退職金制度や老後安心して暮らせるようにするため、仕事面での安定性がある社会になってほしい、してほしいです。(女性,40歳~49歳)

地域組織内の3%の意識が変われば変わると聞いた事があります。男女共同参画について言い続ける事、伝え続ける事が重要だと思います。(女性,40歳~49歳)

男女区別なくという事は不可能だと思う。子育てについてもやはり女性が子どもの成長、生活の支援を主に行なっていく方が子どもの為にもよい事と思う。社会としては、女性が子育てしやすい環境・就業規定を整え、子育てしながら社会にも十分仕事を通していくべきだ。(女性,60歳~69歳)

---

男性優位社会は、家庭において子育て等をせず協力しない会社人間を作り上げている。変えていくには、男女同賃金、休みを取りやすい社会を作る。(女性,60歳~69歳)

---

職場で聞いた話で、妊娠し、職場を退職後に仕事を探そうとも保育園には、仕事をしている人しか入れないので仕事を探す時間すら確保できなかったらしいです。また、職場復帰の意志なく、産休育休を7年も利用している方なども聞きます。難しいですが、短期間だけでも保育園を利用できるサービスの拡充(周知)ができればと思います。加西市、姫路市など近隣に男女で有名な地域がありますが、少しでも男性女性ともに意識改革が進むことを祈ります。(女性,30歳~39歳)

---

子育て後の女性が正社員で復帰できる制度をつくってほしいです。(女性,30歳~39歳)

---

男女が経済的にも社会的にも対等に活動が行えるような社会の制度や慣行のあり方を考える必要がありますがまだまだ。介護される側の希望としては、男女が互いに人権を尊重して「男性・女性」だからというイメージをあてはめてしまうことなく、社会生活をおくれる時代が遅からずやって来たらよいと思います。女性の看護師さんの方が頼みやすい面もあります。(女性,50歳~59歳)

---

男性トイレにオムツ替えの台がない時点で、育児は女性がすると決めつけているように見えます。生後1ヶ月~3ヶ月頃の乳児は抱っこひもが使えないことが多く、またスーパー等のカートも使えない。そうすると乳児を持つ親は買い物もできず、引きこもり、孤立してしまう。乳児でも使える。コットンの様なカートを開発し、現実的にするべきだ。(男性,29歳以下)

---

以前より加東市はしきたりが強すぎて、女性は仕事がバリバリしにくい。保育園、こども園をもっと土日どちらかでも利用しやすいように先生を増やしたり対応して頂きたい。介護の面でもケーブルテレビの内容をもっと生かしたり、フレイルの方を少しでも減せるように働くところや作業ができる所など増えればなと思います。(女性,30歳~39歳)

---

働く女性が増え、今後リーダー的立場になる女性が増えるのに期待します。(男性,60歳~69歳)

---

女性の社会進出等がいられていますが、本人の意志が尊重されるべきだと思います。上司の評価が上がる等の理由で安易に女性を管理職等にするのは理解できません。又、そういう理由で上に上げたのなら責任を持って教育や手助けしていく義務があると思う。放置はよくない。まずはヒアリングをすることが必要かなと思う。(女性,40歳~49歳)

---

やる気のある女性はどんどん前に出たら良いですが、男女で向き不向きな仕事内容がありますので完全に平等にするのは難しいと思います。環境を整える事が大事だと思います。(男性,30歳~39歳)

---

労働時間を短くしない限り、男女共同参画は実現しない。生活するための金銭をかせぐのがせいっぱい。(男性,50歳~59歳)

---

そもそも全てにおいて男女平等とはどういうことか?体力の差、子供を産む能力等、全てにおいて同じは無理があるのではないのでしょうか。しかしながら男でも女でも能力を活かせる職業はあります。でも、男にしかできない職業もあるのは事実だと思います。スパッと線引きするのではなく、それぞれの特性を活かし、それを対価として得られる社会造りが必要だと思います。加東市だけでなく、全国的な取り組みが必要だと思う。(男性,50歳~59歳)

---

---

地域で会議を行う場合、各家庭から 1 人が参加することが多いが、男性が参加する家庭が殆どである。これを、各家庭から男性 1 人・女性 1 人の 2 人で参加する様にすれば、男性と女性の両方の意見が反映され易くなると考えます。市内の会議や行事で参加する人を選出する時、男女の人数が同じになる様にするのが、直ぐに出来て、最初に行える事だと思います。また、役員の数も男女同じ人数になる様な対応も良いのではないのでしょうか。(男性,70 歳以上)

---

### 3. DV、セクシュアル・ハラスメント、差別、偏見について

---

セクハラ相談窓口を女性としているが対象は女性にかぎらない。(男性,60 歳~69 歳)

---

今 80 代の姑は、「女だから」との考えが固定され、自分達の考えを変えずに生きてこれたと思います。「ハラスメント」は、家庭の中でもあり、その傷を負いながら強く生きている「妻(嫁ではなく)」はこの地域にはたくさんいると思います。そんな考え方はすべきではないと、とらえている 60 代、70 代の姑さんがたくさんおられるのでとても頼りになりますね。このアンケートは、その根強い「ハラスメント」の質問はありませんでしたね。(女性,50 歳~59 歳)

---

差別と偏見を減らし、相手の意見や考えに耳を傾けることや、共感することができれば、暮らしやすい社会の実現の一歩になるのでは！(女性,70 歳以上)

---

### 4. 教育、意識について

---

これからの若い世代に対して、男女共同参画の教育が大切だと思います。それぞれお互いを尊重し合える教育を受け大人になれば、社会も変わってくると思いますが…。とても難しい課題ですね。(女性,40 歳~49 歳)

---

昔のことを思えば、男女が同じ立場で取り組める場面が増えてきて、良い社会になってきたと思う。ただ、長く慣習としてあった男女の違いを簡単になくすことは難しいと思う。次代を担う子供たちに教育をし、その子供たちが大人になった時に、前進していくのだと思う。今はまだ、途中なのだと思う。加東市が、前向きに取り組んでくださるので、良い市になるだろうと思います。(女性,70 歳以上)

---

男女共同参画社会の実現は、すなわち人間としてこの世に生まれ命を大切に、お互いが尊重しあえる『人権』教育にあるのではないかと思います。情報社会の中でお互いが傷つけあうことのないよう『心』を育てる教育を生涯教育として実践することが大切ではないかと思います。(女性,70 歳以上)

---

まずは家庭での意識改革。(女性,60 歳~69 歳)

---

今は LGBTQ もあり、男女にとられるのではなく、一人の人間として、安心できる生活や仕事ができる支援が必要になってくると思います。(女性,29 歳以下)

---

---

人権について教育現場で学んだことは自覚する以上に考え方に影響すると思うので、子どものころから積極的に学ぶべきだと思う。また、性教育、特に生理の実情や避妊・中絶に関して、正しいことを学んでいけるようにすることは女性の活躍推進、身体的自由のために必要だと思う。感度の高い中高生の意見を積極的に取り入れていくべきだと思う。(女性,29歳以下)

---

講座やセミナーに参加する人は、意識が高い方が多いと思います。何も感じていない、ひっかかっていない、無意識の層を変えていくことが大切だと思いますが…なかなか難しいですね。発信は必要だと思います。(女性,40歳~49歳)

---

大人は男女の偏見等、気持ちを改めることはむずかしいと思うので、今からの子供達には男女の偏見等を持たない、無くすという教育を学校ですて頂きたいです。今の若い親の方はそのようなことを教育しているとは思えないので教育現場でしかできないと思います。(男性,50歳~59歳)

---

女性だから、男性よりも勉強や就活に力を入れなくてもよいという話を親世代の人間から聞いたことがある。このような古い考えが未だに残っているからこそ、能力による登用となったときに女性よりも男性の割合が多くなるのではないだろうか。この問題を解決するために、女性の能力向上を図る機会(大学進学等)を少なくとも男性と同程度にする意識を持つ必要があると考える。(男性,29歳以下)

---

子どもが小学生(低学年)の間は子育てに専念すべき。愛情不足の子どもが増えている。親は責任持って子育てすべき。(女性,60歳~69歳)

---

今回、このようなアンケートを実施していただき、ありがとうございます。少しずつ女性の活躍や管理職に女性になっている数は増えつつあるが、まだまだ昔のしきたりや男尊女卑の考え方が根強くのこっている。議員や教育委員会の人事等は依然、男性の方が多く、女性の視点からの理解が進まない要因の一つになっている。またLGBTQの理解もなかなか進まず、啓発されているとはいえ、まだまだ苦しんでおられる姿、打ち明けられないつらさがある。このことは人権や部落差別など、根強く残っていることを感じる。まずは地域や職場での研修を地道に粘り強くつみあげ、理解を得るとともに、学校教育等でも小中一貫教育を視野にいれた9年間の系統的なカリキュラムの構築をしていく必要がある。また教育現場やコミュニティ、市全体など、人権意識を高める加東市人権の日、幸せを考えるプロジェクトなど、地域やコミュニティを巻き込んですすめていければと考える。機会を見つけて、男女参画に貢献したい。(男性,40歳~49歳)

---

言葉が先にいっているだけの様に思う。男性の教育が出来ていない、もっと男性が協力する必要があると思うが、どう関わるかわからない人が思ったより多いのではないかと思う。女性を大切に思う人が多いとは思いますが、それが共同参画につながっていない。大切に作る心とみんなの行動をつなげることが出来ていない。このことが問題である。個の大切さ、人が生まれてくる意味を伝えて行くべきではないか。生まれてくる確率を考えると人はキセキです。(男性,60歳~69歳)

---

## 5. 市への要望

前回アンケートからの5年間で、まちづくりのためにどのような活動をされたのでしょうか？（女性,50歳～59歳）

男女共同参画のリーダーの育成が必要。（男性,70歳以上）

男女双方の意見が同じくらい尊重され、より良い社会を実現できるようがんばって下さい。（男性,30歳～39歳）

折角意見を申し述べたので、集約だけにとどまらず、本当に実施に向かってとりくんで下さい。（女性,70歳以上）

啓発を行うだけではない。市でできること、変更できることはどんどん変更して行ってほしい。目につくものが男女区別のないものになっていくと見る人の意識も変わっていくと思う。（男性,40歳～49歳）

基本的、「男女共同参画」というものに予算をつけてまで取りくむことには反対です。（男性,40歳～49歳）

男女共同参画と、男女平等、対等の区別の分らない人が居る様に思う。男女平等は基本ではあるが、男女は別々の物で、異性が同じ事はできないのが事実である。しかし共同で同じ事を行うのであれば新しいルールを早く作ってほしい。（男性,60歳～69歳）

様々な立場の考え、思いが有ると思うので話し合う場を多く作り意見交換等、考え方について盛り上げていけばいいと思います。

考え方：1.教育、研修、勉強会、2.見える化、3.誰が見ても分かる様にする。（男性,60歳～69歳）

女性の声を取り入れる仕組みや文化を作ることが重要であり、リーダーの数を合わせるの、見た目をととのえるだけの愚策になりやすいと思います。計測可能なKPI設定をしたいのは分かるがゴールを見失わない施策をして頂けることを望みます。（DEIを強く推進したい企業に勤めていて思うことです）（男性,40歳～49歳）

まずは、市役所での低賃金の雇用の改善からだと思います。（女性,40歳～49歳）

市がやっていることが見えない。拠点施設(男女共同参画センター)が必要。（男性,60歳～69歳）

市議会で意見などを反映できるよう、女性議員をできれば半数登用できるようになれば良いと思う。行政の方針に何の疑問を持つこともなくyes manばかりの議員たちに絶望感がある。女性リーダーを育てて欲しい。（女性,60歳～69歳）

市会議員も半分は女性としたら？立候補を受付ける人を男、女同数して議長は男、女年度ごと交代で決めては？今年は女性の中から議長を選挙し、来年は男性からという風に。まず加東市が変わらないと一般市民が変わるわけないでしょ！（男性,50歳～59歳）

議員の男女数を決める（-,60歳～69歳）

そもそも、男女共同参画には批判的な人が多い。無理に女性登用を推進するよりも、能力による登用を徹底し、男女共に学習（能力向上）の機会を提供する事が重要。市政としては、共同参画業よりも産業誘致を進めるべき。女性の経済的基盤が家事には無いのが問題なので先に就業機会を増やすべきである。平均賃金が全国有数レベルになってから共同参画に取り組むがよい。（男性,40歳～49歳）

---

男女共同参画を実現させるには多くの課題がありますが、まずは経済的な差をなくしていくことが大事だと思います。男女問わず同一労働、同一賃金を確立することと、新しい法律を作ることも大事ですが、ネックとなっている法律を変えていくことも必要だと思います。目に見えることから実践していけば意識は変わると思います。加東市でも本当によい市にしていこうと思われるなら前歴にこだわることなくよいと思うことは行政の力で実行してほしいです。(女性,70歳以上)

---

男女共同参画は、今後の少子高齢化社会では、大変重要なテーマであり、広く意見を集め、分析し改善を推進して欲しいです。特に地方なので重点課題だと思います。活動を支持します。

---

年代による理解の格差があると思います。画一的な取り組みではなく、ハードルは高いと思いますが、各年代に最適な対応を検討・試行してください。(男性,60歳~69歳)

---

加東市ウィメンズリーダー塾は、同じ講師(アドバイザー?)ばかりでなく、他の視点も入れて啓発していかないとどうしても片寄ってくるのは否めないと思うので、次年度以降違う切り口を見たいと思います。ヨロシクお願いします。(女性,50歳~59歳)

---

## 6. その他

---

実現するためには、もっと女性がいろんな「力」を付けていかないと、言葉だけに終わりそう。時間がかかると思いますが、進んでいけばいいと思います。(女性,50歳~59歳)

---

問14「女性が推薦されても断わるケースがあります。を言い切るのは、世論誘導ととらえられます。(そもそも男性でも断わりますし)この設問はよくないです。同和問題が、小中教育を地道につづけることで改善しています。私の世代は、それを実感しています。男性主義、ジェンダーも同じと考えます。しかし、子育ては、やはり母親が子どもと一緒にすごすことが重要であることは不偏的には変わりようがないと思います。それを否定してはいけません。「母性」です(女性,40歳~49歳)

---

若い子(30台位より下)、はものすごく変化しています。50台のおじさん、お婆さんの意見より若い世代を何事にも参加させるべき。そして頭から否定しないこと。若い世代にまかせましょう。(女性,60歳~69歳)

---

行動することが一番。言葉だけで、何にも行動していないことが多いです。行動あるのみ!(女性,50歳~59歳)

---

社会慣習やしきたりをすべて改めることは難しいけど、家庭においては確実に男女共同参画がなされている様に思う。(女性,60歳~69歳)

---

女性がリーダーになることが必ずしも良いというわけではない。身体面において男性の方が強い。女性の意見を受け入れることのできる男性が増えていくことを望む。(女性,40歳~49歳)

---

共同参画については各家庭で良く話し合い、担当を決める必要がある。社会進出も必要であるが、個人家庭が大事である事を認識し進めてほしい。(男性,70歳以上)

---

男性だから女性だからと区別せず、やりたい事を男女問わず参画できる社会が良い。(男性,50歳~59歳)

---

みんなが、お互いを支え合う心をもって、自分も他人もお互いが支え合って成長していける様になるのが良いと思う。より良い日本をとり戻そう!!(男性,60歳~69歳)

---

---

多様な選択肢も可能に。いろいろな声を拾ってほしい。(女性,60歳~69歳)

---

もし、無人島で生活しなければならない時、女、男と言ってられない。双方とも生きる為には、生活の為にはどんなこともしなければ生きれないし、甘えてはいられない。何事も経験、それは無駄にならないし役に立つ。(女性,70歳以上)

---

性格の強い弱いもあると思います。一概には言えませんが、考えとしては、よいことだと思えます。社会活動において女性の活躍されることは良いことだとは思いますが。只、男らしさ、女らしさの矛盾点は、難しいなと思いました。(男性,40歳~49歳)

---